岐阜県吉城郡宮川村

宮ノ前遺跡 Ⅲ
塩屋島遺跡

平成12年度　村内遺跡発掘調査報告書

2002年3月

岐　阜　県
宮川村教育委員会

序　　文

宮川村では、伝統を守り、教養を身につけ、文化の高い村をつくることを村民憲章に掲げて、村民一体となって、よりよい文化を創るために努力をいたしております。

近年の埋蔵文化財に対する関心は、国民的関心事といってよいほどの高まりを見せております。宮川村におきましても、貴重な発掘調査の成果が、新聞やテレビなどで報道され、考古学の研究者はもとより、広く一般の方々にも注目されるようになりました。

こうした耳目を奪う「発見」は、飛騨地域のみならず、日本列島の黎明期を知る上でも、貴重な資料であるといっても過言ではありません。

宮ノ前遺跡は、後期旧石器時代から歴史時代にいたる複合遺跡として知られ出土した昆虫や種子類・樹幹類などの分析から、環境的な変化をも知ることができるなど、他に類をみません。

出土した縄文土器も、草創期から晩期までの長期にわたり、一遺跡においてほぼ、すべての段階を網羅しているという点でも驚異的といえます。

周辺地域の各種開発に先立ち、平成６年度に引き続いて、平成12年度に遺跡の範囲と内容の確認を目的として、発掘調査を実施いたしました。

今回、平成12年度の調査成果を報告書にまとめ、ここに『宮ノ前遺跡Ⅲ・塩屋島遺跡』を刊行するに至りました。

なお、文化庁・岐阜県教育委員会をはじめ、地元有志や研究者の各位から、暖かいご理解と、多大なるご協力をいただきました。関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

これらの資料を、「飛騨みやがわ考古民俗館」に展示するとともに、大いに活用され、今後の考古学研究がさらに進むことを念じ、序文にかえさせていただきます。

平成14年３月

宮川村村長　　石腰　保昭

例　　言

1．本書は、平成12年度に国庫および県補助金の交付を受けて実施した村内遺跡発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、岐阜県教育委員会指導部文化課の指導により、宮川村教育委員会が実施したものである。
3．発掘調査は、平成12年７月から12月まで断続的に実施し、報告書作成にかかる整理作業は、平成13年度に実施した。
4．調査は、調査団と事務局で行い、事務局は、宮川村教育委員会が担当した。
5．発掘調査および整理作業の実施にあたっては、早川正一（南山大学人文学部教授）、林直樹（元宮川村教育委員会 埋蔵文化財調査室主任）の指導・助言を受けた。
6．本書の執筆は、小島功（宮川村教育委員会主事）が担当した。
7．図版の作成は、小島功・立田佳美が分担した。
8．縄文土器・土製品・石器・石製品の実測およびトレース、拓本は、小島功・立田佳美・谷口里美・谷畑千春が行なった。
9．遺物写真の撮影は、直井隆雄氏による。
10．本書に記載した宮川村地形図は、国土地理院２万５千分の１地形図（白木峰・有峰湖・飛騨古川・船津）を複製したものである。
11．本遺跡の資料は、宮川村教育委員会が保管する。

凡　　例

1．本書に記載するセクションおよび遺構は、次の縮尺を基準とした。

　セクション…１/100・１/20　　遺構配置図…１/100

　遺構…１/40

2．本書に記載する遺物の実測図は、次の縮尺を基準とした。

　縄文土器･･･１/３、弥生土器･･･１/３、須恵器・陶器･･･１/３、

　旧石器および小型石器類･･･２/３、中型の石器類･･･１/３、

　大型の石器類 ･･･１/６、石製品 ･･･１/３、土製品･･･２/３、

　銭貨類･･･２/３

3．宮ノ前遺跡出土の遺物の注記は、遺跡の略称「M」に続けて調査年、グリッドおよび出土層位をそのまま記入した。

　たとえば、Ｍ００Ｎ２６Ⅲとあるのは、宮ノ前遺跡の2000年度調査、Ｎ２６区、第Ⅲ層から出土したことを示す。

4．塩屋地区の試掘調査によって出土した遺物の注記は、塩屋の頭文字である「Ｓ」に続けて、調査年、試掘抗番号、出土層位を記入した。

　たとえば、Ｓ００ＴＰ１Ⅲｂとあるのは、塩屋地区の2000年度調査、第１試掘抗、第Ⅲｂ層から出土したことを示す。

目　　次

序　文…… Ⅰ
例　言…… Ⅲ
凡　例…… Ⅳ

第１章　宮川村の環境
第１節　地理的環境…… 1
第２節　歴史的環境…… 3

第２章　宮ノ前遺跡周辺の環境と調査概要
第１節　宮ノ前遺跡周辺の環境…… 5
第２節　調査の経緯…… 7

第３章　宮ノ前遺跡の層序
第１節　基本層序…… 9
第２節　各層の分布…… 11

第４章　宮ノ前遺跡の遺構…… 12

第５章　宮ノ前遺跡出土の人工遺物
第１節　縄文土器…… 17
第２節　弥生土器…… 32
第３節　石　　器…… 33
第４節　石製品・土製品…… 81
第５節　歴史時代の遺物…… 87

第６章　塩屋地区（塩屋島遺跡）の試掘調査
第１節　塩屋周辺の環境…… 89
第２節　調査の概要と出土遺物…… 92

挿　図　目　次

第１図　宮川村地形図 …… 2
第２図　宮ノ前遺跡周辺地形図 …… 5
第３図　稲葉遺跡出土の旧石器 …… 6
第４図　宮ノ前遺跡グリッド配置図および調査区域図 …… 8
第５図　セクション図 …… 10
第６図　遺構配置図１ …… 13
第７図　遺構配置図２ …… 14
第８図　配石遺構実測図１ …… 15
第９図　配石遺構実測図２ …… 16
第10図　縄文土器拓影１　Ⅰ期第１群土器、Ⅱ期第１・２群土器、Ⅲ期第１群、Ⅳ期第１群、Ⅴ期第１・２群土器、Ⅵ期第１群土器 …… 18
第11図　縄文土器拓影および実測図２　Ⅵ期第２～４群土器、Ⅶ期第１群土器 …… 20
第12図　縄文土器拓影３　Ⅶ期第２群土器、Ⅷ期第１群土器 …… 21
第13図　縄文土器拓影および実測図４　Ⅷ期第１～４群土器 …… 23
第14図　縄文土器拓影および実測図５　Ⅸ期第１・２群土器 …… 24
第15図　縄文土器拓影および実測図６　Ⅹ期第１群土器、Ⅺ期第１群土器 …… 25
第16図　縄文土器拓影および実測図７　Ⅺ期第２群土器(1) …… 26
第17図　縄文土器拓影および実測図８　Ⅺ期第２群土器(2) …… 27
第18図　縄文土器拓影および実測図９　Ⅻ期第１群土器(1) …… 28
第19図　縄文土器拓影および実測図10　Ⅻ期第１群土器(2)、第２・３群土器 …… 29
第20図　縄文土器拓影および実測図11　Ⅻ期第４群土器 …… 30
第21図　弥生土器拓影 …… 32
第22図　ナイフ形石器、石刃実測図 …… 33
第23図　打製石斧実測図(1) …… 36
第24図　打製石斧実測図(2)、横刃形石器実測図 …… 37
第25図　磨石実測図 …… 38
第26図　凹石実測図 …… 39
第27図　有縁石皿、台石実測図 …… 41
第28図　石鏃実測図 …… 42
第29図　スクレイパー実測図 …… 43
第30図　石錐実測図 …… 45
第31図　磨製石斧実測図 …… 45
第32図　据置砥石実測図 …… 46
第33図　手持砥石、擦切石器実測図 …… 47
第34図　敲石Ⅰ類実測図 …… 49
第35図　敲石Ⅱ類、礫器実測図 …… 50
第36図　楔形石器、異形石器実測図 …… 51
第37図　礫石錘、有溝石錘実測図 …… 51
第38図　石棒、石刀実測図 …… 82
第39図　異形石棒、石冠、御物石器、その他の石製品実測図 …… 83
第40図　耳栓、土器片円板実測図 …… 84
第41図　須恵器・灰釉陶器・中世陶磁器類拓影および実測図 …… 88
第42図　銭貨類拓影 …… 88
第43図　塩屋地区付近地形図 …… 89
第44図　塩屋地区試掘抗設定図 …… 93
第45図　塩屋地区試掘調査セクション図 …… 94
第46図　塩屋地区試掘調査出土の人工遺物 …… 95

付　表　目　次

宮ノ前遺跡

第１表　ナイフ形石器一覧表 …… 33
第２表　石刃一覧表 …… 33
第３表　縄文時代の石器組成表 …… 35
第４表　打製石斧一覧表 …… 54
第５表　横刃形石器一覧表 …… 56
第６表　磨石一覧表 …… 58
第７表　凹石一覧表 …… 61
第８表　有縁石皿一覧表 …… 63
第９表　台石一覧表 …… 63
第10表　石鏃一覧表 …… 64
第11表　スクレイパーⅠ類一覧表 …… 66
第12表　スクレイパーⅡ類一覧表 …… 67
第13表　スクレイパーⅢ類一覧表 …… 68
第14表　石錐一覧表 …… 70
第15表　磨製石斧一覧表 …… 71
第16表　据置砥石一覧表 …… 71
第17表　手持砥石一覧表 …… 72
第18表　擦切石器一覧表 …… 72
第19表　敲石Ⅰ類一覧表 …… 73
第20表　敲石Ⅱ類一覧表 …… 73
第21表　礫器一覧表 …… 74
第22表　楔形石器一覧表 …… 74
第23表　礫石錘一覧表 …… 78
第24表　有溝石錘一覧表 …… 78
第25表　異形石器一覧表 …… 78
第26表　石核一覧表 …… 78
第27表　石棒一覧表 …… 85
第28表　石刀一覧表 …… 85
第29表　異形石棒一覧表 …… 85
第30表　石冠一覧表 …… 85
第31表　御物石器一覧表 …… 85
第32表　その他の石製品一覧表 …… 85
第33表　耳栓一覧表 …… 86
第34表　土器片円板一覧表 …… 86
第35表　銭貨類一覧表 …… 87

塩屋地区（塩屋島遺跡）試掘調査

第36表　打製石斧一覧表 …… 96
第37表　横刃形石器一覧表 …… 96
第38表　磨石一覧表 …… 96
第39表　凹石一覧表 …… 96
第40表　台石一覧表 …… 96
第41表　石錐一覧表 …… 96
第42表　敲石Ⅰ類一覧表 …… 97
第43表　石棒一覧表 …… 97
第44表　石棒原石一覧表 …… 97

図　版　目　次

図版１．上：宮ノ前遺跡全景（南より）
下：宮ノ前近景（北西より）
図版２．上：５列トレンチ完掘状況
下：Ｅ列トレンチ完掘状況
図版３．上：17列トレンチ完掘状況
下：26列トレンチ完掘状況
図版４．上：Ｖ５区東西セクション（北東より）
下：Ｅ列南北セクション（北東より）
図版５．上：Ｈ17区東西セクション（北東より）
下：Ｒ26区東西セクション（北東より）
図版６．上：配石遺構１検出状況
下：配石遺構２検出状況
図版７．上：配石遺構３検出状況
下：配石遺構４検出状況
図版８．上：有溝石錘出土状況
下：石刀出土状況
図版９．上：石冠出土状況
下：石冠出土状況
図版10．上：宮ノ前遺跡作業風景
下：宮ノ前遺跡作業風景
図版11．上：ナイフ形石器・石刃
下：Ⅷ期第５郡土器
図版12．上：Ⅸ期第２郡土器
下：Ⅺ期第１郡土器
図版13．上：Ⅻ期第１郡土器
下：Ⅻ期第３郡土器
図版14．上：石棒
下：石刀
図版15．上：異形石棒
下：石冠

第1章　宮川村の環境

第1節　地理的環境

岐阜県の最北端に位置する宮川村は、飛騨地域に属しているものの、北側を富山県と接しており、気候風土は、富山県南部の山間域とほぼ同様であるといえる。

村の年平均気温は11.3℃、降水量は2000㎜前後である。より内陸にあって標高の高い高山盆地などと比較すると温かい地方といえるが、年間の降雪累計が10mを超える豪雪地帯であり、年間降水量のほぼ2割が降雪としてもたらされる。

宮川村の中央を流れる宮川は、位山を源流とし、高山盆地を経て、同村のほぼ南北を縦断している。宮川は、県境で神岡町を流れる高原川と合流し、富山湾へ注ぐ神通川となる。したがってこの地域は、宮川下流域であると同時に、神通川上流域ということができよう。

この宮川で形成された村内のV字型の峡谷は深く、南から順に小谷・森安谷・菅沼谷・打保谷・大谷・洞谷・戸谷などの支谷が合流している。

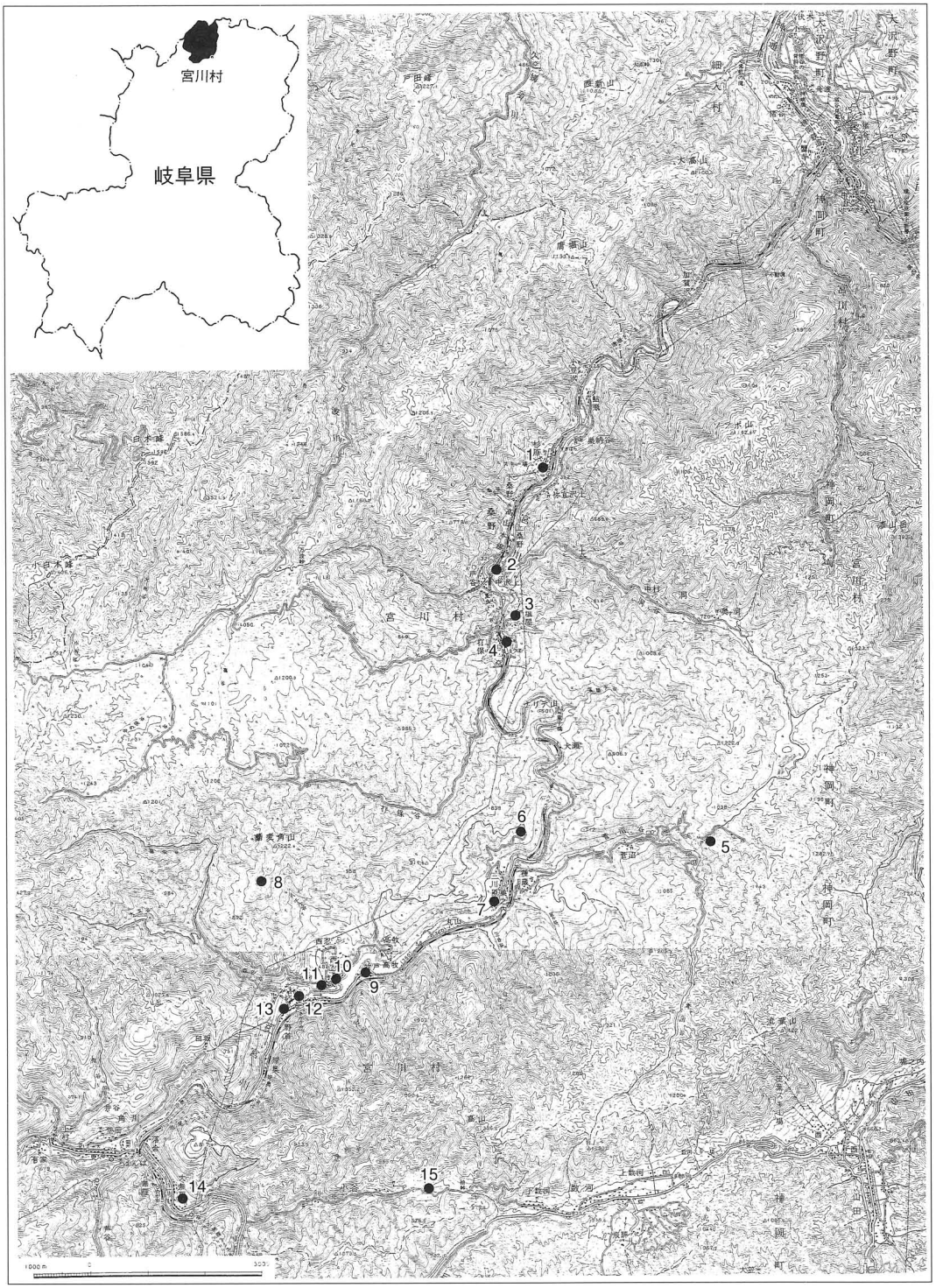
これらの支谷は、断層脈に起因するものが多く、村内には、大規模な活断層として有名な跡津川断層をはじめ、これに平行あるいは直交、斜交する水無断層・杉原断層・茂住谷断層・菅沼断層・打保断層・ニコイ断層・無雁断層などの枝断層が走っている。

宮川村の周囲には、西部の白木峰（1596m）・小白木峰（1436m）・蕎麦角山（1222m）、北部の唐堀山（1160m）、南部の流葉山（1423m）・高山（1336m）、東部の漆山岳（1393m）・ソンボ山（1193m）など1000mを超える山々が尾根を連ねている。一方、宮川に沿って点在する低位段丘面の標高は300～400m程度で、これらの山々との比高差が著しい。このため、宮川に面する箇所は急峻な斜面が多い。

各所に小規模ながら河岸段丘が点在し、現在の集落の多くがこうした河岸段丘上に形成されている。また、遺跡の分布も同様の段丘上に存在していることが多い。

村域の地質は、古い岩石として有名な飛騨変成岩類と中生代に形成されたとされる船津型花崗岩類が主体をなし、南東部では前者に付随する結晶質石灰岩の分布をみる。また、特殊な岩石として、塩屋地区に分布する流紋岩質溶結凝灰岩（塩屋石）があげられ、柱状節理を含むことから縄文時代の石棒の材料として利用されている。

宮川村における植生は、白木峰や万波地区に残る天然林が、多雪環境を背景とするいわゆる日本海型植生を示すが、標高300～800mにわたる集落立地地域周辺では、焼畑や製炭など定期的な干渉がなされ、ほとんど天然林が存在していない。これらの地域は、クリーコナラ群集の優先する二次林域となっている。宮川村誌によると、少なくとも哺乳類15科38種・鳥類24科61種・爬虫類4科7種・両生類5科11種・魚類8科20種・昆虫類70科329種が生息しているという。このほか、軟体動物のカワシンジュガイが記載されているが、現在では絶滅してしまった可能性が高い。



第１図　宮川村地形図（付：主要遺跡分布）

１．杉原瑞穂遺跡、２．中沢上遺跡、３．塩屋金清神社、４．入与遺跡、５．ニコイ岩陰遺跡、
６．三川原上野遺跡、７．宮ノ上遺跡、７．忍城址、９．のばた遺跡、10．宮ノ前遺跡、11．稲葉遺跡、
12．家ノ下遺跡、13．堂ノ前遺跡、14．岩野遺跡、15．牛首遺跡

第２節　歴史的環境

宮川村には、その地理的環境によって、古くから飛騨・越中の交流ルートが形成されていたものと推定される。村内から出土する後期旧石器時代や縄文時代の遺物から、北陸地方の影響を強くうかがい知ることができる。

後期旧石器時代では、岩野遺跡・稲葉遺跡・宮ノ前遺跡の３ヶ所の遺跡が知られているにすぎないが、同時代の遺跡が少ない飛騨地方にあっては、高根村および朝日村周辺・下呂町湯ヶ峰周辺に次ぐ遺跡数である。

稲葉遺跡からは、硬質頁岩を素材とする東山系のナイフ形石器群が確認されている。県内においては、唯一の東山系石器群で、同系統の石器群の南限にあたるものと考えられる。また、宮ノ前遺跡の国道360号線新設改良工事に伴う発掘調査では、瀬戸内系や茂呂系のナイフ形石器群、２ないし３系統の細石刃石器群なども出土しており、複数の集団が、短期的なキャンプサイトを展開したものと想定される。

縄文時代草創期の遺跡は、後期旧石器時代の遺跡と同様、遺跡数も限られる。該期の資料は、岩野遺跡において有舌尖頭器が採集されているほか、宮ノ前遺跡では、神子柴系の石器群や隆起線文・爪形文・表裏縄文などの土器群が確認されている。

早期になると、遺跡数の増加傾向がみられ、宮ノ前遺跡をはじめ、ニコイ岩陰遺跡・堂ノ前遺跡・塩屋金清神社遺跡・牛首遺跡など各所で該期の土器が確認されている。

前期では、遺跡数の減少傾向がみられる。前期の遺物は、堂ノ前遺跡・宮ノ前遺跡・牛首遺跡などから出土しているが、特に前半の土器群が乏しい。

続く中期には、遺跡数や遺物の出土量が次第に多くなる傾向がみられる。特に中葉から後葉にかけて最も顕著となる。杉原瑞穂遺跡や堂ノ前遺跡では、集落跡が確認され、定住化の様相を示している。また、宮ノ前遺跡では、水場を中心とした遺構が確認され、多くの堅果類が出土している。各遺跡から出土した該期の土器からは北陸地方の強い影響を認めることができる。この傾向は、これ以降、縄文時代を通しておおむね続くようである。

後期になると、塩屋金清神社遺跡で、「塩屋石」と呼ばれる石材を用いた石棒の製作が盛行する。塩屋石製の石製品は、杉原瑞穂遺跡・宮ノ前遺跡・家ノ下遺跡など村内の遺跡をはじめ、神岡町・古川町・高山市・大沢野町・魚津市などの遺跡からも出土している。

後期中葉には、それまでみられた北陸土器型式の優位が一旦途切れ、関東方面の影響が強くあらわれるが、後期後葉には、再び北陸系の土器型式の土器群が主体を占める。

後期から晩期にかけての特徴として、石棒・石刀・石冠・御物石器などの石製品の増加があげられる。家ノ下遺跡では、配石墓や土壙が検出され、限られた面積にも関わらず多くの石製品が出土している。

縄文時代晩期中葉以降、次第に遺跡が減少していく様相を示す。特に弥生時代から古墳時代に

かけて、極端に遺物量が少なくなる。稲作といった生業形態の変化から、開けた沖積地へと移住したものと推定される。

奈良から平安時代にかけては、前段階に比べてやや遺跡数が増える。宮ノ前遺跡や岩野遺跡などから、該期の須恵器が出土している。特に宮ノ前遺跡では、1軒ながら9世紀代の住居址が検出されており、遺物の量も多いことから周辺に古代の集落が展開していたものと推定される。

中世の遺跡として、忍（志野比）城跡や小谷城跡などの山城跡がある。集落跡は確認されていないが、現在の集落域には、少量ながら古瀬戸や珠洲焼などの中世遺物の散布がみられる。

近世には、村内を縦走する越中西街道が交通ルートとして利用され、国境の小豆沢には、口留番所が設置されていた。同番所における嘉永2年（1849）11月の通行人調べには、138人が記載され、1日あたり4～5人の通行があったと推定される。

越中西街道は、中世の街道を再整備したものと考えられるが、古代以前においてもほぼ同様のルートが利用された可能性がある。現在、国道360号線バイパスの新設改良工事が進められているが、旧来からの国道は、越中西街道のルートと重なる部分が多い。

＜主要参考文献＞

岐阜県教育委員会、1984：『歴史の道調査報告書 越中西街道』.

小林知生・早川正一、1973：「奥飛騨宮川村ニコイ岩陰遺跡調査報告」『びぞん通信』、22．美術史文化研究会。

小林知生・早川正一、1981：『岐阜県吉城郡宮川村塩屋金清神社遺跡－石棒主体の縄文後期文化－』、人類学博物館紀要3．南山大学人類学博物館。

土田吉左衛門・寺門隆治・早川正一、1975：「奥飛騨宮川村稲葉の旧石器」『びぞん通信』、34．美術史文化研究会。

宮川村教育委員会、1995：『国道360号線バイパス改修工事に伴う発掘調査概報』.

宮川村教育委員会、1996：『岐阜県吉城郡宮川村堂ノ前遺跡発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、1996：『岐阜県吉城郡宮川村杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、1997：『岐阜県吉城郡宮川村家ノ下遺跡発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、1998：『岐阜県吉城郡宮川村宮ノ前遺跡発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、1999：『岐阜県吉城郡宮川村塩屋金清神社遺跡Ｂ地点発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、2000：『岐阜県吉城郡宮川村塩屋金清神社遺跡Ａ地点発掘調査報告書』.

宮川村教育委員会、2000：『岐阜県吉城郡宮川村宮ノ前遺跡発掘調査報告書Ⅱ』.

宮川村誌編纂委員会、1981：『宮川村誌』、通史編（上）.

森本一雄、1987：『飛騨の城』、郷土出版社。

吉村睦志、1995：「宮川村塩屋金清神社遺跡出土石棒の成分分析結果」『別冊行動と文化』、3．行動と文化研究会。

第２章　宮ノ前遺跡の環境と調査概要

第１節　宮ノ前遺跡周辺の環境

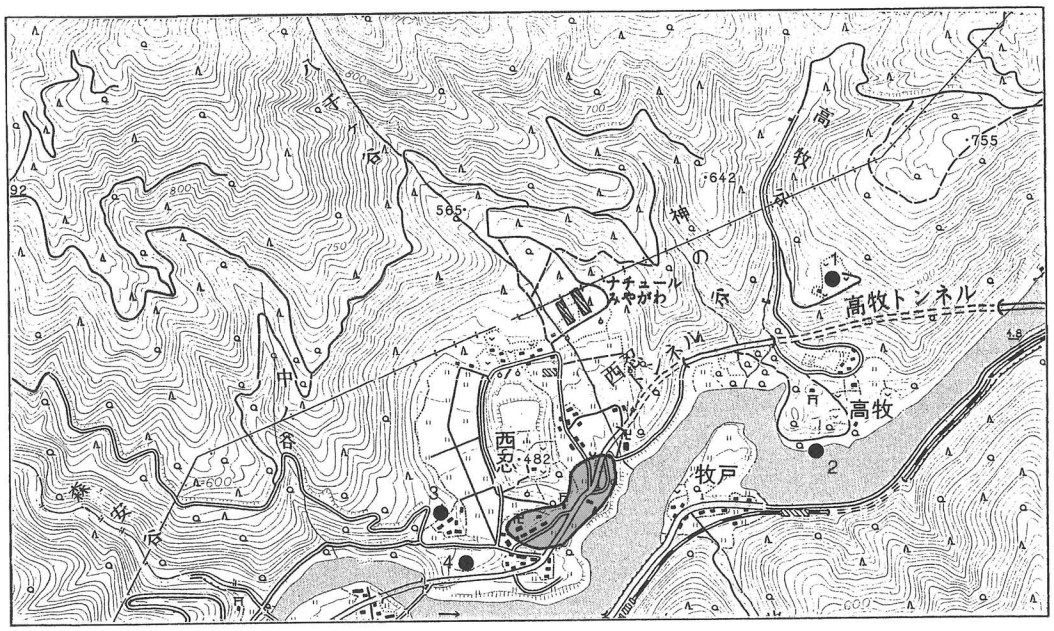
１．宮ノ前遺跡の環境

宮ノ前遺跡は、宮川村の中央からやや南に位置する大字西忍に所在する。西忍地区は、西に標高1222ｍの蕎麦角山がそびえ、東に宮川が流れる河岸段丘上の集落である。段丘ほぼ中央には、牛山と呼ばれる独立丘陵が位置している。牛山の東には、蕎麦角山を水源とする八千ヶ谷によって扇状地が形成されている。段丘の南部には、跡津川断層が、ほぼ東西方向に断層崖を形成している。安政５年（1858）に起きたマグニチュード7.0と推定される大地震は、この断層に起因するとされる。現在では、圃場整備によって、その面影を止めていないが、牛山の西、断層の背後には、「あわらヶ池」と呼ばれる沼沢地が存在していた。

宮ノ前遺跡の名称は、段丘の東端部に鎮座する神明神社に由来する字名から付けられたが、遺跡の範囲は、字宮ノ前・うづか・前田・堂ノ軒にまたがる（第２図にその範囲を示す）。

平成元年度から７年度の国道360号線新設改良工事に伴う発掘調査や平成６年度の範囲確認調査の成果によって、各地点で異なる状況が確認されている。

字うづか周辺では、縄文前期後葉の土器が主体をなし、奈良・平安時代の集落が想定される。字前田では、低湿地を含み、後期旧石器～縄文草創期・早期のキャンプサイト、縄文中期後葉の土器を主体とする湧水周辺の配石や杭列などの水場遺構、低湿地の東では縄文後期中葉～後葉の



第２図　宮ノ前遺跡周辺地形図（Ｓ：1／25,000）

土器を主体とする祭祀的な区域が確認されている。

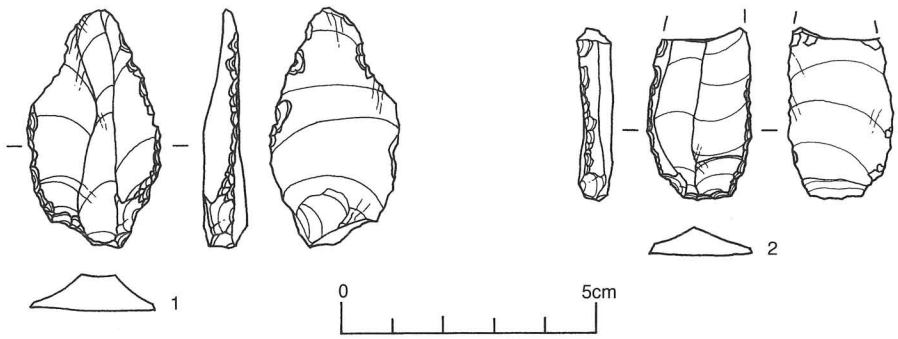
今回の調査区は、字宮ノ前に位置する。後述するが、縄文晩期中葉の土器を主体とし、配石遺構に異形石棒や石冠などの石製品を伴っている状況が確認できた。また、絶対量が多いとはいえないが、晩期後葉から弥生時代にかけての遺物も他の地点に比べ目立っている。

2．宮ノ前遺跡周辺の遺跡

宮ノ前遺跡を含む西忍段丘には、旧石器時代から中・近世におよぶ各時期の遺物が散布しており、『宮川村誌』は、本村随一の遺跡地と評している。同地区の遺跡には、宮ノ前遺跡のほか、稲葉遺跡・山ノ上遺跡・忍（志野比）城跡が知られている。また、隣接する高牧地区には、高牧嶋遺跡・上高牧平遺跡が所在する。各遺跡の概要については次の通り。

2－1）稲葉遺跡（第2図4）

宮ノ前遺跡の南西、字稲葉に所在する。後期旧石器時代・縄文時代・古代・中世の遺物が採集されている。昭和48（1973）年、南山大学の早川正一らによって試掘調査が実施され、後期旧石器時代の遺物包含層が確認された。現在までに、硬質頁岩および濃飛流紋岩を主要石材とするナイフ形石器（第3図1・2）・先刃掻器・削器・楔形石器・小型尖頭器・石刃・剥片や安山岩製の礫器などが知られている。



第3図　稲葉遺跡採集のナイフ形石器

2－2）山ノ上遺跡（第2図3）

宮ノ前遺跡のほぼ西、字山ノ上に所在する。縄文時代・古代の遺物が採集されている。縄文土器や打製石斧・石錐などの石器類、古代の須恵器が採集されている。

2－3）忍城（志野比城）跡（第1図8）

蕎麦角山の中腹、標高1,100mの字城山に所在する中世山城跡。詰城は二段に構築され、本丸500m²と二の丸616m²が知られている。本丸と二の丸の東北から南にかけて、空堀とこれを取り巻く土塁が認められ、西には、腰曲輪・帯曲輪がみられる。

2－4）高牧嶋遺跡（第2図2）・**上高牧平遺跡**（同1）

宮ノ前遺跡の北東、大字高牧字嶋および字上高牧平に所在する縄文時代の遺跡。高牧嶋遺跡については、現在ダム湖底に水没しているため、詳細は不明だが、上高牧平遺跡からは、打製石斧や横刃形石器などの石器類が採集されている。

第２節　調査の経緯

１．調査に至るまで

宮ノ前遺跡の所在する西忍は、戦前から遺跡地として知られており、昭和10年の『飛騨石器時代地名表』に記載がみられる。小字の記載なく、大字名のみであるが、最も広大な範囲におよぶ宮ノ前遺跡を指すことは想像に堅くない。

平成元年度には、国道360号線の新設改良工事に伴って、宮ノ前遺跡の緊急発掘調査が開始された。平成５・６年度には、木質遺物を含む低湿地の調査を行ない、後期旧石器時代から縄文時代草創期・早期にかけての遺物包含層が確認された。これにより、後期旧石器時代から歴史時代にいたる複合遺跡と判明した。特筆すべきは、開地遺跡において後期旧石器時代から縄文時代草創期・早期へと遺物の時間的変遷が追え、さらに植物遺体や昆虫遺体が多く検出されたことによって、これらの分析によるデータから当時の遺跡の環境復元を可能にした点である。

平成６年度には、今後予想される各種開発に先駆けて、緊急発掘調査区に隣接する箇所の範囲確認調査を実施し、遺物包含層の広がりを確認することができた。この調査区では、低湿地の外にあたり、木質遺物の出土をみなかったが、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけて追加資料を得られ、縄文土器の主体となる時期も緊急発掘調査区とは異なっている状況が確認できた。

平成11年度、宮ノ前遺跡周辺の開発を検討・模索する村の意向から、平成12年度事業として、追加の範囲内容確認調査を実施することとなった。

今回は、平成６年度に実施した範囲確認調査区のほぼ北にあたる西忍コミュニティセンターのグランドを中心に調査区を設定した。

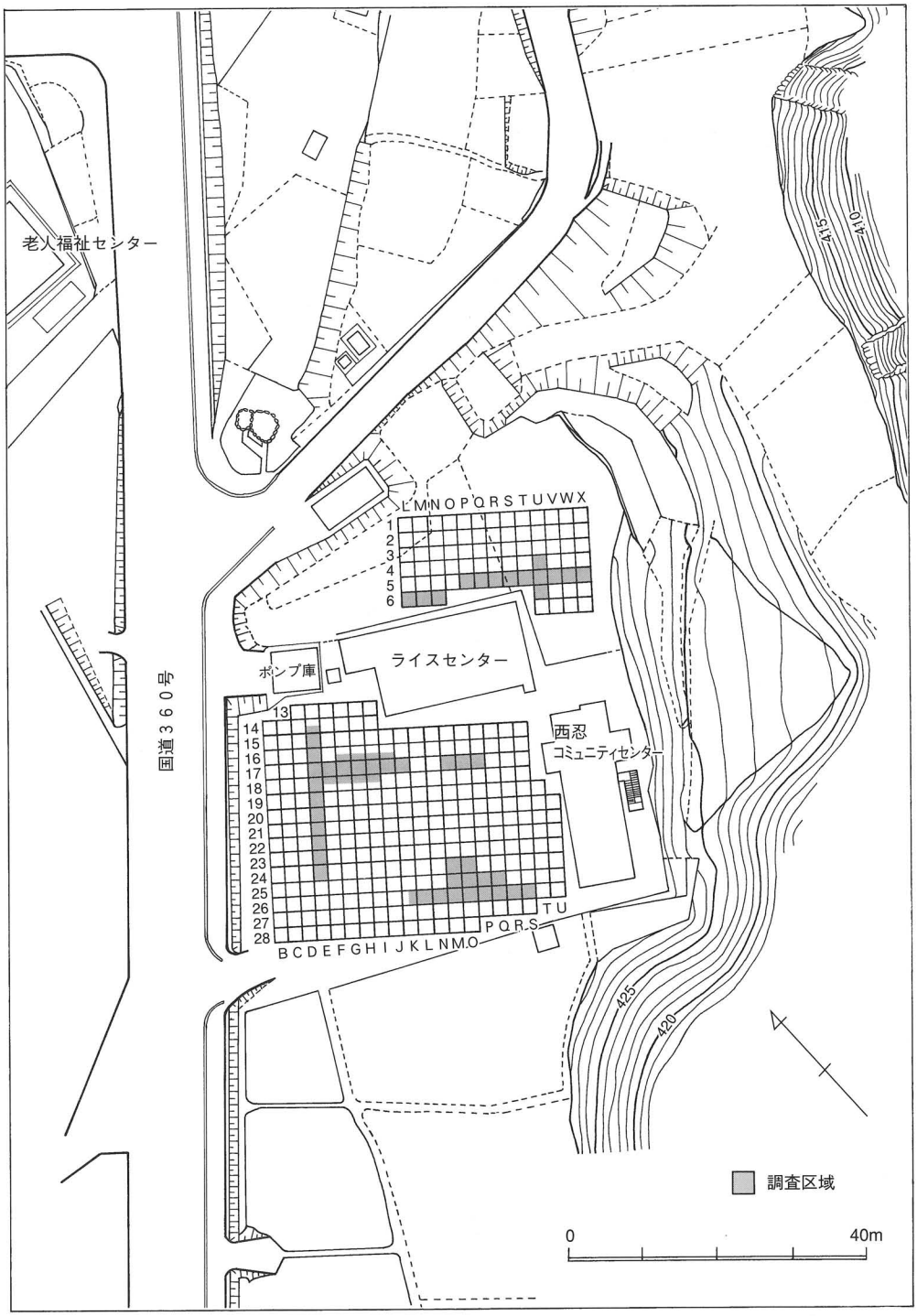
２．調査団の編成

調査団は、以下のとおり編成した。

調査団長	石腰　保昭	宮川村村長
調査副団長	野村　丈正	宮川村教育委員会教育長（平成12年度）
	幅　雅久	宮川村教育委員会教育長（平成13年度）
調査指導	岐阜県教育委員会社会教育文化課文化室	
調査担当	小島　功	宮川村教育委員会主事
作業員	井戸　信子　岡田　英一　大下　里枝　金山　勝彦	
	櫻井　昌則　佐藤　勇治　田頭　全弘　谷畑　通造	
	中瀬　千秋　山岸　茂	
整理作業員	佐藤　孝子　谷口　里美　谷畑　千春　野村　真美	
	山小瀬　弘子	

事務局

庶務	小島　功	宮川村教育委員会主事



第４図　宮ノ前遺跡グリッド配置図および調査区域図

第３章　宮ノ前遺跡の層序

第１節　基本層序

１．はじめに

平成元年から平成７年度にかけて実施した国道360号線新設改良工事に伴う宮ノ前遺跡発掘調査では、宮ノ前地点・前田地点・うづか地点・センター地点の４地点で、立地や土層の堆積状況が異なることから、それぞれの地点で基本層序を設けた（『宮ノ前遺跡発掘調査報告書』：1998を参照）。

今回設定した調査区は、国道発掘調査区のうづか地点と宮ノ前地点の中間に位置する。このため、両地点の土質や堆積状況と類似する部分もみられるが、遺物包含層の時期において異なる状況を示している。

平成６年度調査区の層序は、水成堆積層中あるいはこれを挟んで遺物包含層が形成されていた点で、国道調査区の前田地点と共通している（『宮ノ前遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』：2000を参照）、今回の調査区では水成堆積由来の遺物包含層はみられなかった。

２．基本層序（第４図）

平成12年度調査区の基本層序は、次のとおりである。

第Ⅰａ層：グランド表土層。黄褐色・赤紫褐色・灰褐色の砂礫からなる搬入盛土である。

第Ⅰｂ層：黄褐色の砂を含む茶褐色ないし黒褐色土層。よく絞まり、整地のためてん圧された盛土とみられる。遺物を多く含み、第Ⅳ層のものとみられる黄褐色の砂を含んでいることから、下位または周辺の遺物包含層の撹乱土層と判断される。旧石器から中世までの遺物を含む。

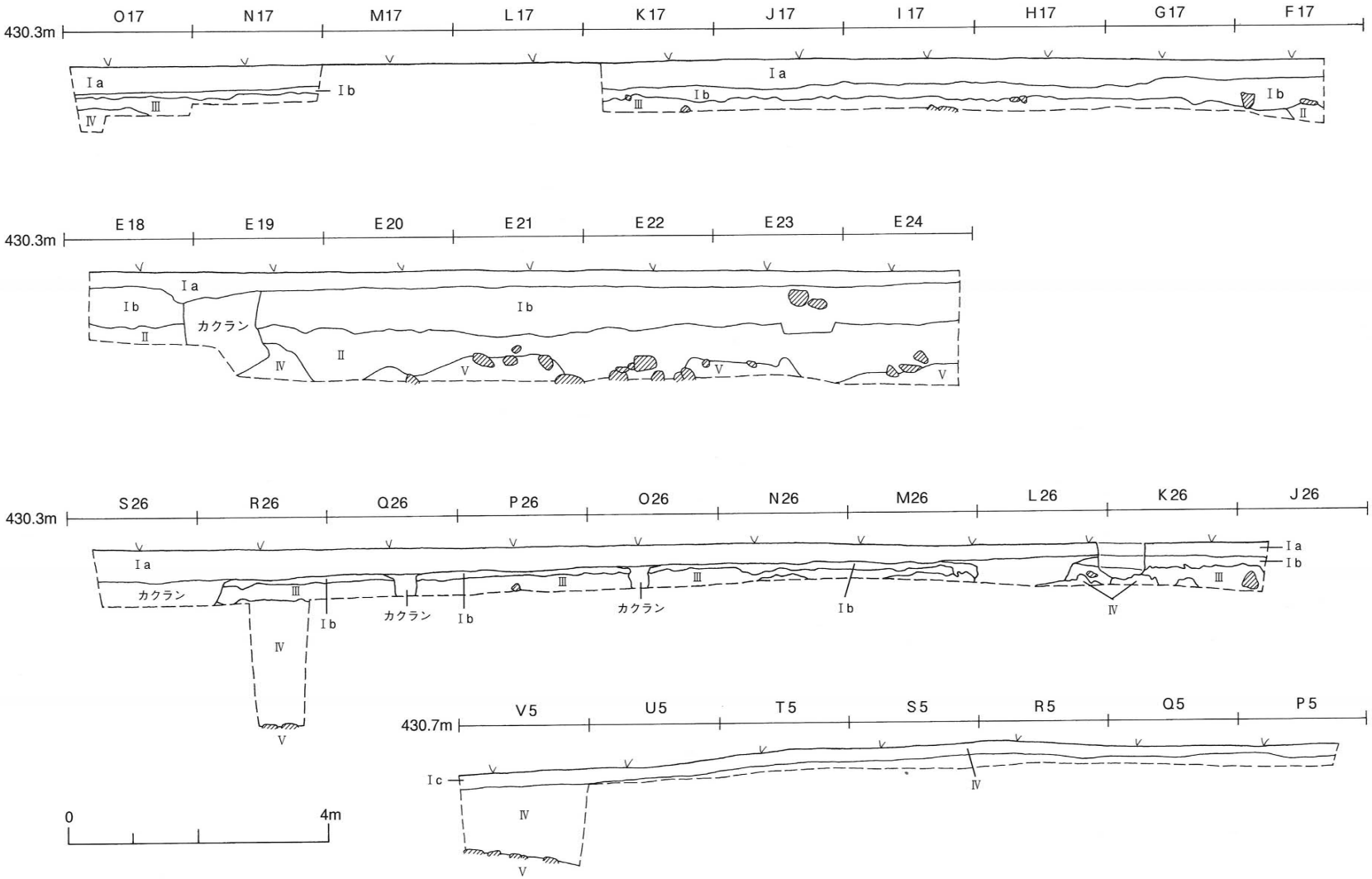
第Ⅰｃ層：現況耕作土。調査区の北東に設定したトレンチの現況表土である。畑地および果樹園の表土で、遺物は、まばらに存在する程度である。

第Ⅱ層：旧耕作土。部分的に巨大な礫を含む黒色土層である。黒みが強いが、上層に比較して柔らかく旧畑地の耕作土とみられる。縄文晩期後葉の土器が目立ったが、弥生・古代・中世の遺物も包含される。

第Ⅲ層：暗茶褐色ないし暗黄褐色土層。カーボンを多く含み、縄文時代後期および晩期の土器を主体とする遺物包含層である。上部と下部では若干色調が異なり、下部では黄色が強いものの同一トレンチ内では、上下に対する遺物の大きな時期差は認められなかった。しかしながら、17列付近では後期前葉の土器が主体となるのに対し、26列付近では晩期中葉の土器が主体となる。遺物の内容からそれぞれ別な層の可能性もある。

第Ⅳ層：黄褐色の砂・シルト・粘土の互層。地山層とみられる層で、遺物の包含は確認できなかった。

第Ⅴ層：大型礫を含む黄褐色砂礫層。旧河床とみられる。



第5図　宮ノ前遺跡セクション図

第２節　各層の分布

１．第Ⅱ層の分布

Ｅ18～24とＦ17・18にのみ確認された。聞き取り調査から、ほぼこのラインで旧西忍尋常小学校の校庭の境があったものみられる。境には石垣が存在し、校庭前は一段低い畑地になっていた証言にも符合する。また、Ｅ列トレンチでは、上層の第Ⅰｂ層も厚く、整地によって現在のグランドに造成された状況を確認できる。

２．第Ⅲ層の分布

縄文時代の遺物包含層である第Ⅲ層は、Ｏ17～Ｆ17区とＪ26～Ｒ26区の周辺において分布が確認された。17列では縄文後期前葉から中葉の土器が主体となり、26列では晩期前葉から中葉にかけての土器が主体となる。

これまでの調査では、後期前葉および晩期前葉・中葉に属す土器は、減少傾向のなかにあると判断してきたが、単に地点によって主体となる時期が異なっている可能性を示している。

３．第Ⅳ・Ⅴ層の分布

基盤とみられる層は、砂・シルト・粘土の互層（第Ⅳ層）からなり、最下部は大型礫を含む砂礫層（第Ⅴ層）となる。部分的ではあるが、いずれの層からも遺物を検出することはできなかった。この状況を確認したのは、Ｖ５区・Ｒ26区・Ｅ列である。国道調査区のうづか地点や平成６年度調査区でも確認されている。

４．過去の調査区との対応

今回の調査区で確認された遺物包含層の第Ⅲ層については、平成元年から７年にかけて実施した国道調査区および平成６年度の確認調査区の遺物包含層との対応は難しい。

縄文後期前葉および晩期中葉の遺物は、過去の調査区においても確認されているが、人為的な撹乱層または、時期巾の認められる水成堆積の遺物包含層から出土している。

第Ⅰｂ層および第Ⅱ層は、宮ノ前地点の第２層または第３層に対応するものとみられる。また基盤となる第Ⅳ層に相当する層は、いずれの調査区でも確認されている。第Ⅴ層とした旧河床礫層も平成６年度の確認調査区と国道調査区のうづか地点で確認されており、この中間に位置する平成12年度調査区を結ぶラインが確認できた。

第４章　宮ノ前遺跡の遺構

１．遺構の分布（第６・７図）

今回確認された遺構は、配石遺構および土坑である。なお、確認調査を目的とするため土坑の精査は行なっておらず、その性格や時期について不明といわざるを得ない。

遺構は、第Ⅳ層：黄褐色砂層に掘りこまれ、この層が遺構面となる。土層の色調からプランの確認は比較的容易であった。

遺構を確認したのは、17列トレンチ周辺と26列トレンチ周辺である。５列周辺およびＥ列、では遺構の分布がみられなかったが、耕作や掘削によって滅失したものとみられる。

現在の西忍コミュニティーセンターは、旧坂上中学校（昭和22～35年）、旧西忍小学校（昭和14～21年）の校舎があった場所であり、整地やグランドの拡幅など、削平や盛土によって地形が変化している。

なお、Ｆ・Ｅ列は、旧西忍小学校グランドの境に当たり、石垣に区切られた、かつての耕作地とみられる。

配石遺構の周辺には、石棒・石刀・異形石棒・石冠といった石製品が分布している（第６図参照）。出土した土器から縄文晩期中葉の配石遺構とみられ、村内の家ノ下遺跡と類似している。

同じ西忍コミュニティーセンターグランドで、国道360号線バイパス新設改良工事に伴って調査された宮ノ前地点（平成元年調査）の延長トレンチから２点の石冠が出土しており、これらの配石遺構に関連する可能性がある。

17列付近では、後期前葉の土器を主体とする遺物包含層が分布し、26列付近の状況と若干異なっている。配石もまばらで、石製品の分布もみられなかった。Ｈ17区およびＦ17区には、やや大型のプランが確認でき、住居址の可能性もあるが断定するに至っていない。

かつて、グランド内では、配管工事によって埋甕が出土している。出土地点は、不明ながら縄文中期後葉の串田新式あるいは、これに後続するとみられるもので、飛騨みやがわ考古民俗館に保管されている。

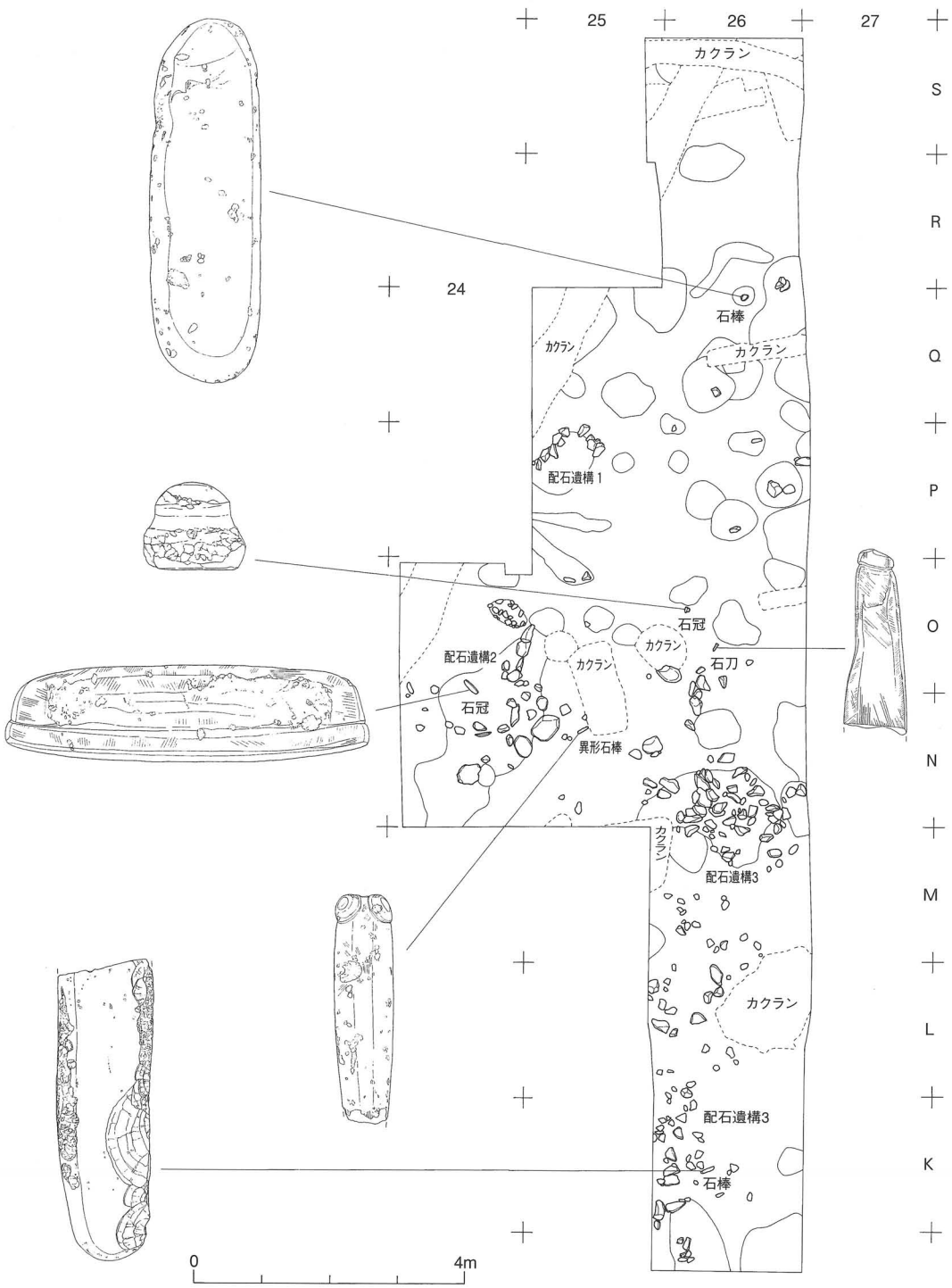
したがって、縄文中期の住居址が存在する可能性が極めて高い。しかしながら、今回の調査では、予想に反して縄文中期の土器は、断片的な出土にすぎなかった。今回の調査区でも、20ｍ程度離れているにすぎないのに、時期や遺構の性格が異なっている場合が確認され、宮ノ前遺跡の性格の判断は困難を極める。

２．配石遺構

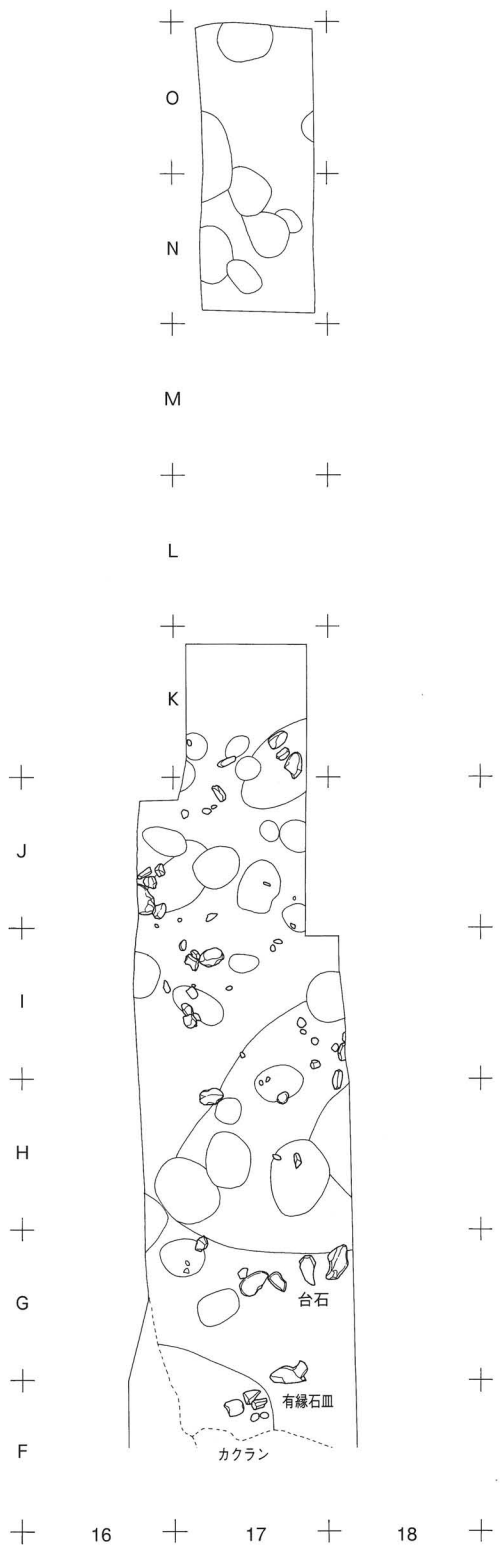
２－１）配石遺構１（第８図上）

Ｐ25区に検出された土坑を伴うＬ字状の配石である。ほぼ均等な大きさの礫が選択され、船津型花崗岩類の角礫を主に、濃飛流紋岩がこれに混じる。

いずれの礫も受熱していることから、住居址に伴う炉址の可能性もあるが断定はできない。



第6図　遺構配置図1



2－2）配石遺構2（第9図）

N24～25・O24～25区に分布する。2m程度の広がりをもち、三日月型に配置されるが、それほど企画性はない。東の位置に大型の石冠が配置されている。配石の下には、土坑がある可能性もあるが、プランは不定型ではっきりしない。また、10cm程度の小礫を充填する長径50cm程度の土坑がある。

2－3）配石遺構3（第8図下）

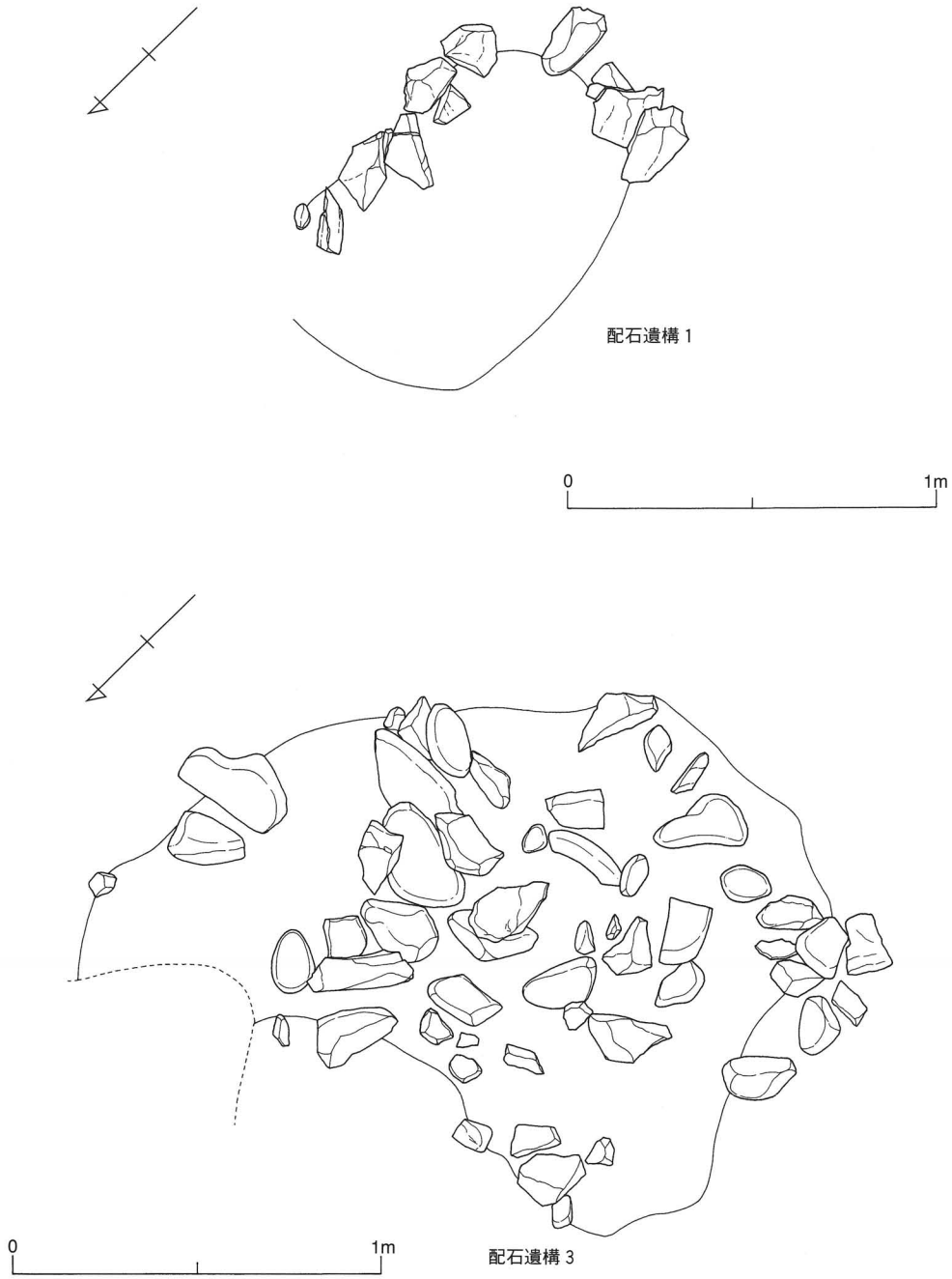
M26～N26区に分布する。1.5m程度のほぼ円形を呈する配石遺構である。この下には、ひとまわり大きな土坑とみられるプランがある。

2－4）配石遺構4

K26区に分布するが、単位は、はっきりしない。石棒の未製品を含む。このほか、L26区にも散漫な配石がある。

0　4m

第7図　遺構配置図2



第 8 図　配石遺構実測図 1

第９図　配石遺構実測図２

第５章　宮ノ前遺跡出土の人工遺物

第１節　縄 文 土 器

１．出土土器の分類

今回の発掘調査で出土した縄文土器は、早期から晩期までのもので、次の12期に区分する。

Ⅰ期；縄文早期前半　　Ⅶ期；縄文後期前葉
Ⅱ期；縄文早期後半　　Ⅷ期；縄文後期中葉
Ⅲ期；縄文前期前半　　Ⅸ期；縄文後期後葉
Ⅳ期；縄文前期後半　　Ⅹ期；縄文晩期前葉
Ⅴ期；縄文中期中葉　　Ⅺ期；縄文晩期中葉
Ⅵ期；縄文中期後葉　　Ⅻ期；縄文晩期後葉

これらは、器形・文様構成などの形態的な特徴から、さらに細分できる。原則的には、絶対量で多数を占める深鉢を中心に記述する。１群１型式を基準としたが、型式間の区分が困難であったり、資料の乏しい場合はこの限りではない。

２．Ⅰ期；縄文早期前半に属す土器群

早期前半に属す土器として、ごく小量の押型文土器が出土している。

２－１）Ⅰ期第１群土器（第10図１～３）

楕円文の密接施文される押型文土器である。全体的に薄手で、焼成は良好である。資料に乏しいため、主体的な器形や文様構成などの詳細は不明であるが、いずれも横位の施文がなされている。細久保式に相当するとみられる。

３．Ⅱ期；縄文早期後半に属す土器

かなり断片的な資料であるが、貝殻条痕文系土器群である。

３－１）Ⅱ期第１群土器（第10図４～９）

粕畑式に相当するか、これに前後するとみられる土器群である。内外面ともに貝殻条痕文が施されている。胎土には植物繊維が含まれ、器厚も10㎜前後と厚手である。

３－２）Ⅱ期第１群土器（第10図10・11）

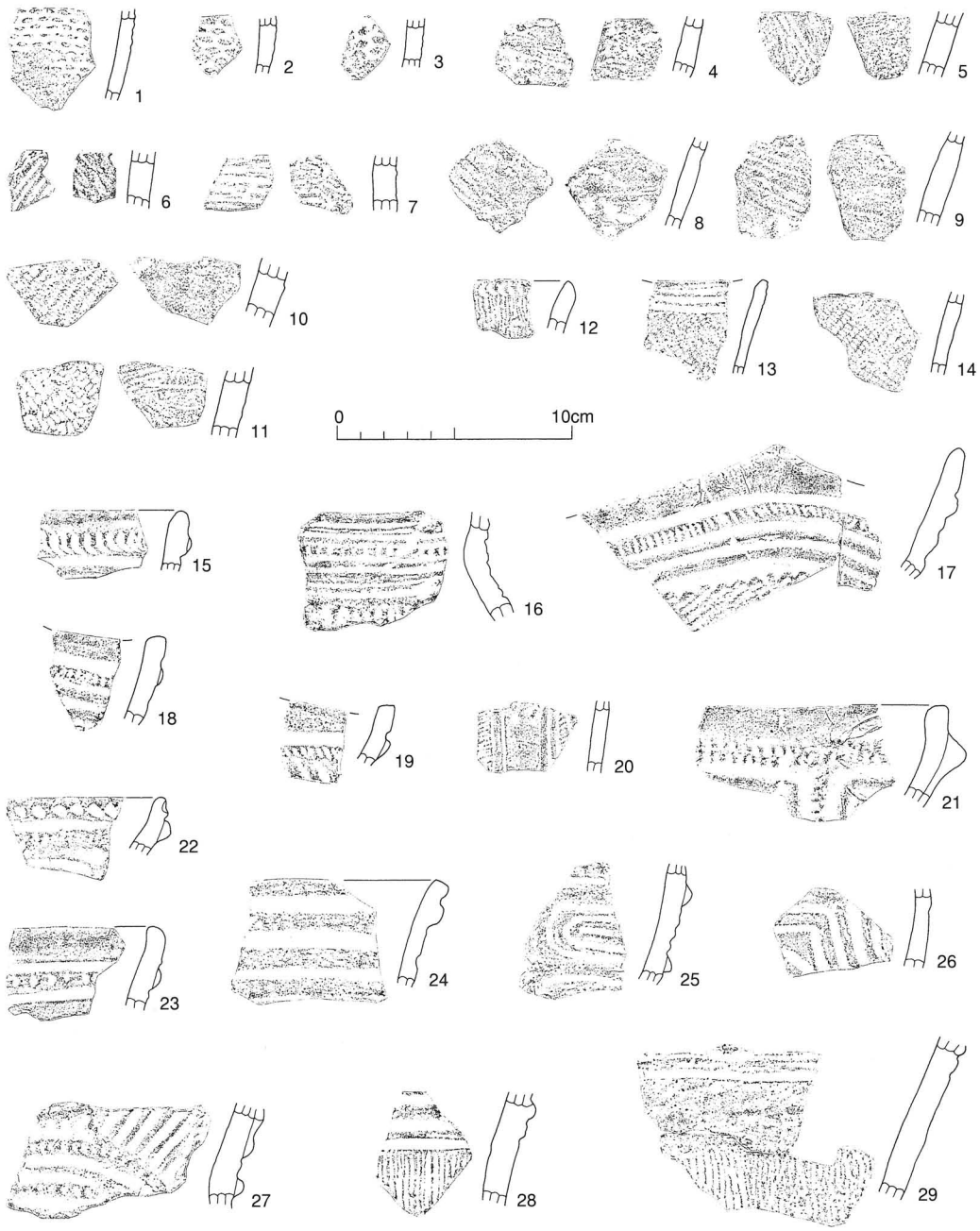
Ⅲ期第１群土器に伴うとみられる縄文施文の土器群である。胎土には植物繊維が含まれ、内面には貝殻条痕文が施されている。

４．Ⅲ期；縄文前期前半に属す土器

一片のみであるが、貝殻腹縁によって施文される土器群が出土している。

４－１）Ⅲ期第１群土器（第10図12）

口唇部に爪形文が施され、その直下には、貝殻復縁文が施される。器厚は、８㎜程度で、胎土には植物繊維が含まれる。



第10図　縄文土器拓影１　Ⅰ期第１群土器：１～３、Ⅱ期第１群土器：４～９・第２群土器：10・11、Ⅲ期第１群土器：12、Ⅳ期第１群土器：13・14、Ⅴ期第１群土器：15～21・第２群土器：28・29、Ⅵ期第１群土器：22～27

5．Ⅳ期；縄文前期後半に属す土器

極めて断片的であるが、縄文地に平行沈線が施される土器群が出土している。

5－1）Ⅳ期第1群土器（第10図13・14）

縄文地に、細い半載竹管による平行沈線文が施される土器群である。器厚は、5㎜程度で、焼成は良好である。諸磯b式に相当する可能性があるが、断定はできない。

6．Ⅴ期；縄文中期中葉に属す土器

やはり断片的ながら、北陸地方で成立したとみられる土器型式が認められる。

6－1）Ⅴ期第1群土器（第10図15～21）

古府式あるいは古串田新式に比定できる土器群である。半載竹管・貝殻復縁あるいは櫛状工具による連続刺突文を伴う隆帯文と、半載竹管による半隆起線文を特徴とする。

6－2）Ⅴ期第2群土器（第10図28・29）

Ⅴ期第1群土器または前後する形式に伴うとみられる条線文施文の深鉢である。

7．Ⅵ期；縄文中期後葉に属す土器

北陸地方で成立したとみられる土器型式が主体をなすが、いずれも断片的な資料である。

7－1）Ⅵ期第1群土器（第10図22～27）

串田新式に比定できる土器群である。隆帯上の貝殻復縁あるいは櫛状工具による連続刺突文がみられるが、半載竹管による半隆起線文を欠く。

a類（同22～26）　串田新Ⅰ式に相当するとみられる深鉢である。

b類（同27）　串田新Ⅱ式に比定できる深鉢である。

7－2）Ⅵ期第2群土器（第11図1～4）

大きく外反し、肥厚する口縁部を特徴とする土器群で、串田新式に後続するとみられる土器群である。口縁部の直下に、2～3㎝程度の肥厚部をもつ深鉢である。

7－3）Ⅵ期第3群土器（第11図5・6）

北陸西部で成立した大杉谷式に相当するとみられる土器群である。縦位の細い隆帯の間に、逆「ハ」の字状の沈線を連続して充填する、いわゆる綾杉文を特徴とする。出土したものは、本群に特徴的な器台とみられる。

7－4）Ⅵ期第4群土器（第11図7・8）

本群も極めて断片的であるが、いわゆる唐草文系の土器群である。

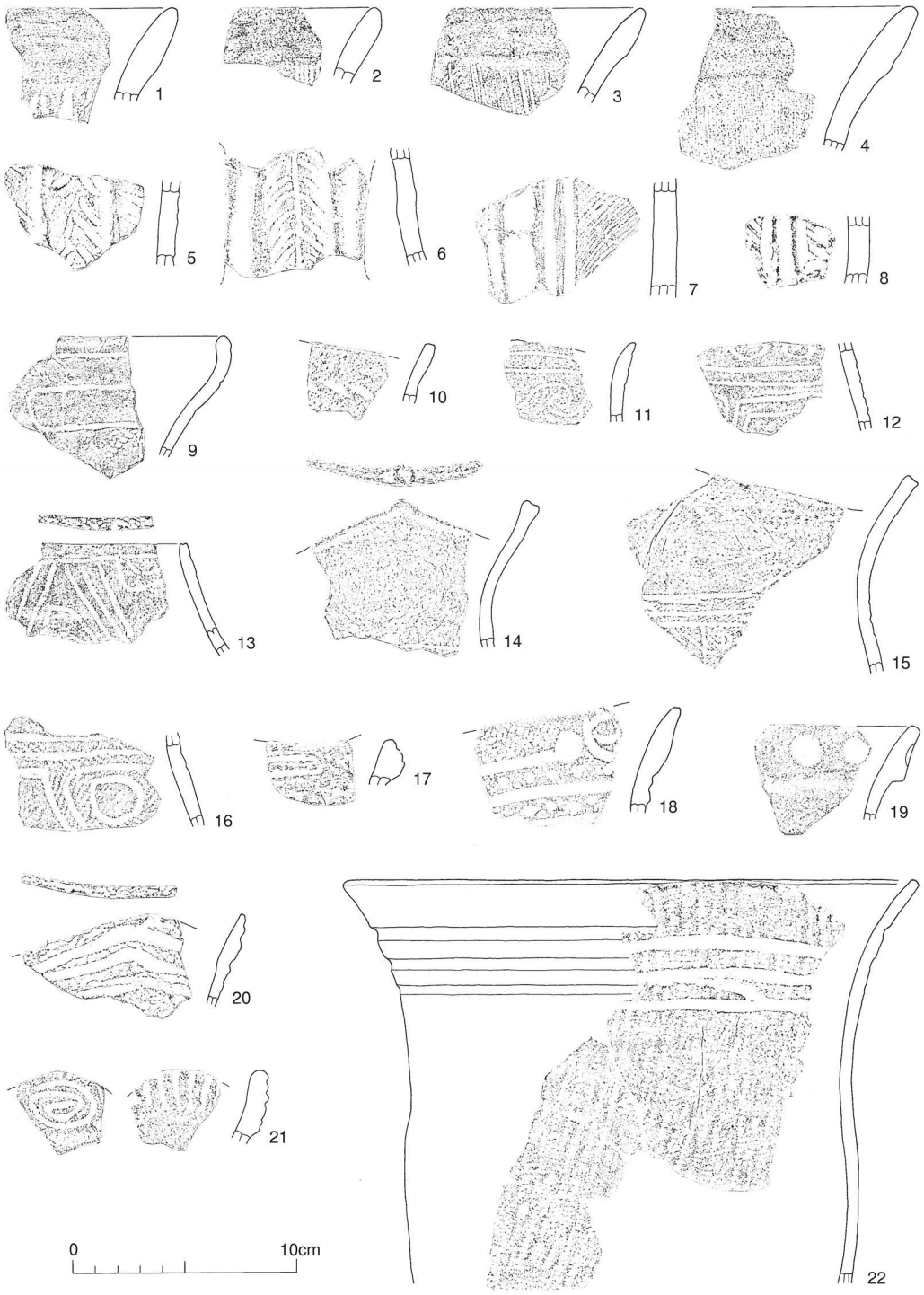
8．Ⅶ期；縄文後期前葉に属す土器

引き続き、北陸地方で成立したとみられる土器群が主体をなすが、堀ノ内式に代表される凡東日本的な土器群の影響がみられるようになる。Ⅵ期；縄文中期後葉までと比較すると、遺物量の増加がみられる。

8－1）Ⅶ期第1群土器（第11図9～22）

気屋式に比定できるか相当するとみられる土器群である。

a類（第11図9～12）　ほぼ気屋Ⅰ式に比定できる深鉢である。口縁部には、大きく外反し、



第11図　縄文土器拓影および実測図２　　Ⅵ期第２群土器：１～４・第３群土器：５・６・第４群土器：７・８、Ⅳ期第１群土器：９～22

第12図　縄文土器拓影３　Ⅵ期第１群土器：１～14・第２群土器：15、Ⅶ期第１群土器(1)：16・17

端部が内湾する例（同９）と、直線的に開く例（同10・11）がある。

ｂ類（同13）　胴部に膨らみをもち、頚部から内向する口縁部をもつ深鉢である。

ｃ類（同14～22）　気屋Ⅱ式に相当するとみられる深鉢である。張りのある胴部に、外反する口縁部を持ち、口縁部文様帯は沈線文で構成される。

８－２）Ⅶ期第２群土器（第12図１～15）

堀ノ内１式から堀之内２式の前半と並行関係にあるとみられる在地系の深鉢である。口縁部は、「く」の字に強く屈曲して、内向する。

文様は、微隆起線あるいは沈線によって、渦巻文やクランク文が表現され、微隆起線上には、円形の刺突文が施される。飛騨地方で設定された、宮田式の２類に類似する。

９．Ⅷ期；縄文後期中葉に属す土器

北陸地方で成立したとみられる土器型式の優位に変わって、加曽利Ｂ式といった凡東日本的な土器型式が主体をなす。

９－１）Ⅷ期第１群土器（第12図16・17、第13図１～８）

堀ノ内２式の新段階または、加曽利Ｂ１式に相当するとみられる土器群である。

９－２）Ⅷ期第２群土器（第13図９～12）

加曽利Ｂ２式に相当するとみられる土器群である。

９－３）Ⅷ期第３群土器（第13図15）

加曽利Ｂ３式または曽谷式に相当するとみられる深鉢である。矢羽根状沈線文を特徴とする。

９－３）Ⅷ期第４群土器（第13図13・14）

第１群土器または第２群土器に伴うとみられる粗製の深鉢である。

９－３）Ⅷ期第５群土器（第13図16）

第１群土器または第２群土器に伴うとみられる注口土器である。

10．Ⅸ期；縄文後期後葉に属す土器

Ⅷ期；縄文後期中葉までと比較して、遺物量が減少する。北陸地方で成立したとみられる井口Ⅱ式および八日市新保式に相当するとみられる土器群が出土している。

10－１）Ⅸ期第１群土器（第14図１～３）

井口Ⅱ式に相当するとみられる土器群である。

ａ類（第14図１・２）　「く」字に屈曲する口縁部に、平行沈線文が施される深鉢である。

ｂ類（同３）　ａ類に伴うとみられる浅鉢である。

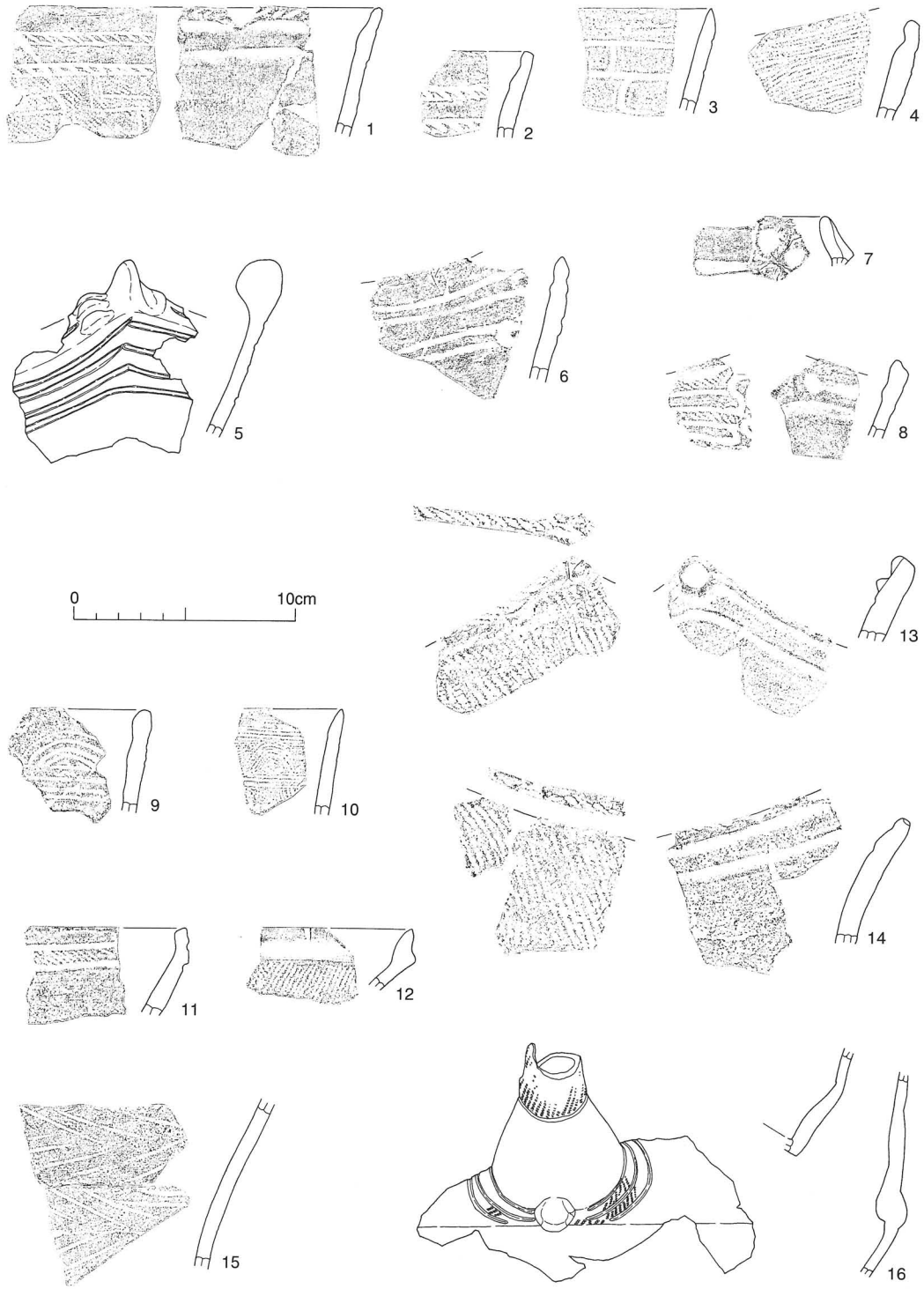
10－２）Ⅸ期第２群土器（第14図４～８）

八日市新保式に比定できる土器群である。

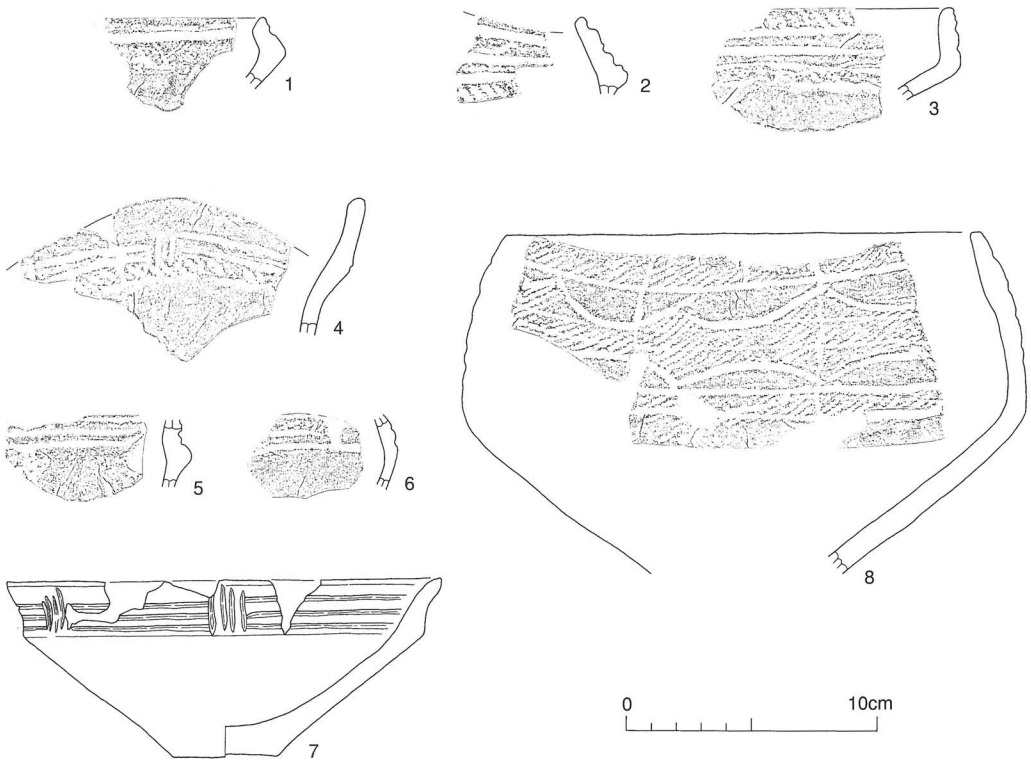
ａ類（第14図４～６）　外反する口縁部をもち、波状口縁をなす深鉢である。口縁部下および胴部に、２・３条の平行沈線を施し、縦位の短沈線で区切る例（同４）がある。

ｂ類（同７）ａ類に伴うとみられる浅鉢である。

ｃ類（同８）ａ類に伴うとみられる鉢である。



第13図　縄文土器拓影および実測図４　　Ⅷ期第１群土器(2)：１～８・第２群土器：９～12・第３群土器：15・第４群土器：13・14・第５群土器：16



第14図　縄文土器拓影および実測図５　Ⅸ期第１群土器：１～３・第２群土器：４～７

11．Ⅹ期；縄文晩期前葉に属す土器

北陸地方で成立した御経塚式に相当する土器群であるが、断片的で、量的に乏しい。

11－１）Ⅹ期第１群土器（第15図１～９）

御経塚式に比定できる土器群である。

ａ類（第15図１～５）　御経塚式に相当するとみられる深鉢または鉢である。

ｂ類（同６）　御経塚式に相当するとみられる浅鉢である。

ｃ類（同８・９）　御経塚式に相当するとみられる鉢である。

12．Ⅺ期；縄文晩期中葉に属す土器

Ⅹ期；縄文晩期前葉までと比較して圧倒的に遺物量が多い。しかしながら精製土器が少なく、圧倒的に粗製土器が多い。

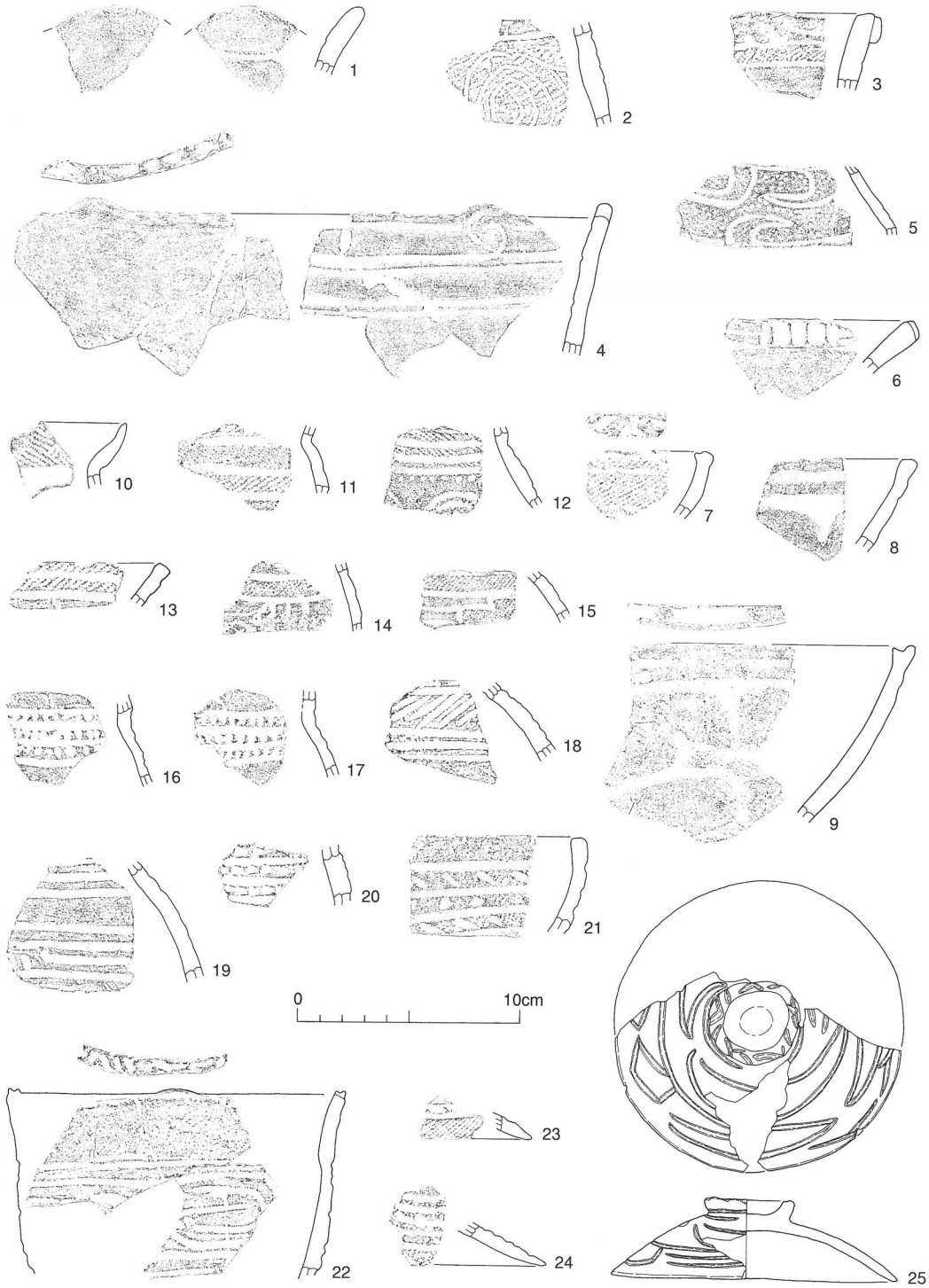
12－１）Ⅺ期第１群土器（第15図10～25）

中屋式に比定できる土器群である。

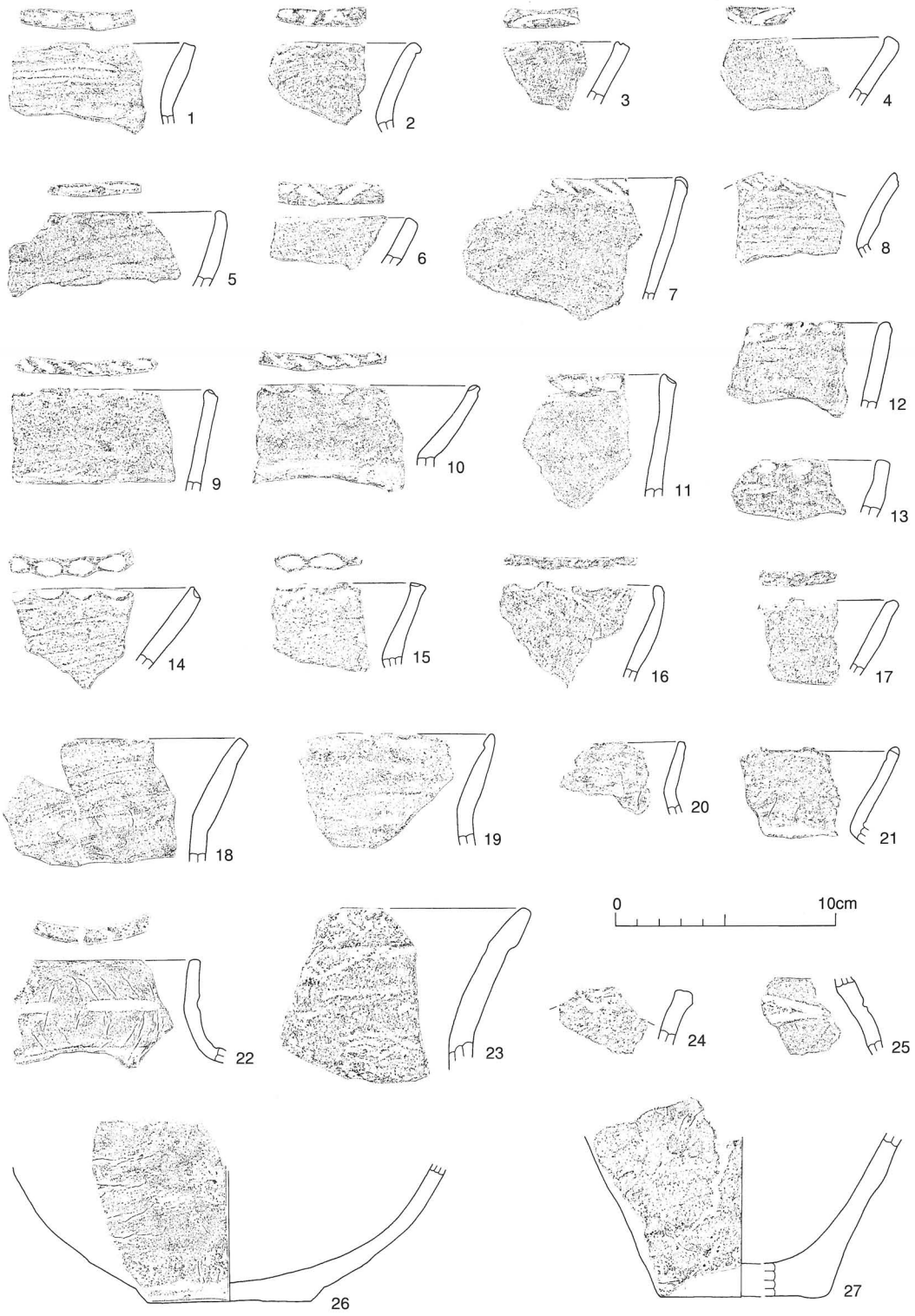
ａ類（第15図10～20）　中屋式に比定できる深鉢または鉢である。平行沈線の間に縄文を施す例（同10～15）や平行沈線の間に列点文や短沈線を施す例（同16～18・20）がある。

ｂ類（同21・22）　中屋式に伴うとみられる鉢である。

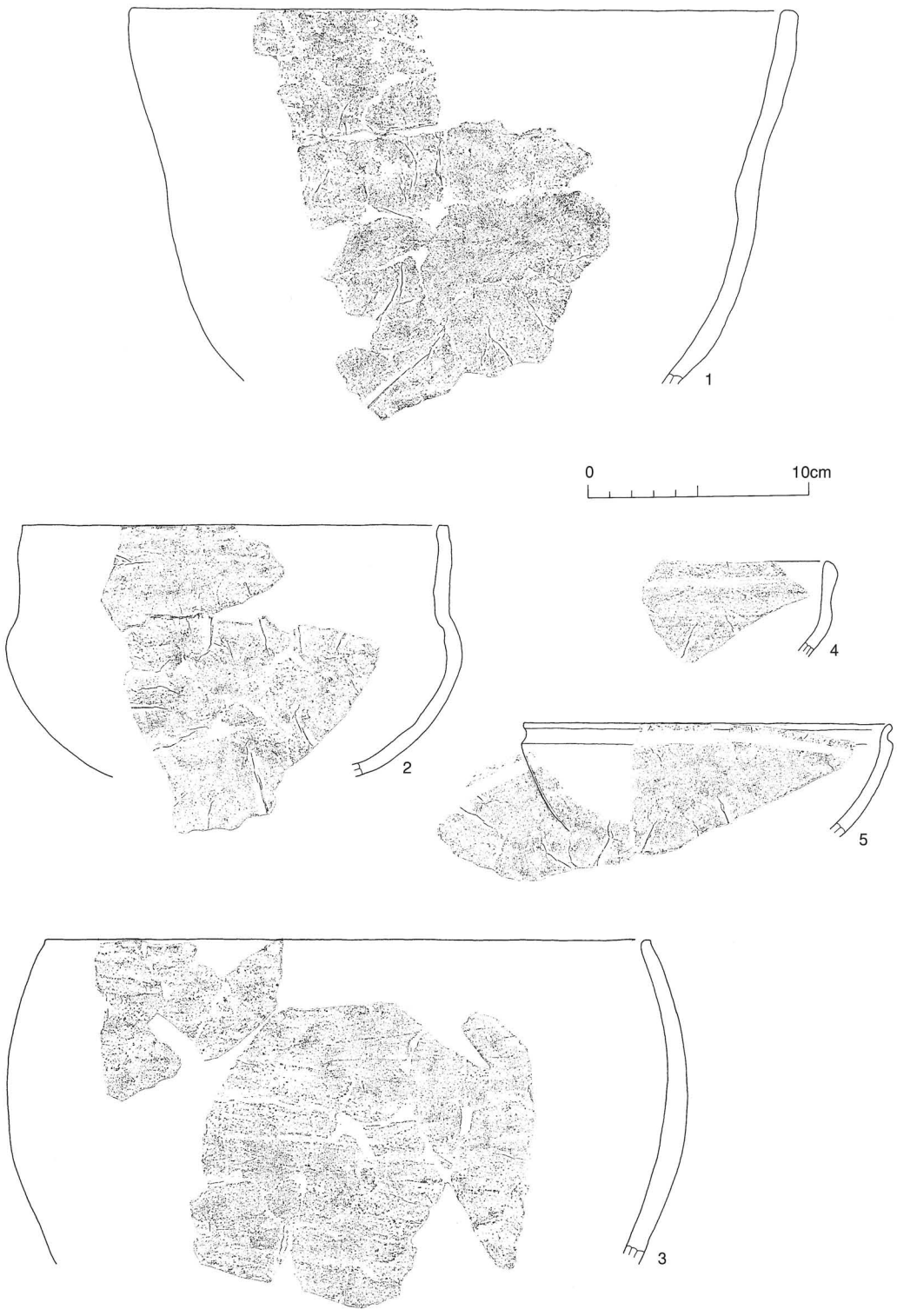
ｃ類（同23～25）　中屋式に伴うとみられる蓋である。



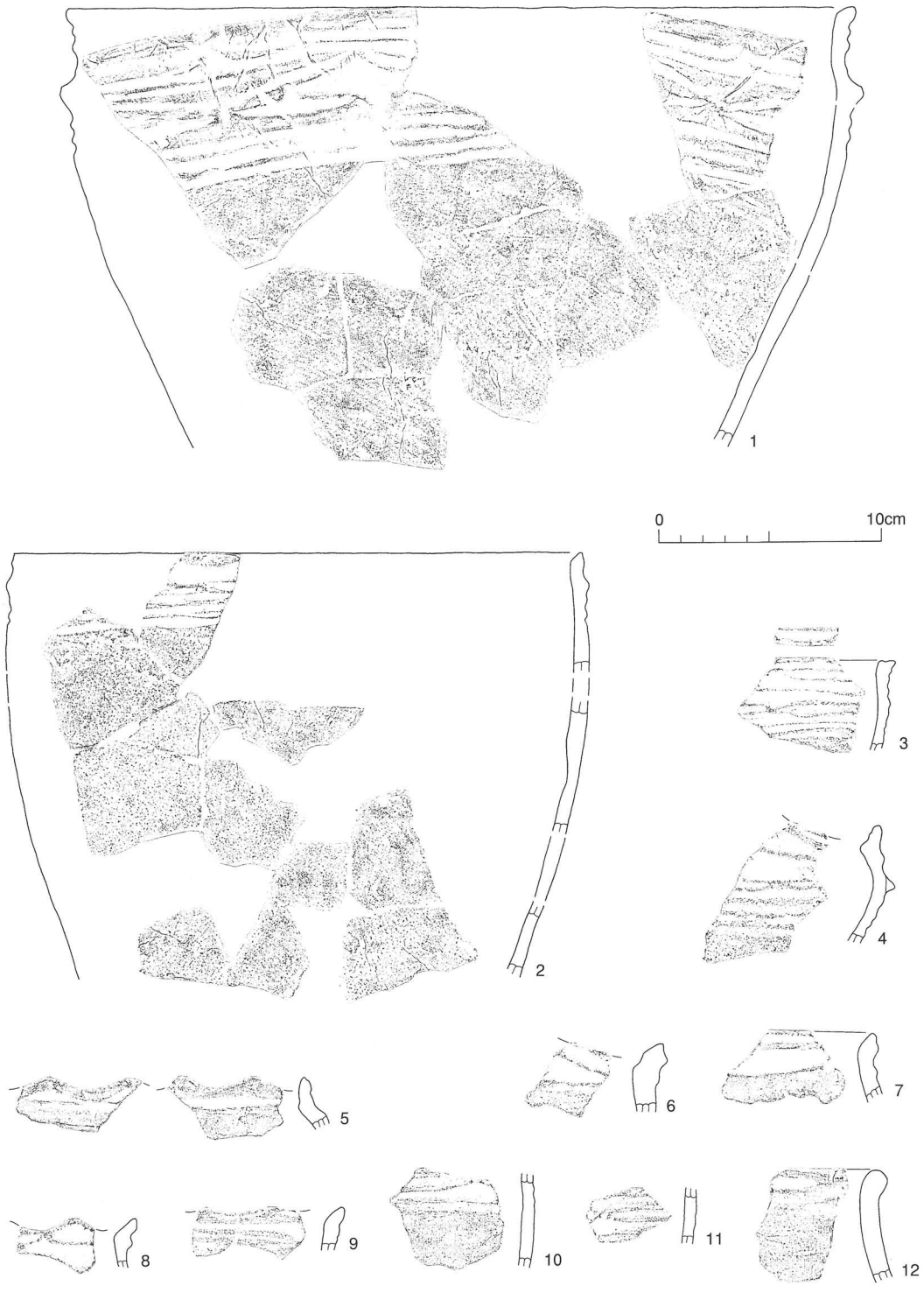
第15図　縄文土器拓影および実測図６　Ⅹ期第１群土器：１～９、Ⅺ期第１群土器：10～25



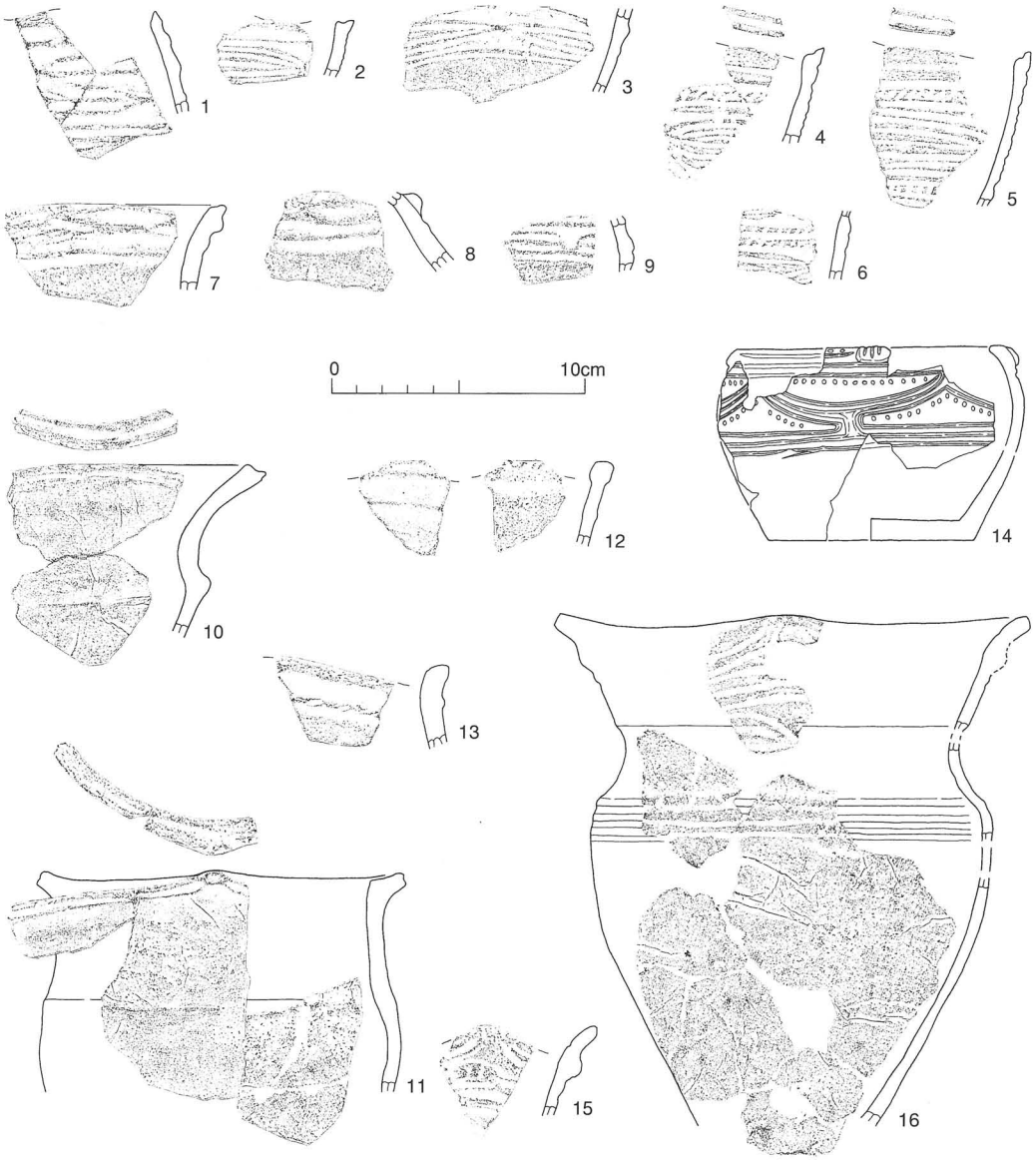
第16図　縄文土器拓影および実測図７　Ⅺ期第２群土器(1)



第17図　縄文土器拓影および実測図８　Ⅺ期第２群土器(2)



第18図　縄文土器拓影および実測図９　Ⅻ期第１群土器(1)



第19図　縄文土器拓影および実測図10　XII期第１群土器(2)：１～６・第２群土器：10～13・第３群土器：14～16

12－１）XI期第２群土器（第16・17図）

中屋式あるいは前後する形式に伴うとみられる粗製土器および無文土器である。今回出土した縄文土器のなかで最も多く出土している。

ａ類（第16図）　膨らみのある胴部をもち、頚部で「く」の字に外反する器形をもつ深鉢または鉢である。多くは平縁であるが、波状口縁をもつ例（同８）がある。口唇部または口唇部直下には、三叉文（同１・２）・弧状の沈線文（同３～５）・短沈線（同６～10）・楕円圧痕文（同11～15）を施す例がある。

第20図　縄文土器拓影11　Ⅻ期第４群土器

ｂ類（第17図１～４）　粗製の鉢である。器形には、胴部に弱い膨らみをもち、頚部でくびれて口縁部が外反するもの（同１）や胴部に強い膨らみをもち、頚部でほぼ直線的に立ち上がるもの（同２）、口縁部が内向するもの（同３）がある。

ｃ類（同５）　口縁部に巾の広い沈線が施される鉢である。器面はよく磨かれている。

13．Ⅻ期；縄文晩期後葉に属す土器

前段階に比べると若干遺物量が減少するようであるが、依然として多い。

13－１）Ⅻ期第１群土器（第18図、第19図１～６）

浮線網状文を特徴とする土器群で、大洞Ａ式に相当するとみられる土器群である。

ａ類（第18図１・２）　大洞Ａ式に相当する深鉢である。

ｂ類（同３～12、第19図１～６）　大洞Ａ式に相当するとみられる小型の鉢または深鉢である。

ｃ類（同７～９）　大洞Ａ式に相当するとみられる壷形土器である。

13－２）Ⅻ期第２群土器（第19図７～13）

西日本系とみられる終末期の土器群である。

13－３）Ⅻ期第３群土器（第19図14～16）

晩期終末ないし弥生時代初頭に属すとみられる土器群である。

ａ類（第19図15・16）　胴部上半で膨らみ、頚部でくびれて口縁部が外反し、四単位の波状口縁をもつ深鉢である。波頂部直下には、短沈線が刻まれた楕円形の貼付がある。

ｂ類（同17）　口縁部に沈線で区画された文様帯をもつ鉢である。口唇部直下の短沈線が刻まれた楕円形の貼付が、ａ類と共通する。

13－３）Ⅻ期第４群土器（第20図）

各類に伴うとみられる条痕文土器群である。

14．出土土器の分布

今回設定したトレンチでは、あきらかに土器の分布が異なっている。16～18列トレンチの第Ⅲ層では、Ⅶ期；縄文後期前葉を主体とし、Ⅷ期；縄文後期中葉・Ⅸ期；縄文後期後葉の土器がみ

られた。一方、24～26列トレンチの第Ⅲ層からはⅦ～Ⅸ期の土器は出土しておらず、Ⅺ期；縄文晩期中葉を主体とし、これにⅩ期；縄文晩期前葉およびⅫ期；縄文晩期後葉の土器がみられた。遺物包含層である第Ⅲ層から出土した土器のうち、量的にはⅪ期のものが最も多く、Ⅻ期の資料は第Ⅰｂ層および第Ⅱ層から出土したものが多い点を考えると、24～26列トレンチで検出された配石の構築時期を、縄文晩期中葉に想定できる。

第2節　弥生土器

1．弥生土器の分類

今回の調査区から、断片的ながら弥生土器が出土している。いずれも撹乱土層中の出土であったが、弥生時代の実態が不明瞭な本村における追加資料を提供した。

出土資料は、主たる施文具の違いから、貝殻復縁によるものと櫛歯状工具によるものとに分けられ、前者が弥生前期に属し、後者が弥生中期に属すものとみられる。

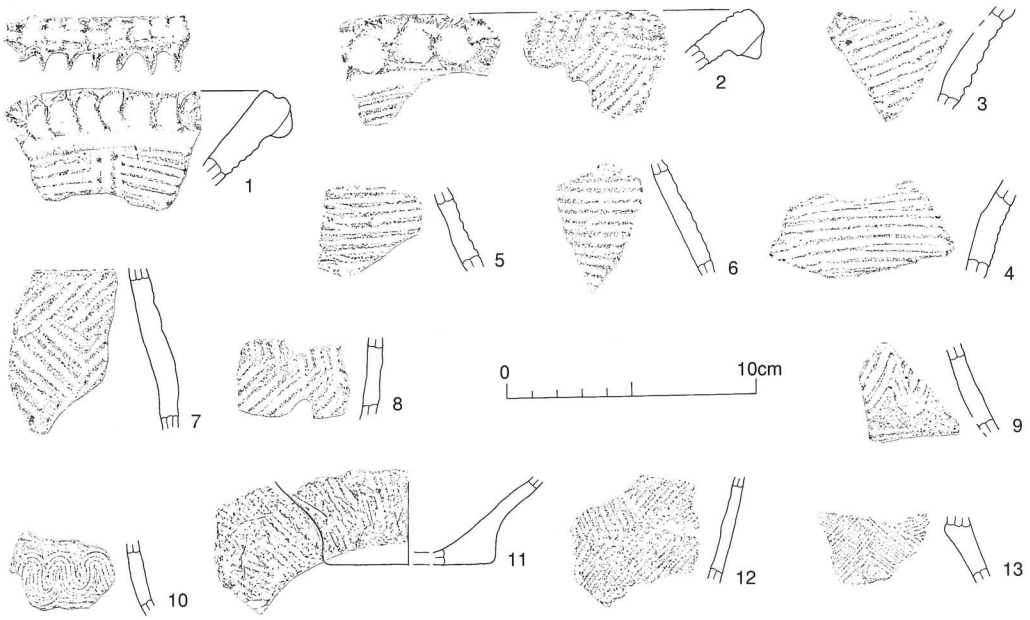
なお、前節で扱った資料のなかに弥生時代初頭のものが含まれる可能性がある。

2．弥生前期に属す土器（第21図１～８）

貝殻による条痕文系の土器群で、ほぼ水神平式に比定できる。おおむね壷とみられるが、第３・４図などは甕かもしれない。

3．弥生中期に属す土器（第21図９～13）

櫛歯状工具による櫛描きや細い条痕文を特徴とする土器群である。壷（同９・10）、甕または壷（同11・12）、器台（同13）がある。



第21図　弥生土器拓影および実測図

第3節　石　　器

1．はじめに

今回の調査区から、総数1,212点におよぶ石器が出土している。このうち、旧石器２点を除いては、おおむね縄文時代に属すものとみられる。弥生土器も出土していることから弥生時代のものも含まれている可能性を否定できないが、特徴的な器種は認められなかった。

2．旧石器

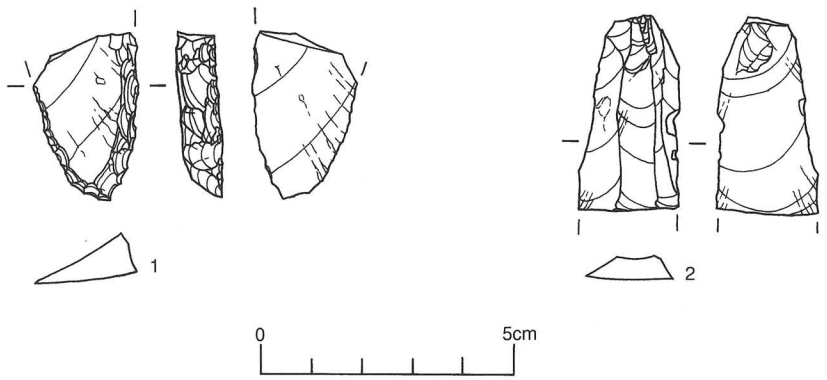
確認された旧石器は、北陸系の硬質頁岩を素材とする石器群である。いずれも撹乱層からの出土で、該期の包含層は確認できなかった。石質は、同じ硬質頁岩でも国道調査区や平成６年度調査区のものよりも一段丘上に所在する稲葉遺跡のものに近い。

２－１）ナイフ形石器（第22図１、第１表）

撹乱層から硬質頁岩製のナイフ形石器１点が出土している。１/２を欠損し、二側縁加工の基部または端部とみられる。

２－２）石刃（第22図２、第２表）

表面採集によって硬質頁岩製の石刃１点が得られている。



第22図　ナイフ形石器(1)、石刃(2)実測図

第１表　ナイフ形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	I17Ib	½欠損	硬質頁岩	(3.2)	(2.0)	0.9	(5.8)	第22図１

第２表　石刃一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	表面採集	⅓欠損	硬質頁岩	(4.9)	2.0	0.5	(4.7)	第22図２

3．縄文時代の石器

縄文時代に属すとみられる石器は、22器種、総数1,210点を数える。層位ごとの出土数と組成を、第３表に示す。第Ⅰ層（表面採集品を含む。）と第Ⅱ層は、表土層または耕作土にあたる撹乱層で、第Ⅲ層が、縄文時代後期～晩期の遺物包含層である。

３－１）打製石斧（第23図・第24図１～３、第４表）

総数109点が出土している。形態を次のとおり分類する（註１）。

＜Ⅰａ類＞　刃部巾が基部巾の1.5倍未満で、最大長が最大巾の２倍未満のもの。

＜Ⅰｂ類＞　刃部巾が基部巾の1.5倍未満で、最大長が最大巾の２倍以上のもの。

＜Ⅱａ類＞　刃部巾が基部巾の1.5倍以上で、最大長が最大巾の２倍未満のもの。

＜Ⅱｂ類＞　刃部巾が基部巾の1.5倍以上で、最大長が最大巾の２倍以上のもの。

＜Ⅲ類＞　胴部の両側縁に大きな抉りが存在し、刃部巾と基部巾がほぼ均等になるもの。

このうち、Ⅱ類は撥形、Ⅲ類は分銅形に相当するが、Ⅰ類とⅡ類の区分は、あくまで任意的な線引にすぎないので、Ⅰ類については、おおむね短冊形が主体となるものの、通常は撥形として分類されるものを含んでいることをお断わりしておく。

形態の分類可能なものは33点で、その内訳はⅠａ類（第23図１～３）10点、Ⅰｂ類（同４～６）10点、Ⅱａ類（同７～９）８点、Ⅱｂ類（第24図１～３）５点である。なお、Ⅲ類に該当するものは出土していない。　使用石材は、頁岩（46点：42.2％）が最も多く、安山岩（23点：22.0％）、砂岩（12点：11.0％）がこれに続く。

３－２）横刃形石器（第24図４～15、第５表）

総数100点が出土している。このうち完形品は34点で、刃部巾の計測可能なものは42点ある。刃部巾は、5.9～13.8㎝までのものがあるが、７～10㎝程度のものが最も多い。

使用石材は、頁岩（55点：55.0％）が最も多く、安山岩（21点：21.0％）、砂岩（13点：13.0％）がこれに続く。

３－３）磨石（第25図、第６表）

礫を素材とする石器のうち、磨面をもち、凹痕がないものを磨石とする。総数177点が出土している。次の２類に分類する。

＜Ⅰ類＞　磨面のみがみられるもの。

＜Ⅱ類＞　磨面と敲打痕がみられるもの。

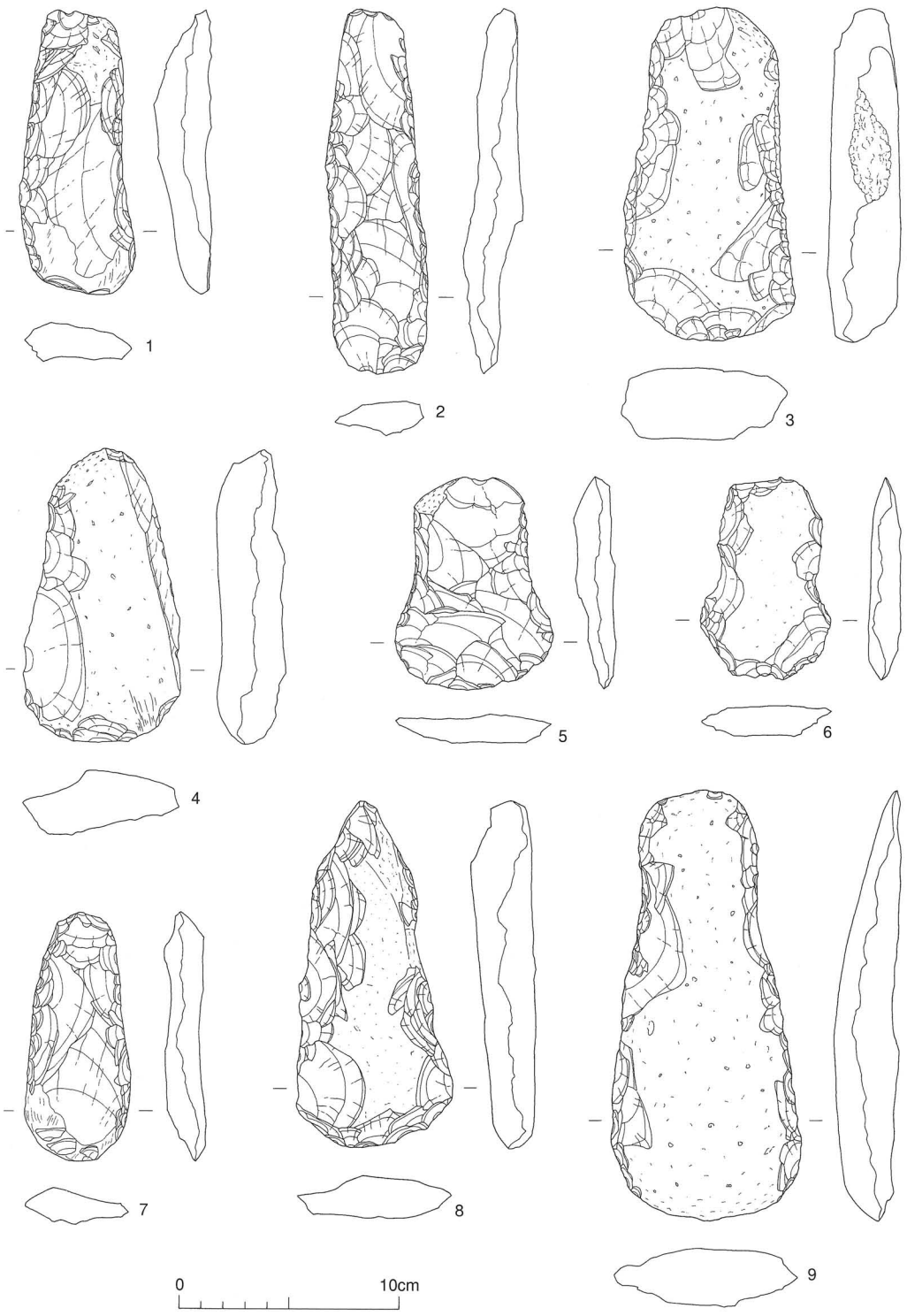
形態分類が可能なものは159点で、Ⅰ類（第25図１～６）132点、Ⅱ類（同７～10）27点ある。なお、分類不可能な18点は、いずれも破片または１/２以上の欠損品で、磨面のみが認められるものである。Ⅱ類にみられる敲打痕については、面をなし断面形が四角形をなすものが多い。使用石材は、多孔質安山岩（註２）（76点：42.9％）が最も多く、砂岩（42点：23.7％）、濃飛流紋岩（22点：12.4％）がこれに続く。

３－４）凹石（第26図、第７表）

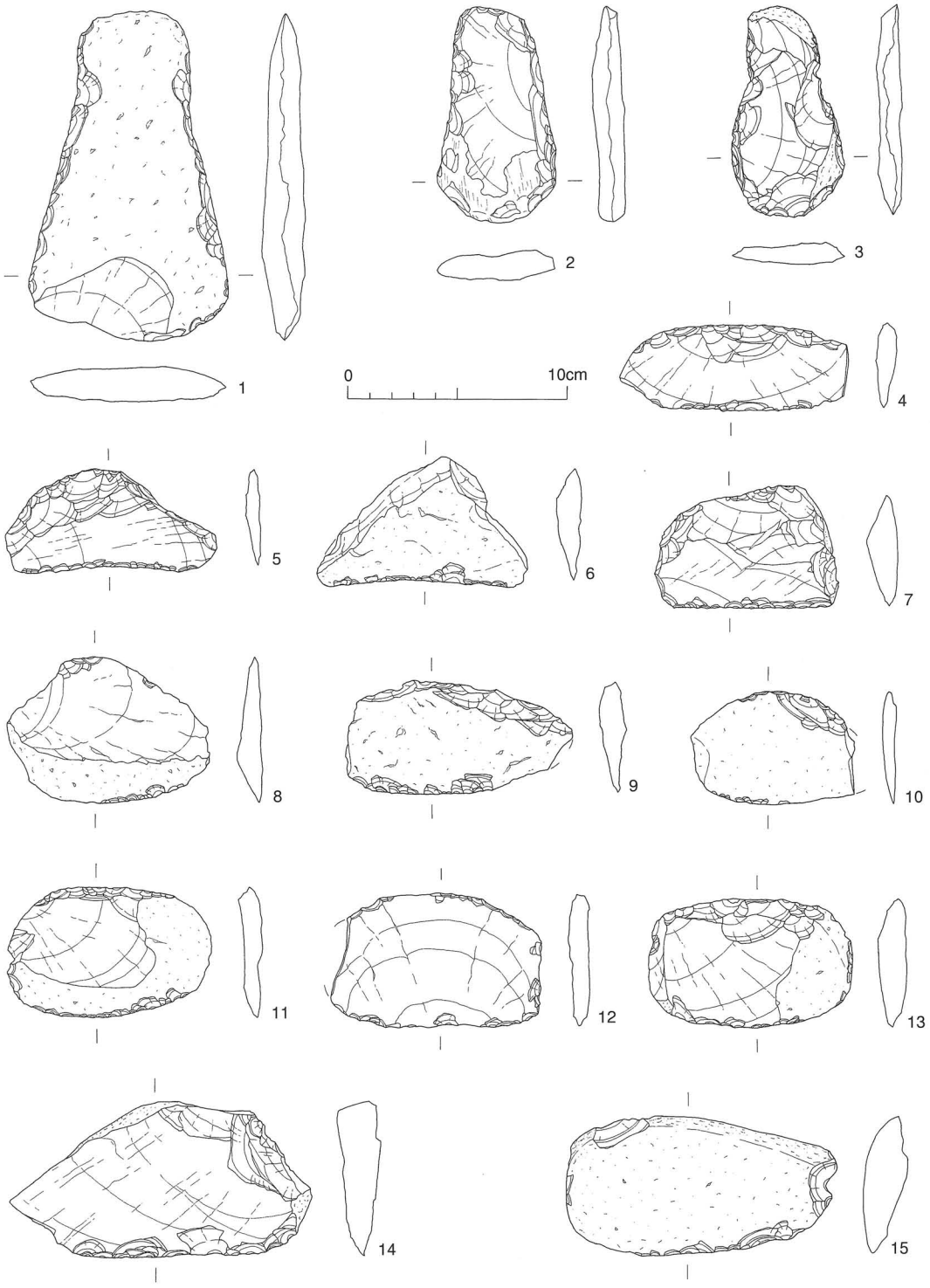
礫を素材とする石器のうち、凹痕をもつものを凹石とする。総数97点が出土している。磨面や

第3表　縄文時代石器組成表

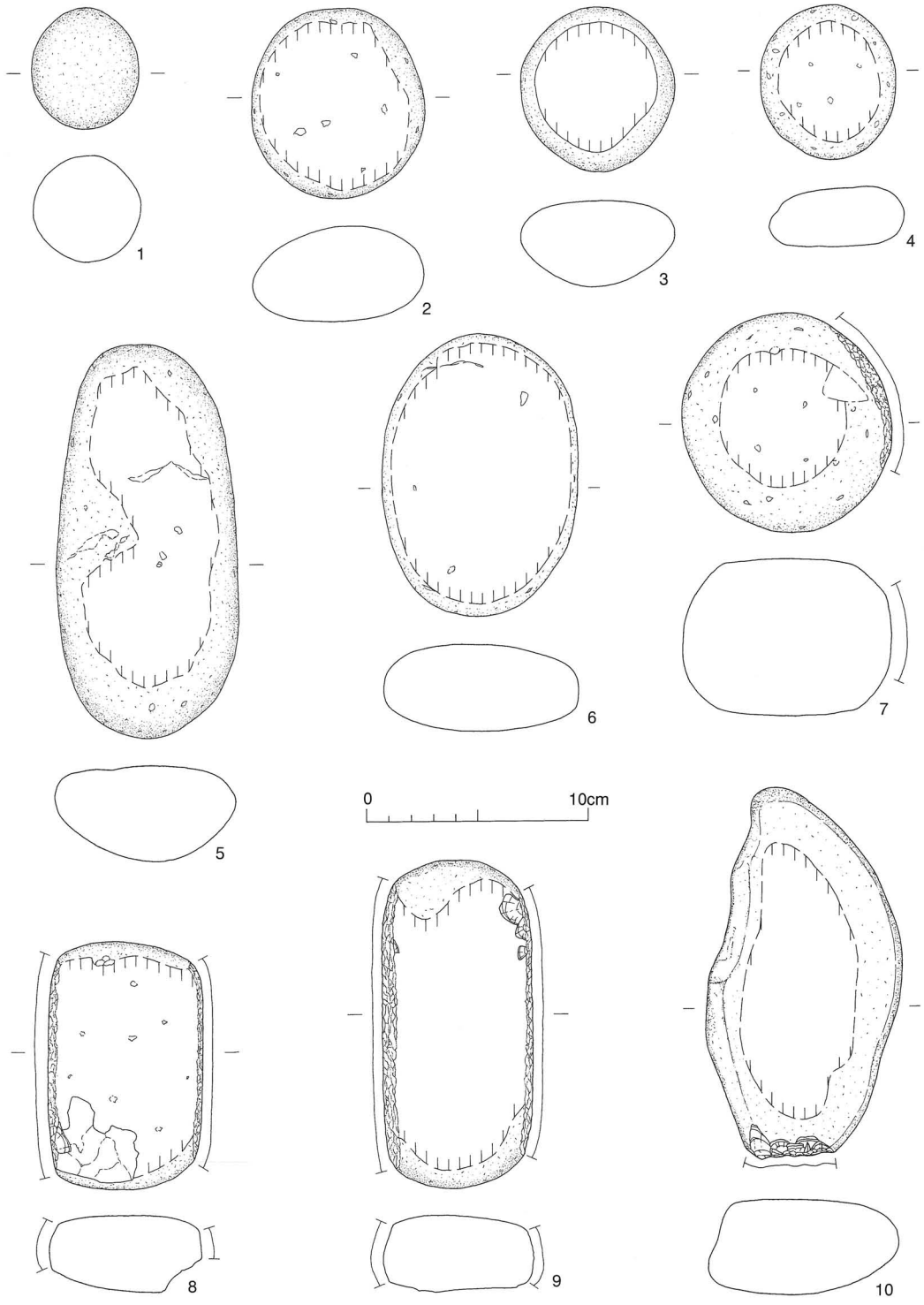
器種＼層位	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	合計
打製石斧	57点（ 8.52%）	16点（ 7.02%）	36点（11.50%）	109点（ 9.01%）
横刃形石器	65点（ 9.72%）	22点（ 9.65%）	13点（ 4.15%）	100点（ 8.26%）
磨石	61点（ 9.11%）	70点（30.70%）	43点（14.70%）	177点（14.63%）
凹石	43点（ 6.43%）	22点（ 9.65%）	32点（10.22%）	97点（ 8.02%）
有縁石皿	1点（ 0.15%）	————	1点（ 0.32%）	2点（ 0.17%）
台石	17点（ 2.54%）	15点（ 6.58%）	27点（ 8.63%）	59点（ 4.88%）
石鏃	38点（ 5.68%）	2点（ 0.88%）	21点（ 6.71%）	61点（ 5.04%）
スクレイパーⅠ類	36点（ 5.38%）	6点（ 2.63%）	10点（ 3.19%）	52点（ 4.30%）
スクレイパーⅡ類	30点（ 4.48%）	2点（ 0.88%）	9点（ 2.88%）	41点（ 3.39%）
スクレイパーⅢ類	71点（10.61%）	17点（ 7.46%）	22点（ 7.03%）	110点（ 9.09%）
石錐	43点（ 6.43%）	4点（ 1.75%）	9点（ 2.88%）	56点（ 4.63%）
磨製石斧	11点（ 1.64%）	3点（ 1.32%）	5点（ 1.60%）	19点（ 1.57%）
据置砥石	12点（ 1.79%）	7点（ 3.07%）	12点（ 3.83%）	31点（ 2.56%）
手持砥石	6点（ 0.90%）	3点（ 1.32%）	5点（ 1.60%）	14点（ 1.16%）
擦切石器	4点（ 0.60%）	3点（ 1.32%）	2点（ 0.64%）	9点（ 0.74%）
敲石Ⅰ類	13点（ 1.94%）	4点（ 1.75%）	9点（ 2.88%）	26点（ 2.15%）
敲石Ⅱ類	19点（ 2.84%）	8点（ 3.51%）	11点（ 3.51%）	38点（ 3.14%）
礫器	7点（ 1.05%）	3点（ 1.32%）	3点（ 0.96%）	13点（ 1.07%）
楔形石器	128点（19.13%）	19点（ 8.33%）	39点（12.46%）	186点（15.37%）
礫石錐	7点（ 1.05%）	1点（ 0.44%）	————	8点（ 0.66%）
有溝石錐	————	————	1点（ 0.32%）	1点（ 0.08%）
異形石器	————	1点（ 0.44%）	————	1点（ 0.08%）
合計	669点（99.99%）	228点（100.02%）	313点（100.01%）	1210点（100.01%）



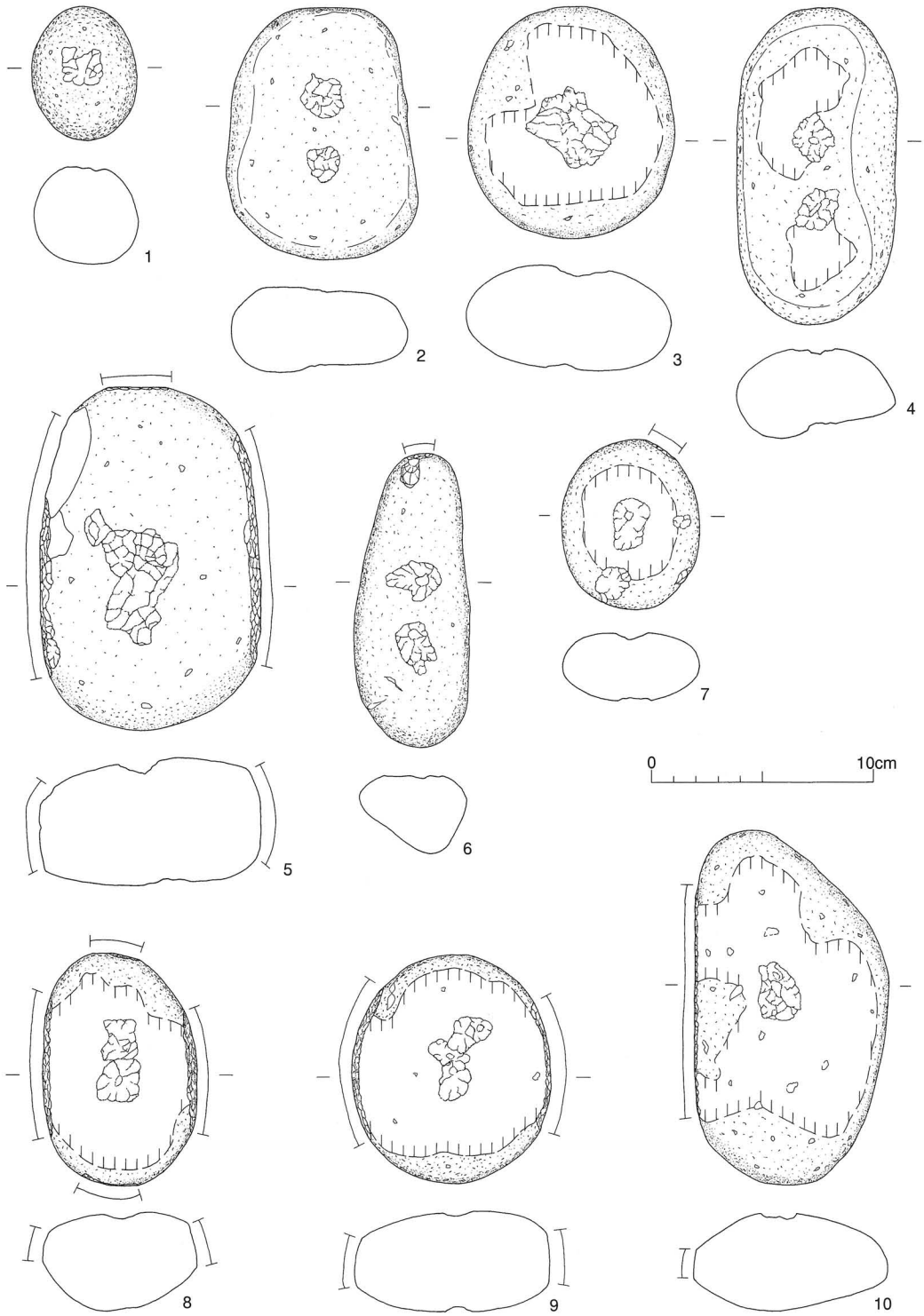
第23図　打製石斧実測図１



第24図　打製石斧２（１～３）、横刃形石器（４～15）実測図



第25図　磨石実測図



第26図　凹石実測図

敲打痕を共有するものがあり、その組合せによって次の４類に分類する。

＜Ⅰ類＞　凹痕のみをもつもの。

＜Ⅱ類＞　凹痕と磨面をもつもの。

＜Ⅲ類＞　凹痕と敲打痕をもつもの。

＜Ⅳ類＞　凹痕と磨面と敲打痕をもつもの。

形態別にみると、Ⅰ類（第26図１・２）10点、Ⅱ類（同３・４）36点、Ⅲ類（同５・６）11点、Ⅳ類（同７～10）40点がある。凹みのみをもつものに比べ、圧倒的に磨面や敲打痕を合わせもつものが多い。したがって、礫を素材とする磨石・凹石には、ほぼ共通の用途が想定できる。

素材となる礫の選択傾向は、磨石とほぼ同様で、使用石材も多孔質安山岩（32点：33.0％）が最も多く、砂岩（27点：27.8％）、濃飛流紋岩（13点：13.4％）がこれに続く。

３－５）有縁石皿（第27図１・２、第８表）

破片２点が出土している。第27図１は、多孔質安山岩製で使用痕が顕著に残る。また、受熱により破砕したものとみられる。

３－６）台石（第27図３～７、第９表）

平盤の自然石をそのまま利用し、磨耗や敲打痕などの使用痕が認められるものを台石とする。総数59点が出土している。完形品はわずか５点で、受熱による破損品がみられる。

使用石材は、砂岩（15点：25.4％）が多く、多孔質安山岩・濃飛流紋岩・閃緑岩（各７点：各11.9％）、飛騨片麻岩（６点：10.2％）がこれに続く。

３－７）石鏃（第28図、第10表）

総数61点が出土している。形態から端的に、次の４類に分類する。

＜Ⅰ類＞　基部に抉りをもつもの。いわゆる凹基無茎鏃にあたる。

＜Ⅱ類＞　基部が直線的なもの。いわゆる平基無茎鏃にあたる。

＜Ⅲ類＞　明瞭な茎部をもつもの。いわゆる有茎鏃にあたる。

＜Ⅳ類＞　柳葉形のもの。いわゆる柳葉鏃あるいは尖基・円基鏃にあたる。

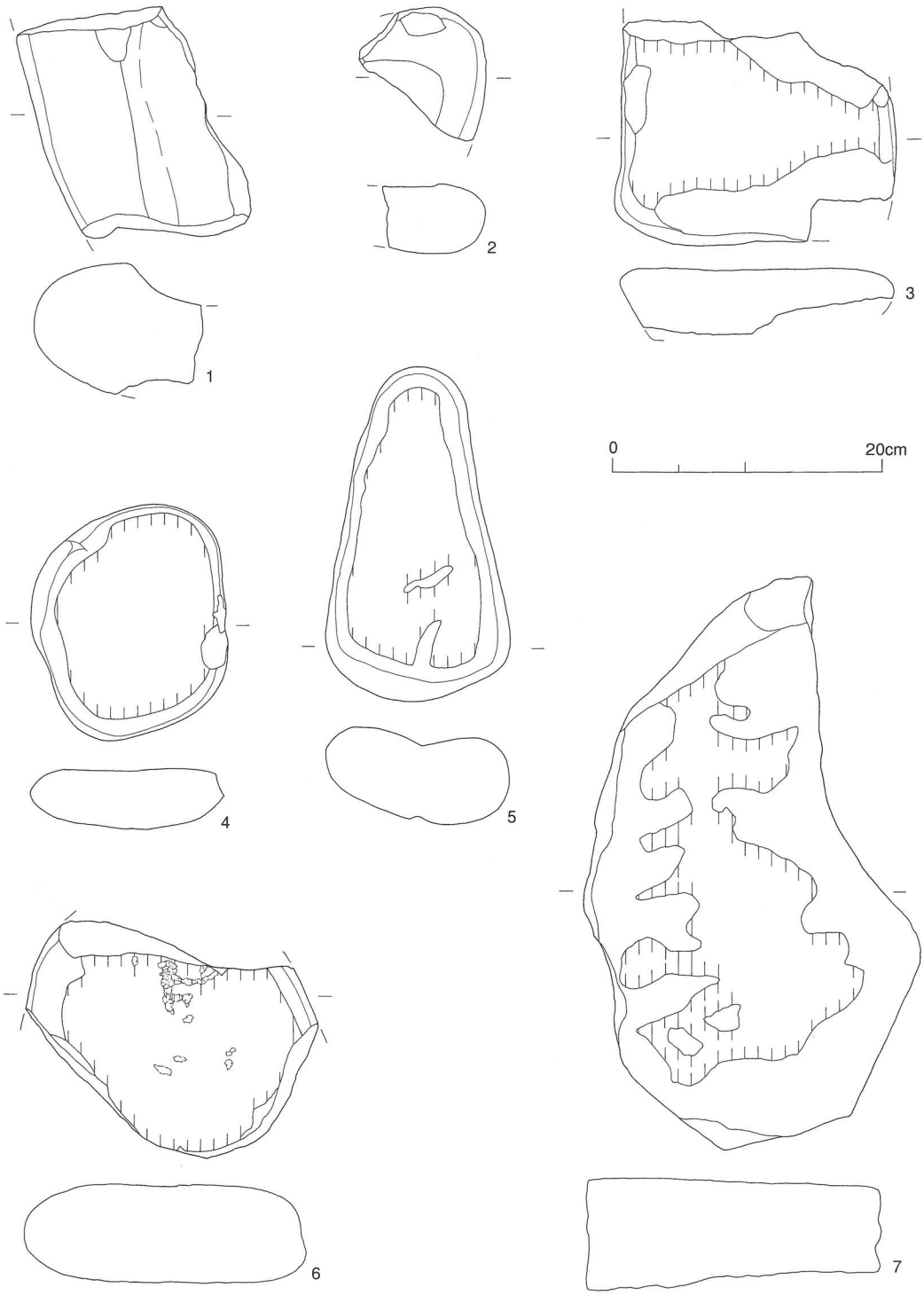
形態別の内訳では、Ⅰ類（第28図１～27）が42点と最も多く、Ⅱ類（同28・29）４点、Ⅲ類（同30～34）６点、Ⅳ類（同35）１点、破損により形態が不明なもの７点、未製品１点がある。

完形品は、24点で全体の39.3％である。長さをみると、最大は欠損品ながら3.9㎝（同25）、最小は1.2㎝（同２）であるが、２㎝前後のものが最も多い。

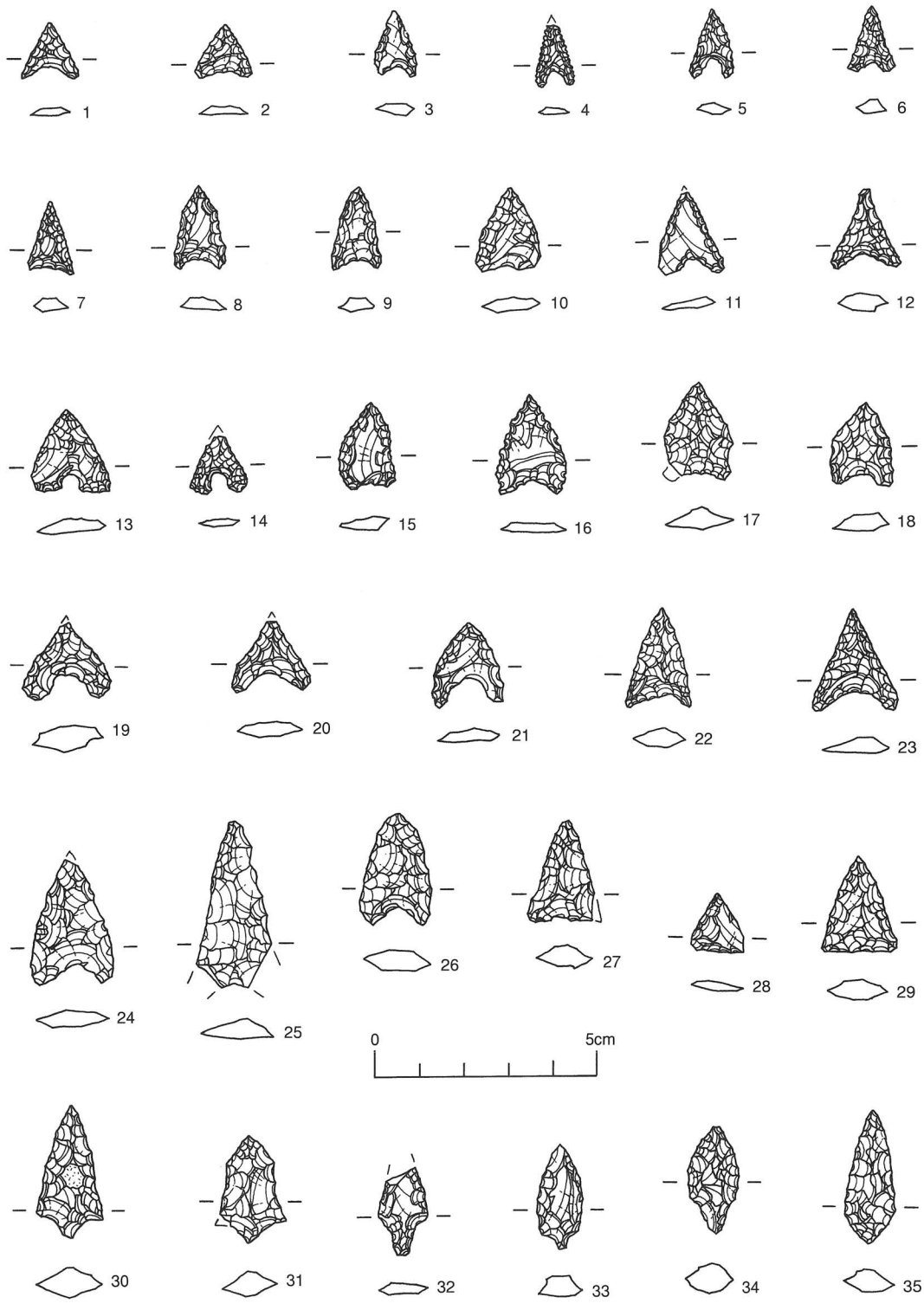
使用石材では、下呂石が40点と全体の68.9％を占め、次いでチャート15点（24.6％）がみられる。この２種の石材で全体の９割を占める。このほか珪質凝灰岩４点（6.6％）、黒曜石と流紋岩がそれぞれ１点づつみられる。

３－８）スクレイパーⅠ類（第29図１～３、第11表）

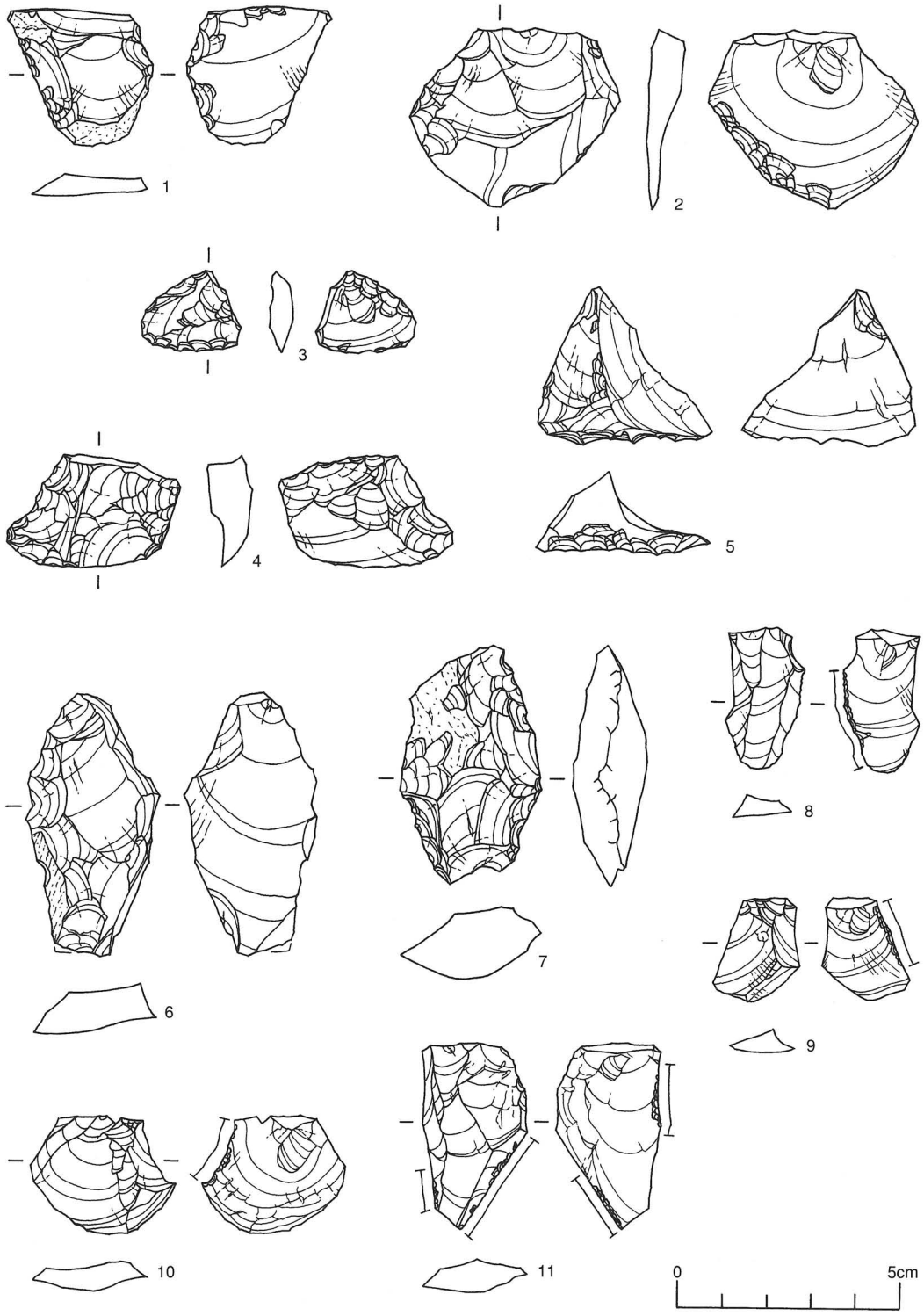
主に押圧剥離によって調整された明瞭な刃部をもつ狭義のスクレイパーをⅠ類とする。総数52点が出土している。このうち、完形品は23点（44.2％）である。完形品の長さと巾をみると、最大で10.2㎝、最小のもので1.1㎝、重さでは110.3～0.9ｇのものがみられる。



第27図　有縁石皿（１・２）、台石（３～７）実測図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
5cm
30
31
32
33
34
35

第28図　石鏃実測図



第29図　スクレイパーⅠ類（1～3）、同Ⅱ類（4～7）、同Ⅲ類（8～11）実測図

使用石材は、下呂石が24点と全体の46.2％を占め、次いでチャートが21点と40.4％を占める。このほか、黒曜石・珪質凝灰岩・硬質頁岩・輝石安山岩などがみられるが、いずれも５％に満たない。

３－９）スクレイパーⅡ類（第29図４～７、第12表）

直接打撃によるとみられる荒い刃部をもつスクレイパーをⅡ類とする。総数41点が出土している。このうち完形品は13点（31.7％）である。完形品の長さと巾をみると、最大で5.9㎝、最小で1.1㎝で、重さでは46.8～0.9ｇのものがみられる。

使用石材は、チャートが23点と全体の56.1％を占め、次いで下呂石が14点と34.2％を占める。このほか、珪質凝灰岩３点（7.3％）、黒曜石１点がみられる。

３－10）スクレイパーⅢ類（第29図８～11、第13表）

使用痕剥片あるいは、微細な細部調整による刃部をもつスクレイパーをⅢ類とする。総数110点が出土している。このうち完形品は、54点（49.1％）である。完形品の長さと巾をみると、最大で7.5㎝、最小で1.1㎝で、重さでは92.4～0.4ｇのものがみられる。

使用石材は、チャートが55点と全体の50％を占め、次いで下呂石が42点と38.2％を占める。このほか、黒曜石が７点（6.4％）あり、わずかに流紋岩・珪質凝灰岩・玉髄・水晶などが使用される。

３－11）石錐（第30図、第14表）

総数56点が出土している。形態から次の４類に分類する。

＜Ⅰ類＞　つまみ部と錐部が明瞭に区別できるもの。

＜Ⅱ類＞　つまみ部と錐部の区別が明瞭ではなく、ほぼ三角形を呈するもの。

＜Ⅲ類＞　つまみ部をもたず錐部のみのもの、またはつまみ部と錐部の区別が明瞭ではなく、棒状を呈するもの。

＜Ⅳ類＞　剥片に加工をせず、そのまま使用するもの。使用痕が残る。

各類の内訳は、Ⅰ類（第30図１～４）６点、Ⅱ類（同５～９）23点、Ⅲ類（同10～17）21点、Ⅳ類（同20）２点あり、破片のため不明なもの（同19）４点がある。

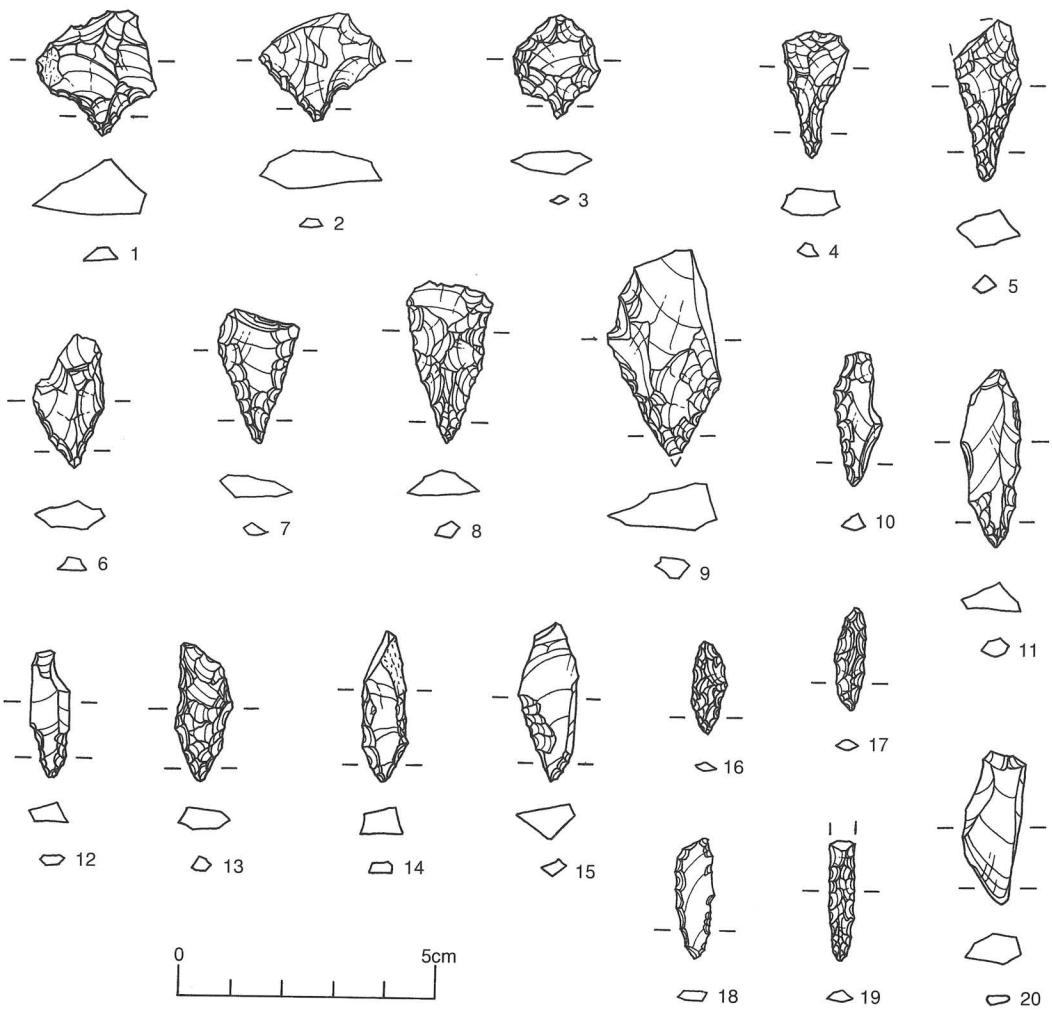
使用石材は、チャート（31点：55.4％）と下呂石（23点：41.1％）が多く、ほかに玉髄が２点みられる。

３－12）磨製石斧（第31図、第15表）

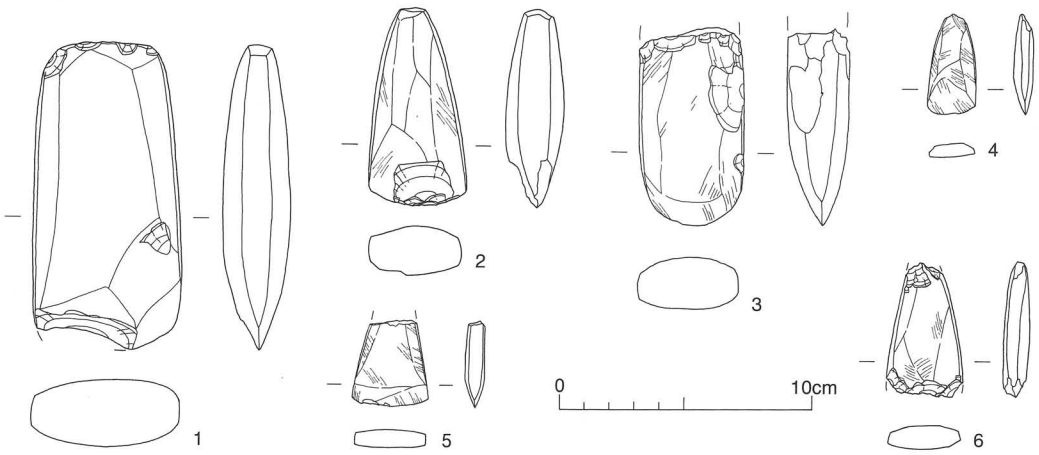
総数19点が出土している。このうち完形品は１点にすぎず、多くが刃部を欠損する。形態をみると破片のため不明な２点を除き、いずれも定角式である。使用石材は蛇紋岩が15点（78.9％）と圧倒的に多く、ほかに安山岩２点、輝緑岩・凝灰岩がそれぞれ１点づつみられる。

３－13）据置砥石（第32図、第16表）

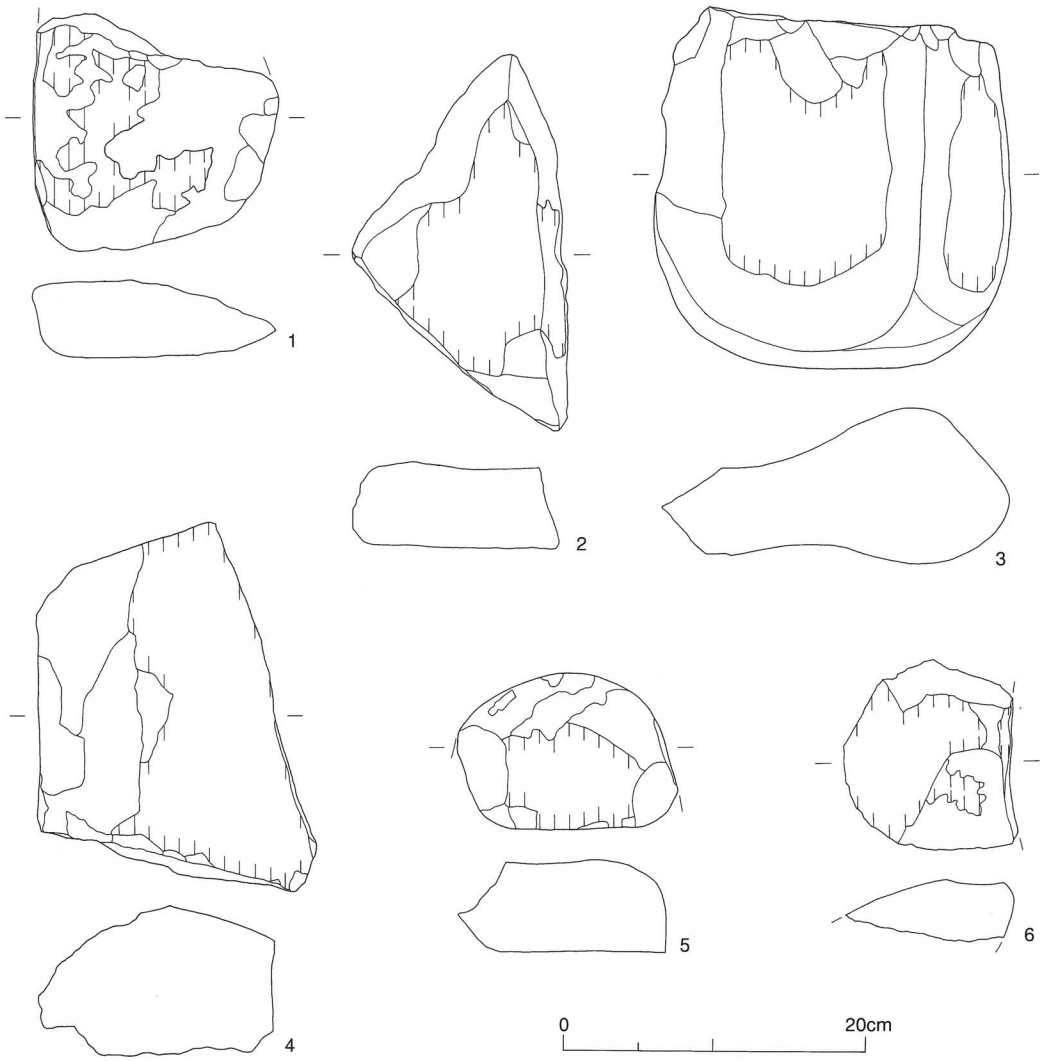
大型で、地面に据えて使用したとみられる砥石を据置砥石とする。総数31点が出土している。使用面には浅く凹む例（第32図２・３・５）があり、新しく再生された剥離面を使用するもの（同１・４～６）がある。



第30図　石錐実測図



第31図　磨製石斧実測図



第32図　据置砥石実測図

使用石材は、砂岩が圧倒的に多く、28点と全体の90.3％を占める。

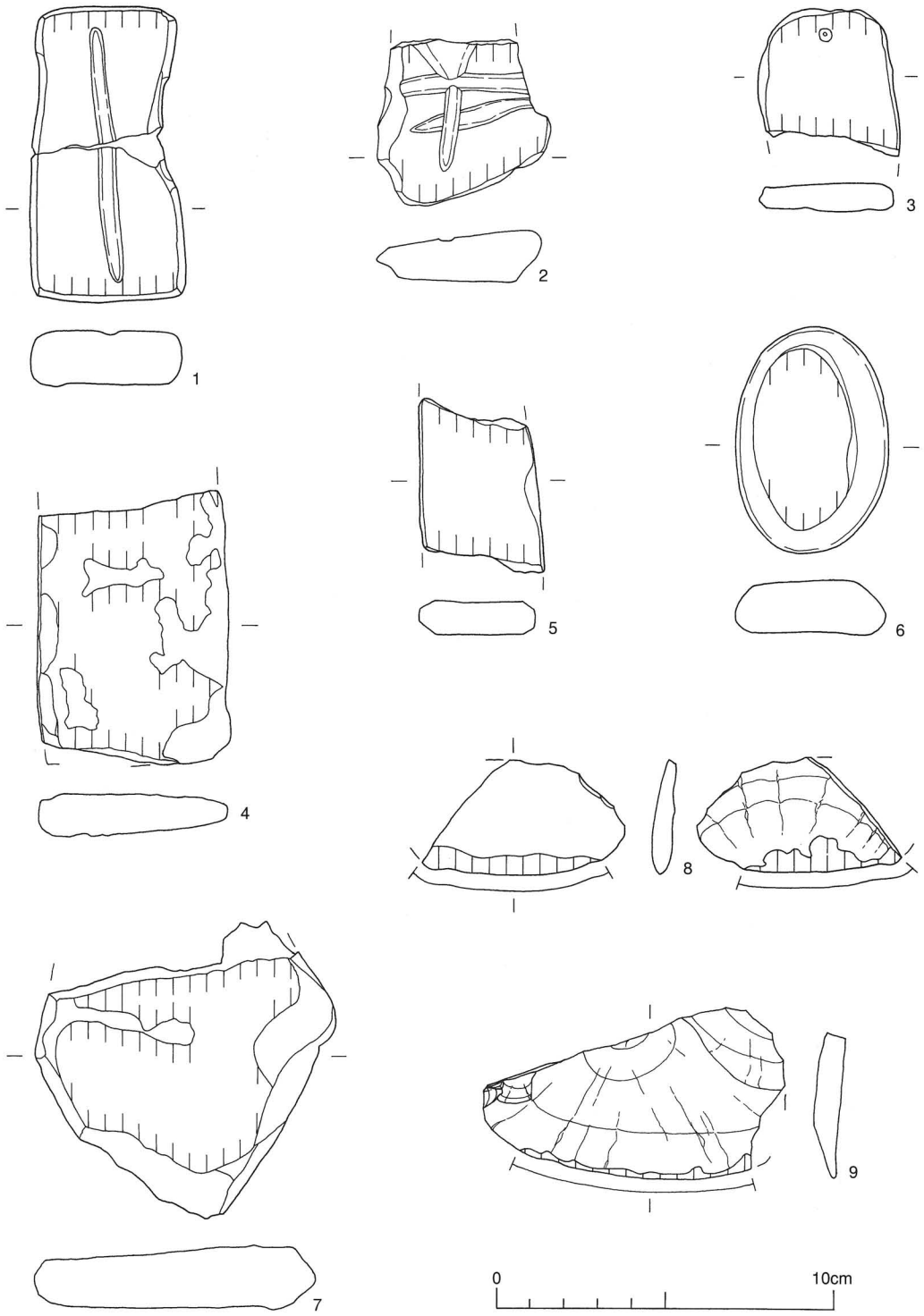
3－14）手持砥石（第33図１～７、第17表）

剥片や小礫を使用し、手に持って扱うことが可能な砥石を手持砥石とする。総数14点が出土している。平面および断面がほぼ長方形を呈するが多い。溝をもつ例（第33図１・２）や上部に穿孔途中の凹がみられる例（同３）がある。

使用石材は、砂岩が12点と全体の85.7％を占め、ほかに飛騨片麻岩が２点みられる。

3－15）擦切石器（第33図８・９、第18表）

剥片または半割礫の端部が著しく磨耗した石器を擦切石器とする。総数９点が出土している。砥石と同様な石器の加工具と想定したが、麻引き刃のような食物繊維の加工具や横刃形石器と同



第33図　手持砥石（1～7）、擦切石器（8・9）実測図

様な機能をもつものが含まれる可能性がある。

使用石材は、砂岩が5点と全体の55.6%を占める。

3－16）敲石Ⅰ類（第34図、第19表）

礫を素材とする石器のうち、敲打痕のみがみられるものを敲石Ⅰ類とする。総数26点が出土している。主に石器製作に用いられたものと推定されるが、磨石や凹石と同様の機能をもつものも含まれる可能性がある。なお、磨面や凹痕を共有するものは、それぞれ磨石と凹石に分類した。使用石材は、輝緑凝灰岩（5点：19.2%）が若干多いが、砂岩・頁岩（各4点：各15.4%）、凝灰岩・安山岩（各3点：各11.5%）、濃飛流紋岩・チャート・花崗閃緑岩（各2点：各7.7%）とバラツキがみられる。磨石や凹石に多用される多孔質安山岩はみられず、比較的硬質な石材を選択している。

3－17）敲石Ⅱ類（第35図1～5、第20表）

縁辺に敲打痕のみられる剥片素材の敲石をⅡ類とする。総数38点が出土している。厚手の剥片の縁辺をそのまま使用するもの。または剥片に二次的な加工を調整を加え、ほぼ楕円形に成形したもので、平面形は横刃形石器に類似するが、顕著な敲打痕が認められる。また、二次的な磨痕が認められるものもある（第35図3・4）。

村内に所在する石棒製作址の塩屋金清神社遺跡にみられる敲石d類（註3）と同様のもので、磨製石器や石製品の敲打工程に用いられたものと推定される。

使用石材は、砂岩（19点：50.0%）が最も多く、安山岩（5点：13.2%）、凝灰岩（4点：10.5%）がこれに続く。

3－18）礫器（第35図6～8、第21表）

総数13点が出土している。礫を素材とするいわゆる礫器をⅠ類（第35図6・7）、剥片を素材とするいわゆる礫器様石器をⅡ類（同8）とする。形態別の内訳は、Ⅰ類7点、Ⅱ類6点である。

敲石との区別は曖昧であるが、敲石Ⅱ類のような顕著なツブレがみられない。同8などは、打製石斧の未製品かもしれない。

使用石材には、安山岩（5点：38.5%）、砂岩（4点：30.8%）などがみられる。

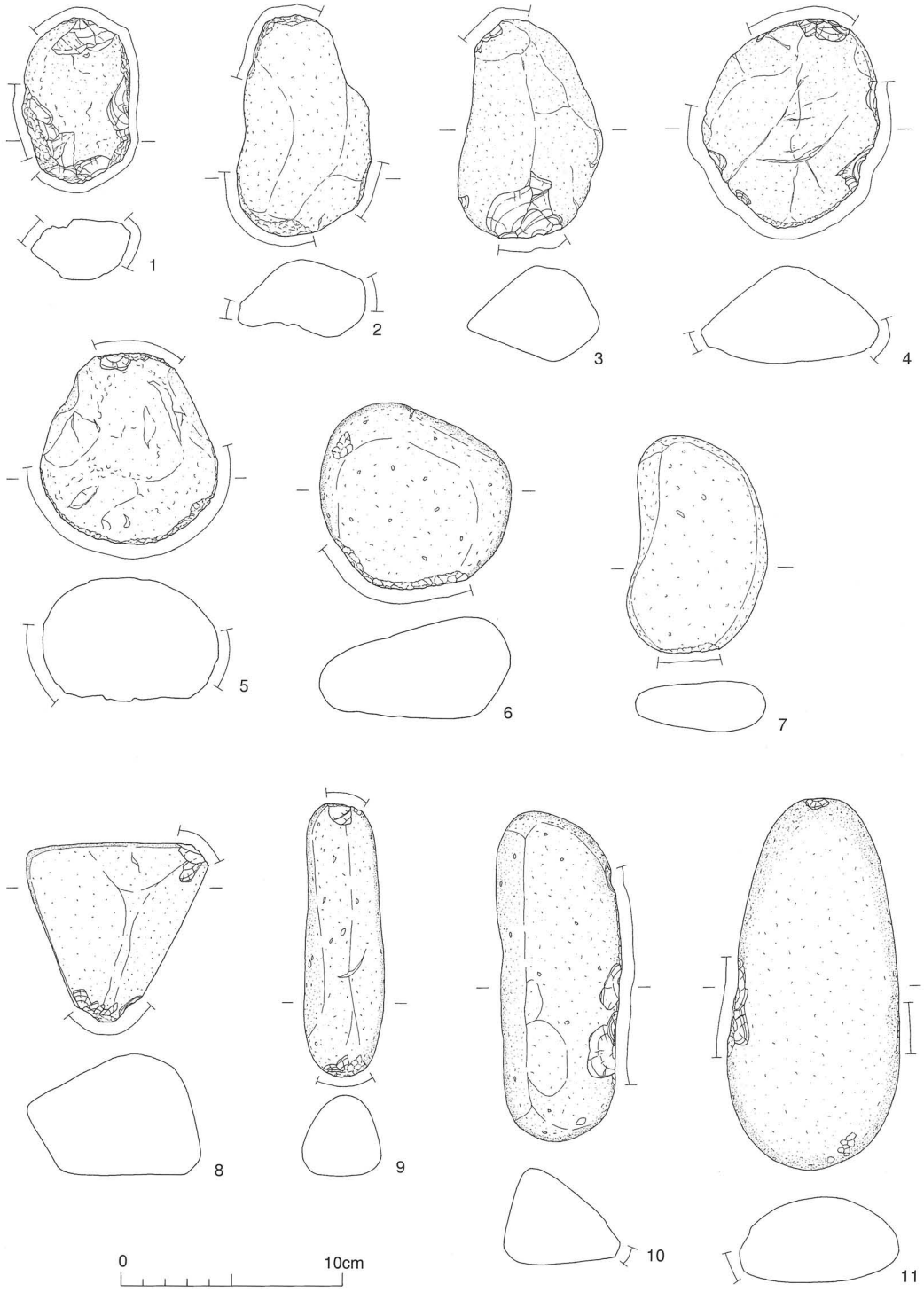
3－19）楔形石器（第36図1～10、第22表）

両端にツブレが認められ、両極剥離または剪断面の観察できる剥片を楔形石器とする。総数186点が出土している。なお、欠損品の可能性がある一端のみツブレが認められる破片やスポールとみられるものは除外した。

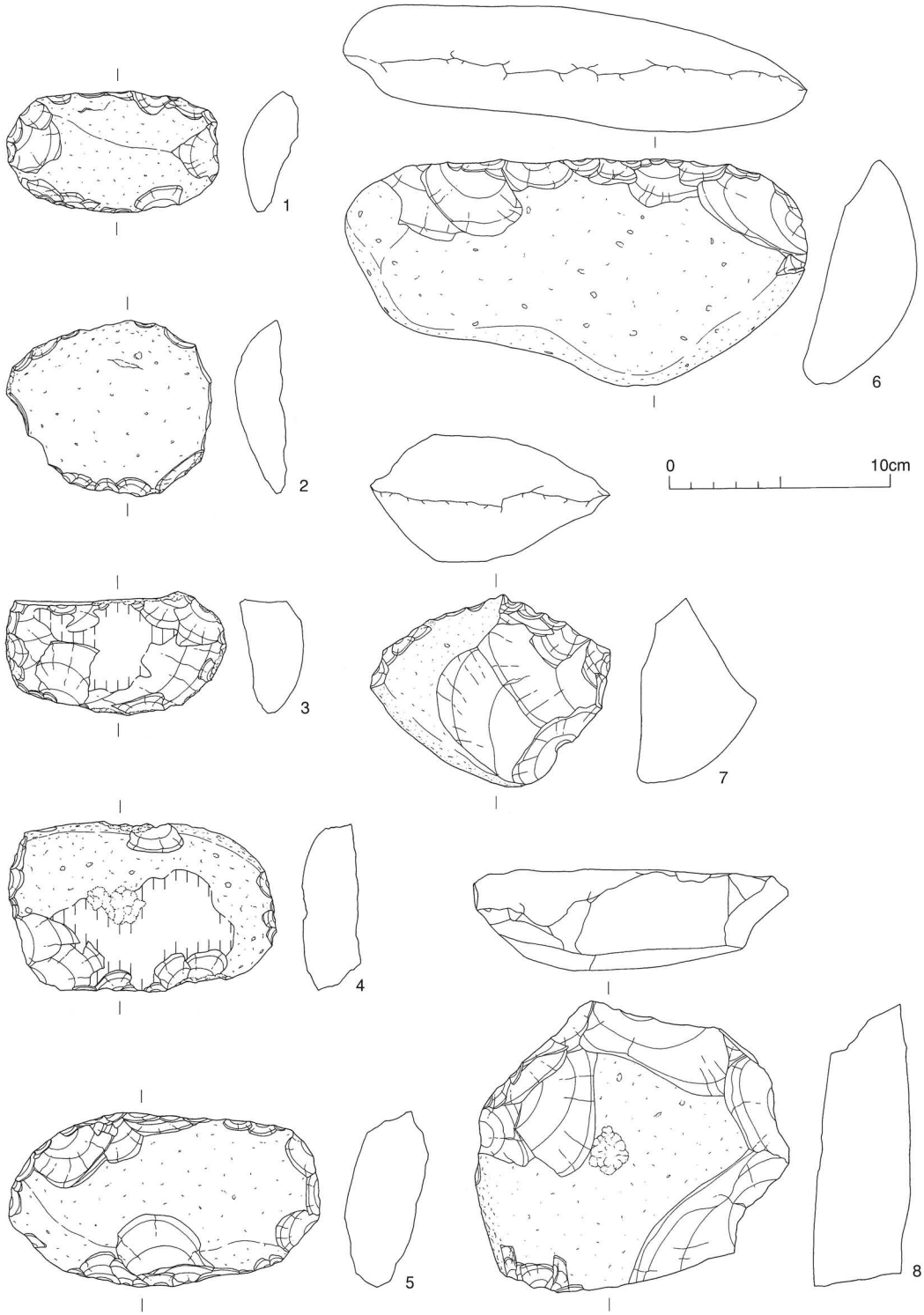
使用石材は、下呂石が116点と全体の62.4%を占め、次いでチャートが61点（32.8%）がみられる。このほか、玉髄・黒曜石・珪質凝灰岩・流紋岩などもみられるが、いずれも2%に満たない。

3－20）礫石錘（第37図1～8、第23表）

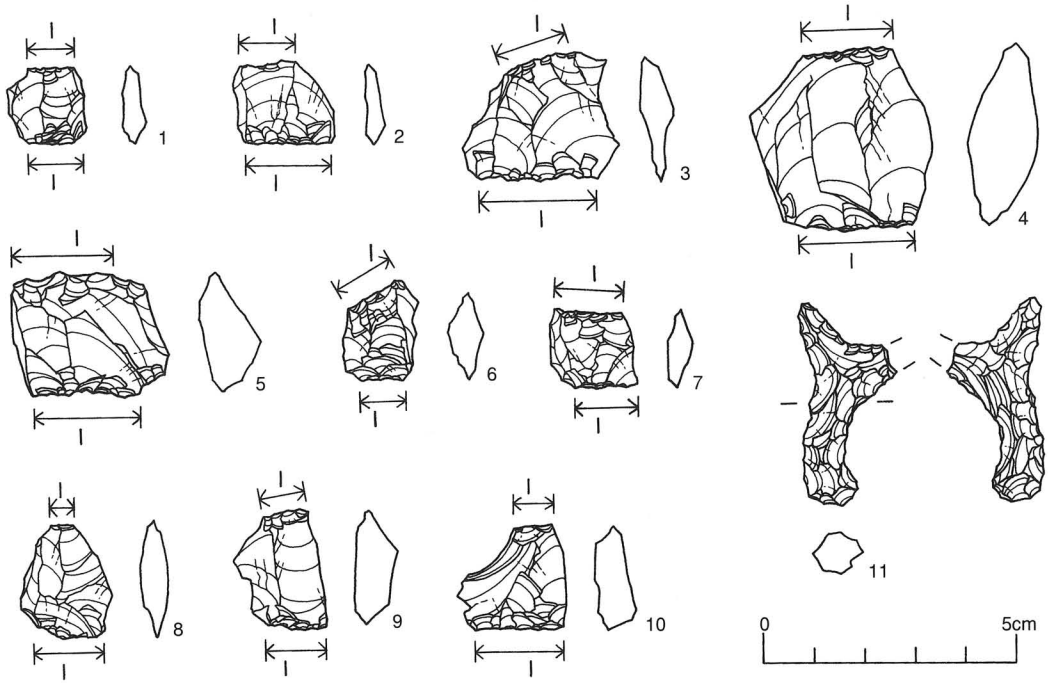
紐巻き部が礫の両端に、剥離または敲打によって設けられるものを礫石錘とする。総数8点が出土している。このうち完形品は5点である。



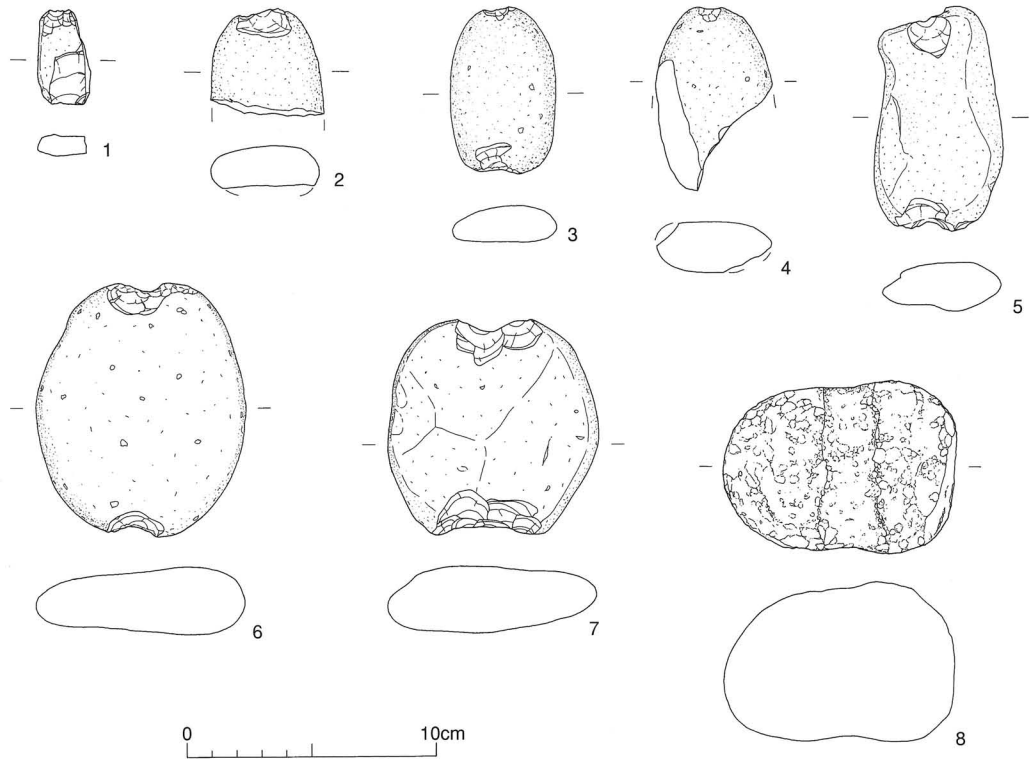
第34図　敲石Ⅰ類実測図



第35図　敲石Ⅱ類（1～5）、礫器（6～8）



第36図　楔形石器（1～10）、異形石器（11）実測図



第37図　礫石錘（1～7）、有溝石錘（8）実測図

法量の計測部位については、最大長（L_1）・打ち欠き間の最短距離（L_2）・上部打ち欠き部の巾（a）・下部の打ち欠き部巾（b）・巾（W）・厚さ（S）および重さである(註4)。

使用石材には、砂岩が3点あるほか、濃飛流紋岩・花崗岩・頁岩・安山岩・凝灰岩がそれぞれ1点づつみられる。点数が少ないことから確実ではないが、石質に対する特定の選択傾向はないものとみられる。

3－21）有溝石錘（第37図8、第24表）

礫の全周に溝を巡らせ、紐巻き部とする石錘を有溝石錘とする。濃飛流紋岩製の完形品1点が出土している。計測部位は、礫石錘と同じだが、出土したものは短軸方向に溝が設けられ、重量のバランスが溝の左右の一方に偏っている。

3－22）異形石器（第36図11、第25表）

Y字状を呈する下呂石製の異形石器1点が出土している。

3－23）石核（第26表）

小型剥片石器の石核108点が出土している。打面の状況から次の3類に分類する。

＜Ⅰ類＞　打面の調整が行なわれず、礫面を打面とするもの。

＜Ⅱ類＞　礫面を打面としたのち、剥片を取った作業面に打面を転移したり、二次剥離を加えて、再度調整された打面をもつもの。礫面打面と、剥離面を打面とする状況が同一石核において観察されるもの。

＜Ⅲ類＞　礫面には打面が認められず、打面調整を行なって剥片が取られているもの。

各類の内訳は、Ⅰ類58点、Ⅱ類37点、Ⅲ類13点である。

石材は、チャートが101点と全体の93.5％を占める。ついで下呂石が4点（3.7％）、珪質凝灰岩2点、流紋岩1点がある。

総重量は、19,975.5ｇに達し、チャートが18,662.1ｇと最も多く、下呂石が967.0ｇ、流紋岩301.3ｇ、珪質凝灰岩45.1ｇがこれに続く。

一個あたりの石材の重量平均値は、チャートで184.8ｇ、下呂石で241.8ｇである。

4．出土石器のまとめ

今回出土した縄文時代の石器組成は、これまでの調査結果と大きく異なるものではなく、主に植物の採集用具や加工調理用具として使用されたと想定できる器種（打製石斧・横刃形石器・磨石・凹石・有縁石皿・台石）が多く、全体の4割強を占める。狩猟用具である石鏃は、全体の5％に満たない。このほか、主に加工用具として使用されたとみられる器種（石錐・磨製石斧・据置砥石・手持砥石・敲石・礫器・楔形石器）が3割程度を占める。

出土総数1,210点のうち、縄文後期～晩期の遺物包含層である第Ⅲ層出土のものは、313点と全体の3割に満たなかった。第Ⅲ層出土石器の組成には、顕著な差異を見いだせないが、あえてあげるなら、礫石錘が出土していないことである。このことは、礫石錘の占める割合が、家ノ下遺跡（晩期前葉～中葉主体）で0.2％、塩屋金清神社遺跡（後期前葉～中葉主体）で0.1％と後晩期には、それほど一般的ではなかったことを示唆している。なお、中期中葉を主体とする堂ノ前遺

跡で8.3%、中期後葉を主体とする杉原瑞穂遺跡で3.9%を占めている。

註1．林直樹ほか、1995：「宮川下流域の打製石斧」『会報　斐陀』4、高山歴史研究会.
　　の分類に準じた。
註2．岩石学的にみると、シソ輝石角閃石安山岩や角閃石安山岩などに細分できる。目が荒
　　く、やや軟質で多孔質となる安山岩を「多孔質安山岩」とした。
註3．宮川村教育委員会、2000：『塩屋金清神社遺跡（A地点）発掘調査報告書』による。
註4．渡辺　誠、1985：『岐阜県中津川市阿曾田遺跡発掘調査報告書』による。

第4表　打製石斧一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	基部巾	刃部巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	Q5 I	Ⅰa	完形	頁岩	12.8	3.7	4.6	2.5	176	第23図1
2	R5 I	Ⅰa	基部一部欠損	安山岩	(14.1)	4.7	6.9	3.0	(381)	
3	H16 Ⅰb		基部欠損	頁岩	(9.8)	−	6.7	(2.0)	(188)	
4	J16 Ⅰb		刃部欠損	砂岩	(8.8)	−	7.7	(2.7)	(239)	
5	J16 Ⅰb		刃部・基部欠損	頁岩	(5.9)	−	−	(2.5)	(95)	
6	E17 Ⅰb		刃部欠損	飛騨片麻岩	(12.5)	6.9	−	(1.9)	(281)	
7	G17 Ⅰb		基部欠損	頁岩	(10.9)	−	4.5	1.3	(81)	
8	I17 Ⅰb	Ⅱa	完形	砂岩	14.4	4.4	6.7	2.6	286	
9	I17 Ⅰb	Ⅰb	完形	頁岩	9.1	4.2	4.8	1.2	75	
10	J17 Ⅰb	Ⅰa	完形	花崗閃緑岩	15.1	5.7	7.4	3.2	539	同　3
11	J17 I	Ⅱb	完形	頁岩	14.7	4.5	5.0	2.1	248	
12	J17 Ⅰb		基部欠損	凝灰岩	(8.8)	−	8.8	(1.6)	(148)	
13	J17Ⅲ		刃部欠損	頁岩	(9.1)	3.6	−	(1.8)	(93)	
14	K17 Ⅰb	Ⅰa	完形	頁岩	16.8	4.0	4.2	2.2	196	同　2
15	K17 Ⅰb	Ⅰa	完形	頁岩	11.0	4.6	5.1	2.4	202	
16	K17 Ⅰb		刃部欠損	頁岩	(9.9)	6.7	−	(2.7)	(277)	
17	K17 Ⅰb		基部破片	砂岩	(5.7)	−	−	(1.6)	(44)	
18	K17 Ⅰb		基部破片	頁岩	(5.2)	5.4	−	(1.2)	(35)	
19	O17 Ⅰb		胴部破片	凝灰岩	(6.9)	−	−	(1.5)	(81)	
20	F18 Ⅰb		基部破片	頁岩	(3.8)	−	−	(0.8)	(12)	
21	G18 Ⅰb	Ⅱb	完形	頁岩	10.2	3.5	5.4	1.3	101	第24図2
22	G18 Ⅰb		刃部欠損	頁岩	(8.1)	3.9	−	2.2	(98)	
23	G18 Ⅰb		基部破片	頁岩	3.3	3.0	−	(1.1)	(19)	
24	E19 Ⅰb		刃部破片	頁岩	(5.5)	−	−	(1.8)	(57)	
25	E20Ⅱ		刃部・基部欠損	頁岩	(6.1)	−	−	(1.7)	(69)	
26	E20Ⅱ		基部破片	頁岩	(5.2)	5.0	−	(2.2)	(79)	
27	E21 Ⅰb		刃部欠損	砂岩	(11.2)	5.9	−	4.3	(350)	
28	E21Ⅱ	Ⅰa	完形	凝灰岩	10.5	4.2	4.9	2.3	149	
29	E21Ⅱ	Ⅱa	完形	頁岩	11.4	3.1	4.7	1.7	114	第23図7
30	E21Ⅱ		基部破片	安山岩	(10.9)	−	−	(2.8)	(181)	
31	E22 I	Ⅰb	完形	頁岩	9.9	5.0	7.2	2.0	140	
32	E22 I		刃部欠損	安山岩	(10.0)	4.5	−	3.2	(275)	同　5
33	E22Ⅱ		基部破片	飛騨片麻岩	(9.1)	6.3	−	(3.0)	(259)	
34	E22Ⅱ		基部欠損	飛騨片麻岩	(10.4)	−	5.7	1.5	(129)	
35	E22Ⅱ		基部破片	閃緑岩	(3.1)	4.4	−	(1.1)	(25)	
36	E23 Ⅰb	Ⅱa	完形	安山岩	14.0	3.4	6.4	3.0	314	
37	E23Ⅱ		刃部欠損	凝灰岩	(9.8)	4.0	−	(1.6)	(95)	
38	E23Ⅱ		刃部欠損	安山岩	(11.3)	6.1	−	(2.9)	(178)	
39	E23Ⅱ		刃部欠損	頁岩	(7.5)	−	5.7	2.0	(111)	
40	E23Ⅱ		基部破片	頁岩	(7.9)	−	−	(2.1)	(152)	
41	E23Ⅱ		基部破片	砂岩	(5.2)	5.9	−	(2.4)	(117)	
42	E23Ⅱ		刃部欠損	凝灰質流紋岩	(7.1)	−	−	2.1	(97)	
43	E24 Ⅰb		刃部破片	砂岩	(7.4)	−	−	(1.6)	(65)	
44	N24 Ⅰb		刃部欠損	安山岩	(9.0)	4.4	−	2.4	(116)	
45	N24Ⅲ		刃部・基部欠損	凝灰質流紋岩	(10.1)	6.6	−	2.3	(179)	
46	O241 b		刃部破片	頁岩	(3.8)	−	−	(1.0)	(15)	
47	O24Ⅲ		刃部破片	安山岩	(8.9)	−	9.1	(3.2)	(279)	
48	O24Ⅲ		基部欠損	安山岩	(10.4)	−	7.6	(3.2)	(360)	
49	O24Ⅲ		刃部欠損	頁岩	(11.6)	6.6	−	(2.1)	(205)	
50	N25 Ⅰb	Ⅰb	完形	濃飛流紋岩	15.0	5.4	7.1	3.9	490	

51	N25Ⅰb	Ⅰa	完形	頁岩	9.5	4.7	4.2	2.4	141		
52	N25Ⅰb		刃部欠損	安山岩	(7.3)	3.7	—	2.4	(107)		
53	N25Ⅰb		刃部破片	頁岩	(6.2)	—	5.9	(1.6)	(79)		
54	N25Ⅲ		未製品	凝灰質流紋岩	(15.6)	6.1	(8.2)	1.6	(251)		
55	O25Ⅰb		刃部欠損	頁岩	(9.0)	3.9	—	1.1	(51)		
56	O25Ⅰb、Q26Ⅲ		胴部破片	安山岩	12.0	—	—	(2.1)	(125)		
57	O25Ⅲ	Ⅱb	完形	凝灰岩	14.5	5.7	8.2	2.6	274		
58	O25Ⅲ	Ⅱb	完形	凝灰岩	10.7	5.2	6.2	2.8	226		
59	O25Ⅲ	Ⅱb	完形	砂岩	9.3	4.2	5.9	1.4	99	同	6
60	P25Ⅰb		刃部欠損	頁岩	(7.0)	3.7	—	(1.2)	(50)		
61	Q25Ⅲ		基部破片	砂岩	(8.3)	—	—	(1.7)	77		
62	J26Ⅰb	Ⅰb	完形	凝灰岩	10.2	5.0	5.8	2.7	213		
63	J26Ⅰb		刃部欠損	安山岩	(8.1)	5.2	—	(2.5)	(125)		
64	J26Ⅰb		基部破片	頁岩	(6.8)	4.0	—	(1.1)	(34)		
65	K26Ⅰb	Ⅱb	完形	頁岩	9.5	4.2	6.4	1.9	131		
66	L26Ⅰb		刃部欠損	濃飛流紋岩	(9.0)	5.6	—	(3.2)	(179)		
67	L26Ⅰb		刃部欠損	安山岩	(7.8)	4.6	—	(2.4)	(130)		
68	L26Ⅲ	Ⅰb	完形	濃飛流紋岩	13.3	4.7	7.0	3.1	378	同	4
69	L26Ⅲ		基部欠損	安山岩	(7.5)	—	8.6	(3.2)	(365)		
70	L26Ⅲ		基部破片	頁岩	(4.9)	3.2	—	(1.1)	(23)		
71	M26Ⅰb	Ⅰa	完形	頁岩	11.4	4.1	5.5	2.1	162		
72	M26Ⅲ	Ⅱa	完形	安山岩	19.5	5.2	8.3	2.8	569	同	9
73	M26Ⅲ	Ⅰb	完形	安山岩	14.8	5.6	7.9	4.8	618		
74	M26Ⅲ	Ⅱb	基部一部欠損	砂岩	(11.8)	4.2	6.7	2.0	(196)		
75	M26Ⅲ		刃部一部欠損	砂岩	10.4	5.5	—	2.1	(168)		
76	M26Ⅲ		基部破片	安山岩	(7.8)	—	—	(1.6)	(113)		
77	M26Ⅲ		刃部破片	砂岩	(9.5)	—	9.5	(2.5)	(268)		
78	M26Ⅲ		刃部・基部欠損	砂岩	(7.8)	—	—	(3.3)	(279)		
79	N26Ⅰb		基部欠損	ヒン岩	(11.0)	—	8.7	(4.3)	(510)		
80	N26Ⅲ	Ⅱb	完形	安山岩	15.3	5.1	9.1	1.8	289	第24図	1
81	N26Ⅲ	Ⅰa	完形	安山岩	14.5	4.1	7.1	2.0	244		
82	N26Ⅲ		刃部一部欠損	頁岩	12.9	3.7	—	2.2	(163)		
83	N26Ⅲ		側面欠損	安山岩	12.1	4.6	—	3.0	(254)		
84	N26Ⅲ		刃部一部欠損	安山岩	15.1	5.9	—	2.8	(391)		
85	N26Ⅲ		基部欠損	花崗閃緑岩	(10.7)	—	7.7	3.4	(378)		
86	N26Ⅲ		刃部欠損	ハンレイ岩	(8.7)	5.2	—	4.8	(354)		
87	N26Ⅲ		刃部破片	頁岩	(5.5)	—	4.4	(1.4)	(42)		
88	O26Ⅰb		刃部欠損	飛騨片麻岩	(9.1)	6.3	—	(3.4)	(239)		
89	O26Ⅰb		刃部欠損	飛騨片麻岩	(7.1)	4.8	—	(1.6)	(91)		
90	O26Ⅲ		基部欠損	安山岩	(8.6)	—	5.8	1.6	(110)		
91	O26Ⅲ		刃部破片	頁岩	(5.5)	—	—	(0.9)	(34)		
92	P26Ⅰb		刃部欠損	安山岩	(7.5)	6.5	—	(3.5)	(234)		
93	P26Ⅰb		刃部欠損	飛騨片麻岩	(6.4)	4.9	—	(2.2)	(98)		
94	P26Ⅰb		刃部・基部欠損	濃飛流紋岩	(8.5)	—	—	2.3	(163)		
95	P26Ⅲ		基部破片	安山岩	(6.0)	4.6	—	(3.1)	(133)		
96	P26Ⅲ		基部破片	頁岩	(4.1)	—	—	(0.8)	(9)		
97	Q26Ⅰb	Ⅱb	完形	頁岩	9.9	3.2	5.1	1.0	70	同	3
98	Q26Ⅲ	Ⅰa	完形	頁岩	11.2	2.2	3.2	1.0	61		
99	Q26Ⅲ	Ⅱa	完形	頁岩	14.8	3.3	5.6	2.3	246		
100	Q26Ⅲ		刃部欠損	安山岩	(9.0)	4.2	—	1.2	(53)		
101	R26Ⅰb	Ⅱa	完形	頁岩	15.7	4.4	7.1	2.9	321.1	第23図	8
102	表面採集	Ⅱa	完形	頁岩	11.0	3.0	4.9	1.4	106.1		
103	表面採集	Ⅰa	完形	頁岩	9.0	3.3	3.6	1.2	53.3		

104	表面採集	刃部一部欠損	頁岩	10.5	2.8	−	1.2	(53.0)	
105	表面採集	刃部欠損	頁岩	(11.3)	3.3	−	(2.2)	122.5	
106	表面採集	基部欠損	凝灰岩	(11.1)	−	7.7	3.1	328.2	
107	表面採集	刃部欠損	頁岩	(7.5)	4.3	−	(1.4)	(60.6)	
108	表面採集	基部破片	頁岩	(3.4)	4.9	−	(1.0)	(19.1)	
109	表面採集	基部破片	凝灰質流紋岩	(2.1)	−	−	(1.9)	(20.4)	

第5表 横刃形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	E14Ib	完形	頁岩	7.7	8.0	2.5	124	
2	H16Ib	完形	安山岩	4.9	13.8	1.0	64	
3	H16Ib	完形	頁岩	5.0	9.4	1.1	79	第24図11
4	J16Ib	完形	頁岩	7.1	13.7	1.6	221	同 14
5	G17Ib	一部欠損	頁岩	5.2	(7.6)	0.7	(38)	同 10
6	G17Ib	一部欠損	頁岩	4.9	(10.3)	1.0	(64)	
7	G17Ib	1/3欠損	頁岩	7.0	(8.4)	1.4	(96)	
8	G17Ib	1/2欠損	砂岩	(7.4)	(6.7)	1.3	(71)	
9	G17Ib	破片	頁岩	(2.7)	(4.4)	(0.8)	(7)	
10	G17IIIa	1/3欠損	頁岩	3.7	(5.9)	0.6	(17)	
11	H17Ib	完形	頁岩	4.6	7.7	0.7	(30)	
12	H17Ib	一部欠損	頁岩	(4.6)	7.2	0.8	(31)	
13	H17Ib	完形	頁岩	3.3	7.9	0.7	18	
14	H17Ib	一部欠損	頁岩	5.2	(5.3)	0.9	(20)	
15	H17Ib	破片	頁岩	(3.0)	(3.8)	(0.8)	(11)	
16	H17IIIa	完形	安山岩	7.5	11.2	1.7	130	
17	I17Ib	1/2欠損	頁岩	(5.0)	(5.1)	0.8	(22)	
18	I17Ib	1/2欠損	濃飛流紋岩	(11.6)	(8.5)	(2.5)	(224)	
19	J17Ib	一部欠損	頁岩	(5.7)	5.9	1.1	(43)	
20	K17Ib	一部欠損	凝灰質流紋岩	8.8	(11.8)	2.2	(179)	
21	K17Ib	完形	砂岩	5.3	10.6	10.8	100	
22	K17Ib	完形	頁岩	4.7	8.9	10.4	63	
23	K17Ib	一部欠損	頁岩	6.4	(8.2)	0.9	(55)	
24	K17Ib	一部欠損	頁岩	6.3	(6.1)	1.1	(54)	
25	K17Ib	1/2欠損	砂岩	(5.6)	(8.2)	(2.2)	(88)	
26	K17Ib	1/3欠損	安山岩	(4.3)	(7.5)	0.6	(19)	
27	K17Ib	破片	頁岩	(3.6)	(2.6)	0.7	(8)	
28	K17IIIb	一部欠損	安山岩	6.6	(10.0)	2.1	(122)	
29	E18Ib	完形	頁岩	7.8	12.9	1.8	163	
30	E18Ib	完形	頁岩	6.1	9.7	1.6	119	同 13
31	E18Ib	完形	頁岩	3.4	10.0	1.1	46	
32	E18Ib	1/3欠損	砂岩	(7.8)	(8.7)	2.0	(128)	
33	H18Ib	完形	頁岩	6.4	13.0	2.1	207	同 15
34	H18Ib	一部欠損	頁岩	4.6	(7.2)	1.2	(54)	
35	H18Ib	完形	頁岩	3.1	6.4	0.5	12	
36	H18Ib	2/3欠損	頁岩	(7.0)	(4.5)	(1.1)	(36)	
37	H18Ib	完形	頁岩	6.0	8.5	1.6	94	同 7
38	O17Ib	一部欠損	砂岩	4.4	(8.5)	1.1	(55)	
39	O17Ib	2/3欠損	頁岩	(4.1)	(5.0)	(0.7)	(12)	
40	E19Ib	一部欠損	頁岩	(5.5)	(8.7)	(1.2)	(71)	
41	E19Ib	完形	頁岩	5.0	6.1	1.5	39	
42	E19II	完形	安山岩	7.1	9.3	1.5	102	

43	E19Ⅱ	完　形	頁　岩	5.4	7.2	1.1	40	
44	E19Ⅱ	一部欠損	頁　岩	5.2	10.6	1.1	(71)	同　9
45	E19Ⅱ	⅔欠損	砂　岩	(4.4)	(7.1)	(1.5)	(46)	
46	E19Ⅱ	破　片	安山岩	(3.6)	(5.4)	(0.9)	(13)	
47	E20Ⅱ	完　形	頁　岩	4.9	9.7	0.8	35	同　5
48	E20Ⅱ	一部欠損	頁　岩	5.3	6.8	1.1	(39)	
49	E20Ⅱ	⅓欠損	頁　岩	(6.0)	(5.4)	1.2	(30)	
50	E20Ⅱ	½欠損	凝灰岩	(8.3)	(9.1)	(2.9)	(157)	
51	E20Ⅱ	一部欠損	砂　岩	(7.6)	10.5	1.8	(171)	
52	E21Ⅱ	完　形	頁　岩	4.7	13.8	1.1	67	
53	E21Ⅱ	完　形	安山岩	6.3	10.2	1.4	104	
54	E21Ⅱ	完　形	頁　岩	4.0	10.5	1.0	45	同　4
55	E21Ⅱ	一部欠損	頁　岩	(6.0)	(9.7)	1.5	(59)	同　6
56	E21Ⅱ	完　形	安山岩	5.9	8.7	1.1	60	
57	E21Ⅱ	⅓欠損	頁　岩	4.4	(6.8)	0.9	(29)	
58	E21Ⅱ	⅓欠損	頁　岩	3.6	(5.2)	0.5	(10)	
59	E22Ⅰb	⅓欠損	砂　岩	7.0	(7.1)	1.9	(106)	
60	E22Ⅱ	⅓欠損	凝灰質流紋岩	(6.3)	10.5	1.8	(136)	
61	E22Ⅱ	完　形	頁　岩	5.4	7.7	0.9	42	
62	E22Ⅱ	一部欠損	砂　岩	7.0	(6.6)	1.1	(57)	
63	E23Ⅰb	完　形	安山岩	6.9	13.2	3.8	281	
64	E23Ⅱ	一部欠損	砂　岩	3.9	(8.2)	1.0	(40)	
65	E23Ⅱ	一部欠損	安山岩	(4.9)	6.5	0.7	(22)	
66	E24Ⅰb	一部欠損	安山岩	(5.9)	(12.8)	1.4	(123)	
67	N24Ⅰb	½欠損	濃飛流紋岩	4.3	(5.7)	(1.4)	(28)	
68	N24Ⅲ	完　形	安山岩	9.5	10.5	2.3	204	
69	O24Ⅰb	一部欠損	安山岩	8.1	(10.6)	1.6	(140)	
70	O24Ⅲ	完　形	頁　岩	5.3	8.6	1.3	56	
71	O24Ⅲ	完　形	安山岩	3.9	7.4	0.9	27	
72	N25Ⅰb	完　形	閃緑岩	6.2	9.1	1.6	112	
73	N25Ⅲ	一部欠損	凝灰質流紋岩	8.6	(11.4)	1.6	(144)	
74	O25Ⅰb	完　形	頁　岩	5.7	7.0	1.7	67	
75	Q25Ⅰb	一部欠損	頁　岩	4.6	(9.0)	1.2	(43)	
76	K26Ⅰb	完　形	ヒン岩	5.2	8.6	1.7	74	
77	K26Ⅰb	完　形	安山岩	5.6	7.1	1.2	41	
78	K26Ⅰb	一部欠損	頁　岩	4.6	(8.7)	2.1	(75)	
79	K26Ⅰb	½欠損	頁　岩	4.3	(6.5)	0.9	(26)	
80	K26Ⅲ	一部欠損	安山岩	9.6	(11.5)	1.6	(212)	
81	L26Ⅰb	一部欠損	凝灰岩	6.2	(9.8)	0.9	(71)	同　12
82	L26Ⅰb	½欠損	頁　岩	(3.9)	(9.3)	(1.3)	(48)	
83	M26Ⅰb	½欠損	安山岩	(7.2)	(7.4)	1.5	(82)	
84	M26Ⅰb	½欠損	頁　岩	(4.6)	(6.7)	(1.1)	(27)	
85	N26Ⅰb	一部欠損	安山岩	5.6	(8.3)	1.7	(95)	
86	N26Ⅲ	一部欠損	頁　岩	5.7	(10.5)	0.9	(72)	
87	N26Ⅲ	⅓欠損	安山岩	(8.7)	(7.8)	1.2	(85)	
88	O26Ⅰb	一部欠損	砂　岩	6.6	(10.8)	1.7	(149)	
89	O26Ⅰb	一部欠損	凝灰質流紋岩	7.4	(12.9)	2.2	(182)	
90	O26Ⅲ	完　形	安山岩	6.9	9.3	1.3	78	同　8
91	O26Ⅲ	完　形	安山岩	3.7	7.6	1.0	24	
92	O26Ⅲ	破　片	砂　岩	(6.3)	(4.2)	1.8	(56)	
93	R26Ⅰb	一部欠損	頁　岩	5.0	(5.6)	1.0	(31)	
94	R26Ⅰb	⅔欠損	凝灰質流紋岩	(5.3)	(4.9)	0.8	(28)	
95	表面採集	½欠損	砂　岩	(5.7)	(9.6)	1.2	(79)	

96	表面採集	一部欠損	頁	岩	(5.4)	9.8	1.5	(75)
97	表面採集	一部欠損	頁	岩	4.2	(7.2)	1.8	(60)
98	表面採集	½ 欠 損	頁	岩	4.0	(4.5)	0.8	(17)
99	表面採集	破 片	頁	岩	(4.0)	(2.2)	(1.2)	(14)
100	表面採集	⅓ 欠 損	頁	岩	(3.8)	(4.8)	(1.0)	(17)

第6表 磨石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	E14Ⅰb	Ⅰ	一部欠損	砂岩	(10.2)	6.9	2.3	(245)	
2	G16Ⅰb	Ⅰ	⅓ 欠 損	多孔質安山岩	(8.8)	(5.7)	4.2	(237)	
3	H16Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	10.7	6.8	4.2	358	
4	Ⅰ16Ⅰb	Ⅰ	完 形	安山岩	8.2	7.1	5.7	428	
5	E17Ⅰb	－	½ 欠 損	多孔質安山岩	(9.9)	(7.8)	3.1	(406)	
6	E17Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	11.4	8.1	5.2	676	
7	F14Ⅲ	Ⅱ	⅓ 欠 損	多孔質安山岩	(8.7)	7.2	4.6	(477)	
8	F17Ⅲa	Ⅰ	⅓ 欠 損	砂岩	(11.8)	6.7	4.2	(630)	
9	F17Ⅲa	Ⅰ	完 形	砂岩	13.4	6.7	5.5	730	
10	F17Ⅲa	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	9.9	7.7	4.9	440	
11	F17Ⅲa	Ⅰ	完 形	砂岩	5.7	4.8	4.7	159	第25図1
12	F17SB上	Ⅰ	完 形	濃飛流紋岩	11.8	10.4	5.6	959	
13	G17Ⅰb	Ⅰ	完 形	閃緑岩	12.4	7.0	3.3	471	
14	H17Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	8.4	6.7	5.3	428	
15	Ⅰ17Ⅰb	－	破 片	砂岩	(7.4)	(5.7)	(2.1)	(82)	
16	Ⅰ17Ⅰb	Ⅰ	完 形	砂岩	10.1	6.2	2.1	193	
17	Ⅰ17Ⅲa	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	9.7	8.0	4.9	459	
18	J17Ⅰb	Ⅱ	完 形	安山岩	12.5	6.3	2.8	352	
19	J17Ⅰb	Ⅱ	一部欠損	安山岩	11.1	6.9	3.5	(432)	同 8
20	K17Ⅰb	Ⅰ	完 形	安山岩	14.2	9.7	4.5	1024	
21	K17Ⅰb	Ⅰ	一部欠損	多孔質安山岩	11.6	(9.9)	5.4	(787)	
22	K17Ⅰb	Ⅰ	完 形	安山岩	10.5	4.2	2.1	179	
23	K17Ⅰb	Ⅱ	完 形	砂岩	14.9	6.8	3.5	630	同 9
24	N17Ⅰb	Ⅰ	完 形	砂岩	12.0	4.5	3.3	244	
25	N17Ⅰb	Ⅰ	完 形	濃飛流紋岩	11.5	6.5	2.8	327	
26	O17Ⅰb	Ⅰ	完 形	砂岩	12.6	8.0	3.5	605	
27	E18Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	10.3	6.7	4.0	407	
28	E18Ⅰb	－	破 片	砂岩	(4.8)	(6.7)	(5.8)	(187)	
29	E18Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	12.3	9.0	6.0	847	
30	H18Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	7.1	6.7	5.2	339	
31	H18Ⅰb	－	破 片	砂岩	(7.9)	(3.8)	(7.7)	(189)	
32	Ⅰ18Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	14.0	7.0	5.2	802	
33	E19Ⅰb	Ⅰ	完 形	砂岩	12.2	5.7	3.0	345	
34	E19Ⅰb	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	6.2	5.1	3.7	128	
35	E19Ⅱ	Ⅱ	完 形	多孔質安山岩	12.6	10.1	5.7	958	
36	E19Ⅱ	Ⅰ	完 形	安山岩	8.9	7.1	2.9	254	
37	E19Ⅱ	Ⅰ	一部欠損	多孔質安山岩	9.4	(8.6)	5.8	(621)	
38	E19Ⅱ	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	8.4	6.9	4.5	311	
39	E19Ⅱ	Ⅰ	完 形	ハンレイ岩	7.5	6.7	3.8	307	
40	E19Ⅱ	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	12.8	11.1	3.8	798	
41	E19Ⅱ	Ⅰ	完 形	多孔質安山岩	5.7	4.8	4.3	147	
42	E20Ⅱ	Ⅰ	完 形	安山岩	9.5	7.8	5.3	564	
43	E20Ⅱ	Ⅰ	完 形	濃飛流紋岩	8.9	8.2	5.7	515	

44	E20Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.6	10.5	9.3	1400	
45	E20Ⅱ	—	破　片	砂　岩	(8.1)	(5.4)	(3.4)	(221)	
46	E20Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	9.0	6.6	5.3	420	
47	E20Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	11.3	9.1	5.6	725	
48	E20Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	14.2	8.5	6.1	897	
49	E20Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.1	9.4	5.1	635	
50	E20Ⅱ	Ⅰ	一部欠損	凝　灰　岩	(9.9)	5.8	3.7	(284)	
51	E21Ⅰb	Ⅰ	完　形	凝　灰　岩	8.5	4.3	2.7	128	
52	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.5	9.3	5.0	642	
53	E21Ⅱ	—	2/3 欠損	多孔質安山岩	(10.1)	(3.3)	(7.0)	(344)	
54	E21Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	12.1	8.1	5.3	759	
55	E21Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	砂　岩	(7.9)	6.3	4.6	(319)	
56	E21Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	凝灰質流紋岩	(9.3)	(6.2)	3.6	(263)	
57	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	濃飛流紋岩	9.8	6.7	4.5	421	
58	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	砂　岩	6.7	5.4	2.8	140	
59	E21Ⅱ	—	1/2 欠損	多孔質安山岩	(6.5)	8.1	5.4	(313)	
60	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	砂　岩	7.0	4.9	3.4	156	
61	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	濃飛流紋岩	13.3	5.6	4.2	475	
62	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	7.4	6.2	4.3	249	
63	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	砂　岩	11.0	8.4	5.4	666	
64	E21Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	(12.2)	9.5	7.0	(1064)	
65	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	13.4	8.3	4.8	656	
66	E21Ⅱ	Ⅱ	一部欠損	濃飛流紋岩	12.1	(8.2)	4.7	(717)	
67	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	14.9	11.3	5.8	1400	
68	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	砂　岩	8.3	4.9	4.5	267	
69	E21Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	11.3	8.4	6.2	898	
70	E21Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	11.4	7.8	6.2	730	
71	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	8.2	7.3	4.3	337	
72	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.2	5.2	2.5	222	
73	E21Ⅱ	Ⅱ	完　形	砂　岩	13.6	7.5	5.0	793	
74	E22Ⅱ	Ⅱ	1/2 欠損	多孔質安山岩	(8.2)	9.0	4.2	(437)	
75	E22Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	9.8	(8.3)	6.2	(640)	
76	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	8.4	6.3	4.6	318	
77	E22Ⅱ	—	破　片	凝灰質流紋岩	(8.6)	(7.9)	(1.8)	(152)	
78	E22Ⅱ	Ⅱ	完　形	砂　岩	11.3	10.1	4.1	697	
79	E22Ⅱ	Ⅰ	一部欠損	多孔質安山岩	8.4	(7.4)	5.6	(413)	
80	E22Ⅱ	Ⅱ	完　形	飛騨片麻岩	7.6	6.4	3.0	215	
81	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	8.4	7.1	6.4	482	
82	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	安　山　岩	9.8	7.0	3.7	369	
83	E22Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	砂　岩	11.9	(9.0)	4.5	(681)	
84	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	濃飛流紋岩	10.1	7.7	4.1	486	
85	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.6	7.7	2.7	305	
86	E23Ⅰb	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	7.0	6.0	2.6	158	同　4
87	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.4	7.8	7.5	664	
88	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	濃飛流紋岩	9.0	7.4	5.6	529	
89	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	5.7	4.3	3.6	101	
90	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	6.9	5.8	5.5	258	
91	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	14.7	10.2	5.9	1122	
92	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	8.0	6.9	5.8	422	
93	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	13.1	10.7	7.3	1340	
94	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	11.8	8.7	4.9	591	
95	E23Ⅱ	Ⅰ	1/3 欠損	頁　岩	(12.5)	(5.4)	(3.0)	(324)	
96	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	8.9	6.7	5.0	392	

97	E23Ⅱ	—	½ 欠 損	多孔質安山岩	(8.9)	(7.8)	(6.5)	(439)	
98	E23Ⅱ	Ⅱ	完　　形	濃飛流紋岩	7.4	6.6	4.4	296	
99	E23Ⅱ	Ⅰ	一部欠損	多孔質安山岩	10.2	7.8	5.0	(549)	
100	E24Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	10.0	8.7	3.7	436	
101	E24Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	9.8	8.3	4.6	500	
102	E24Ⅱ	—	½ 欠 損	安 山 岩	(8.0)	(11.0)	5.5	(677)	
103	E24Ⅱ	Ⅱ	完　　形	安 山 岩	8.2	5.1	4.1	244	
104	E24Ⅱ	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	9.9	8.3	5.6	594	
105	E24Ⅱ	Ⅱ	完　　形	砂　　岩	13.1	8.8	4.3	692	
106	E24Ⅱ	Ⅰ	完　　形	濃飛流紋岩	7.4	4.3	3.3	193	
107	E24Ⅱ	Ⅰ	完　　形	閃 緑 岩	16.2	6.1	3.9	534	
108	E24Ⅱ	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	10.3	8.5	5.1	724	
109	N24Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	砂　　岩	(12.0)	5.0	3.0	(275)	
110	N24Ⅲ	Ⅱ	完　　形	多孔質安山岩	11.5	9.6	9.5	1700	
111	N25Ⅰb	—	破　　片	砂　　岩	(5.9)	(4.7)	(2.3)	(57)	
112	N25Ⅰb	Ⅱ	一部欠損	砂　　岩	10.5	10.5	5.2	(795)	
113	N25Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	濃飛流紋岩	11.2	7.1	4.7	(491)	
114	N25Ⅲ	Ⅱ	⅓ 欠 損	砂　　岩	(10.9)	8.6	7.5	(1065)	
115	N25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	7.1	6.8	4.1	271	
116	O25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	安 山 岩	5.6	5.1	5.2	162	
117	O25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	飛騨片麻岩	9.6	9.2	3.4	525	
118	O25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	7.9	4.1	3.3	158	
119	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	12.6	9.3	4.1	686	
120	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	濃飛流紋岩	17.2	6.3	4.5	698	
121	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	濃飛流紋岩	14.9	6.3	3.5	436	
122	O25Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	濃飛流紋岩	(14.1)	6.3	5.1	(745)	
123	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	10.6	9.4	7.8	1150	
124	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	6.3	5.6	2.5	120	
125	O25Ⅲ、Q26Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	多孔質安山岩	10.8	9.6	5.1	(684)	
126	O25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	砂　　岩	12.3	10.6	4.3	850	
127	P25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	飛騨片麻岩	19.2	5.5	3.8	535	
128	P25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	9.3	7.0	5.2	539	
129	P25Ⅲ	Ⅱ	完　　形	ヒ ン 岩	11.8	6.2	2.6	247	
130	P25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	9.8	9.2	7.1	918	同　7
131	P25Ⅲ	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	8.5	7.6	4.9	432	同　2
132	P25Ⅲ	Ⅱ	⅓ 欠 損	濃飛流紋岩	(9.4)	8.6	5.2	(608)	
133	Q25Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	12.5	9.8	7.0	1130	
134	J26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	6.3	5.4	3.9	171	
135	J26Ⅰb	—	⅔ 欠 損	多孔質安山岩	(8.9)	(5.9)	(4.6)	(307)	
136	J26Ⅰb	Ⅱ	完　　形	多孔質安山岩	11.7	9.2	7.6	1094	
137	J26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	10.7	6.3	4.7	445	
138	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	5.6	5.1	3.6	128	
139	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	花崗閃緑岩	17.7	8.0	4.8	1080	同　5
140	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	10.8	5.8	4.5	355	
141	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	9.6	8.7	4.6	493	
142	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	8.1	7.0	5.9	377	
143	K26Ⅰb	Ⅰ	⅓ 欠 損	砂　　岩	(8.8)	5.1	3.3	(201)	
144	K26Ⅰb	Ⅰ	完　　形	安 山 岩	7.3	6.6	6.3	392	
145	K26Ⅲ	Ⅰ	完　　形	多孔質安山岩	10.6	6.4	3.7	366	
146	L26Ⅰb	Ⅱ	½ 欠 損	多孔質安山岩	(10.4)	(9.4)	(6.5)	(701)	
147	L26Ⅲ	Ⅰ	完　　形	凝灰質流紋岩	8.4	7.0	2.1	104	
148	M26Ⅲ	Ⅱ	完　　形	砂　　岩	16.7	8.6	4.3	889	同　10
149	M26Ⅲ	Ⅰ	完　　形	濃飛流紋岩	13.4	5.0	2.8	280	

150	M26Ⅲ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	12.7	8.7	4.1	733	同　6
151	M26Ⅲ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	10.5	8.4	4.1	508	
152	M26Ⅲ	－	1/2 欠損	石英斑岩	(7.7)	8.7	3.7	(332)	
153	M26Ⅲ	Ⅰ	1/3 欠損	砂　岩	10.9	(7.3)	5.2	(577)	
154	M26Ⅲ	Ⅰ	完　形	砂　岩	11.3	5.3	2.6	260	
155	M26Ⅲ	－	破　片	飛騨片麻岩	(7.7)	(5.5)	(4.3)	(248)	
156	M26Ⅲ	－	破　片	砂　岩	(6.4)	(7.6)	(6.6)	(237)	
157	M26Ⅲ	Ⅰ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	(10.7)	9.5	(7.5)	(1006)	
158	N26Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	濃飛流紋岩	16.3	(8.3)	4.6	(868)	
159	N26Ⅲ	Ⅰ	完　形	凝灰質流紋岩	10.4	6.8	4.2	369	
160	N26Ⅲ	Ⅰ	完　形	砂　岩	13.3	7.7	3.7	528	
161	O26Ⅰb	Ⅱ	完　形	濃飛流紋岩	12.2	9.0	5.9	932	
162	O26Ⅰb	Ⅰ	完　形	飛騨片麻岩	11.6	6.9	3.1	418	
163	O26Ⅲ	Ⅰ	完　形	飛騨片麻岩	9.6	4.0	3.2	197	
164	O26Ⅲ	Ⅰ	1/3 欠損	安山岩	(10.4)	(6.6)	3.0	(330)	
165	O26Ⅲ	Ⅰ	完　形	花崗岩	9.8	8.4	6.4	770	
166	O26Ⅲ	Ⅰ	完　形	安山岩	14.8	6.8	3.7	527	
167	P26Ⅰb	Ⅰ	完　形	砂　岩	8.4	6.3	2.5	214	
168	P26Ⅰb	－	破　片	砂　岩	(5.3)	(5.0)	(4.0)	(137)	
169	P26Ⅰb	Ⅰ	完　形	濃飛流紋岩	17.3	5.2	4.7	643	
170	P26Ⅲ	Ⅰ	1/3 欠損	多孔質安山岩	(11.4)	8.5	7.0	(815)	
171	Q26Ⅰb	－	破　片	安山岩	(6.1)	(5.4)	(3.7)	(154)	
172	Q26Ⅰb	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	5.3	5.2	4.7	156	
173	Q26Ⅰb	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	10.6	7.2	6.6	144	
174	Q26Ⅲ	Ⅰ	1/3 欠損	砂　岩	(7.8)	5.5	3.9	(222)	
175	Q26Ⅲ	Ⅰ	完　形	安山岩	7.3	6.8	4.4	297	同　3
176	表面採集	Ⅰ	完　形	安山岩	19.1	8.8	4.5	897	
177	表面採集	－	2/3 欠損	砂　岩	(6.3)	(5.2)	(3.4)	(159)	

第7表　凹石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G16Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	8.7	7.5	4.5	385	
2	J16Ⅰb	Ⅳ	完　形	砂　岩	10.5	6.8	4.4	457	第26図 8
3	J16Ⅰb	Ⅱ	完　形	濃飛流紋岩	8.0	7.4	6.0	452	
4	J16Ⅰb	Ⅳ	1/3 欠損	多孔質安山岩	(8.5)	7.5	3.8	(291)	
5	G17Ⅰb	Ⅳ	1/3 欠損	砂　岩	(10.5)	7.9	5.3	(535)	
6	G17Ⅲ	Ⅱ	完　形	砂　岩	9.1	6.0	3.9	(303)	
7	G17Ⅲa	Ⅱ	一部欠損	濃飛流紋岩	(9.1)	6.7	4.9	(377)	
8	H17Ⅰb	Ⅳ	完　形	砂　岩	7.6	6.1	3.2	223	同　7
9	H17Ⅰb	Ⅱ	完　形	花崗閃緑岩	14.6	6.0	3.7	605	
10	H17Ⅰb	Ⅱ	完　形	砂　岩	7.1	6.8	3.3	229	
11	I17Ⅰb	Ⅳ	1/3 欠損	砂　岩	(10.1)	(13.7)	4.5	(463)	
12	I17Ⅲa	Ⅱ	一部欠損	濃飛流紋岩	10.6	7.1	2.8	(319)	
13	I17Ⅲa	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	15.8	13.3	7.7	206	
14	J17Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	10.2	8.7	4.5	573	同　9
15	J17Ⅰb	Ⅰ	一部欠損	凝灰岩	13.3	6.4	3.3	(455)	
16	J17Ⅰb	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	9.1	7.7	5.3	485	
17	J17Ⅰb	Ⅱ	完　形	安山岩	12.1	5.7	2.6	287	
18	J17Ⅲb	Ⅱ	1/3 欠損	砂　岩	(10.0)	(8.3)	(5.5)	(500)	
19	K17Ⅰb	Ⅱ	完　形	砂　岩	15.3	6.3	4.4	586	
20	K17Ⅰb	Ⅱ	完　形	安山岩	6.6	6.0	2.6	153	

21	K17Ⅰb	Ⅲ	完　形	多孔質安山岩	10.3	9.1	6.1	761	
22	K17Ⅰb	Ⅳ	一部欠損	多孔質安山岩	9.3	6.8	5.0	438	
23	H18Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	13.4	9.5	5.5	927	
24	H18Ⅰb	Ⅲ	一部欠損	多孔質安山岩	15.4	9.9	5.6	(1224)	同　5
25	E19Ⅰb	Ⅱ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	(9.0)	(5.2)	(3.1)	(194)	
26	E19Ⅰb	Ⅳ	1/3 欠損	砂　岩	(9.7)	(5.2)	5.1	(345)	
27	E19Ⅱ	Ⅳ	1/2 欠損	砂　岩	(8.4)	(8.2)	5.0	(526)	
28	E20Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	12.1	10.0	5.9	974	
29	E20Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	10.4	7.0	4.6	489	
30	E20Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	9.8	6.0	4.8	318	
31	E20Ⅱ	Ⅲ	完　形	砂　岩	11.5	9.1	3.7	530	
32	E20Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	10.5	9.3	4.8	625	同　3
33	E20Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	13.8	9.4	7.9	938	
34	E21Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	15.9	8.8	4.4	813	同　10
35	E21Ⅱ	Ⅳ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	(10.9)	(5.5)	(3.4)	(253)	
36	E21Ⅱ	Ⅳ	完　形	石英斑岩	10.3	4.9	3.5	266	
37	E21Ⅱ	Ⅳ	完　形	砂　岩	12.4	8.5	5.1	786	
38	E21Ⅱ	Ⅲ	完　形	多孔質安山岩	10.0	8.6	6.0	661	
39	E21Ⅱ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	8.8	8.2	4.8	418	
40	E21Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	11.4	8.4	3.8	543	同　2
41	E21Ⅱ	Ⅱ	1/3 欠損	安山岩	(15.2)	9.7	7.2	(1300)	
42	E22Ⅱ	Ⅳ	完　形	砂　岩	14.6	8.8	6.2	1102	
43	E22Ⅱ	Ⅳ	1/2 欠損	砂　岩	(5.6)	(5.7)	3.0	(145)	
44	E22Ⅱ	Ⅳ	1/2 欠損	砂　岩	(4.6)	(5.2)	3.2	(111)	
45	E22Ⅱ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	12.0	6.0	4.8	389	
46	E22Ⅱ	Ⅰ	1/2 欠損	多孔質安山岩	(8.6)	(8.3)	5.0	(377)	
47	E23Ⅱ	Ⅲ	完　形	飛騨片麻岩	17.9	7.0	6.1	1074	
48	E23Ⅱ	Ⅲ	完　形	多孔質安山岩	12.7	10.5	6.2	1073	
49	E23Ⅱ	Ⅱ	一部欠損	飛騨片麻岩	13.3	6.5	3.6	(432)	
50	E23Ⅱ	Ⅰ	完　形	安山岩	6.0	4.7	4.6	160	同　1
51	E24Ⅱ	Ⅱ	一部欠損	多孔質安山岩	10.2	(7.2)	5.2	(512)	
52	E24Ⅱ	Ⅱ	1/3 欠損	安山岩	(9.5)	(5.0)	3.2	(257)	
53	O24Ⅰb	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	10.3	6.6	4.2	428	
54	N25Ⅲ	Ⅲ	完　形	砂　岩	13.2	5.1	3.8	359	同　6
55	N25Ⅲ	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	11.3	8.2	4.8	672	
56	O25Ⅲ	Ⅳ	1/2 欠損	砂　岩	(10.3)	(6.5)	5.7	(390)	
57	O25Ⅲ	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	11.0	10.9	7.2	1340	
58	P25Ⅲ	Ⅳ	1/2 欠損	砂　岩	(7.4)	(9.0)	3.8	(380)	
59	J26Ⅰb	Ⅳ	1/3 欠損	閃緑岩	(10.5)	8.2	(4.5)	(653)	
60	J26Ⅰb	Ⅱ	完　形	輝緑凝灰岩	21.9	9.4	4.9	1600	
61	J26Ⅰb	Ⅱ	1/3 欠損	濃飛流紋岩	(11.8)	(9.3)	(6.2)	(724)	
62	K26Ⅰb	Ⅰ	完　形	安山岩	11.0	7.9	2.7	360	同　4
63	K26Ⅰb	Ⅳ	完　形	凝灰質流紋岩	10.3	9.3	6.8	754	
64	K26Ⅰb	Ⅱ	完　形	濃飛流紋岩	8.6	7.7	7.2	635	
65	K26Ⅰb	Ⅱ	完　形	安山岩	14.3	7.1	4.0	564	
66	K26Ⅰb	Ⅱ	完　形	濃飛流紋岩	17.8	6.9	5.2	963	
67	K26Ⅰb	Ⅲ	完　形	飛騨片麻岩	9.6	8.4	4.6	524	
68	K26Ⅲ	Ⅳ	完　形	凝灰質流紋岩	12.4	7.0	4.5	476	
69	K26Ⅲ	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	13.7	7.5	5.3	854	
70	L26Ⅰb	Ⅳ	完　形	安山岩	14.2	8.8	4.7	686	
71	L26Ⅰb	Ⅱ	完　形	飛騨片麻岩	11.2	8.3	6.0	774	
72	L26Ⅰb	Ⅳ	完　形	砂　岩	12.2	10.6	8.4	1540	
73	L26Ⅲ	Ⅱ	完　形	凝灰質流紋岩	16.0	10.7	7.4	1560	

74	L26Ⅲ	Ⅳ	完　形	多孔質安山岩	10.0	7.9	5.0	566
75	L26Ⅲ	Ⅱ	完　形	砂　岩	9.9	6.4	3.6	288
76	M26Ⅰb	Ⅳ	½欠損	砂　岩	(6.7)	(5.9)	(4.2)	(230)
77	M26Ⅲ	Ⅱ	⅓欠損	砂　岩	(11.2)	(9.2)	3.5	(366)
78	M26Ⅲ	Ⅳ	完　形	濃飛流紋岩	12.5	11.3	5.2	1094
79	M26Ⅲ	Ⅳ	完　形	濃飛流紋岩	10.0	7.1	3.9	367
80	M26Ⅲ	Ⅱ	破　片	砂　岩	(7.3)	(5.9)	(3.9)	(193)
81	M26Ⅲ	Ⅳ	完　形	砂　岩	12.0	8.9	5.4	758
82	M26Ⅲ	Ⅲ	完　形	砂　岩	17.2	10.7	5.9	1400
83	M26Ⅲ	Ⅳ	½欠損	濃飛流紋岩	(8.9)	7.8	(5.5)	(479)
84	M26Ⅲ	Ⅱ	½欠損	多孔質安山岩	(6.2)	5.7	3.7	(172)
85	N26Ⅲ	Ⅰ	完　形	多孔質安山岩	9.8	8.6	4.5	505
86	N26Ⅲ	Ⅱ	完　形	濃飛流紋岩	13.1	7.4	2.9	355
87	N26Ⅲ	Ⅱ	完　形	砂　岩	10.5	7.4	3.6	389
88	O26Ⅰb	Ⅳ	完　形	ハンレイ岩	10.8	9.1	5.4	825
89	O26Ⅲ	Ⅳ	⅓欠損	安　山　岩	(17.8)	(7.0)	(4.9)	(628)
90	O26Ⅲ	Ⅲ	完　形	砂　岩	10.0	8.4	3.8	454
91	O26Ⅲ	Ⅰ	一部欠損	凝　灰　岩	11.0	(6.0)	(3.5)	(285)
92	P26Ⅲ	Ⅲ	⅓欠損	濃飛流紋岩	(8.3)	(5.5)	3.5	(191)
93	Q26Ⅲ	Ⅰ	完　形	飛騨片麻岩	10.6	5.9	4.1	352
94	Q26Ⅲ	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	7.9	7.1	4.2	304
95	表面採集	Ⅱ	完　形	閃　緑　岩	10.5	8.2	3.6	479
96	表面採集	Ⅱ	完　形	多孔質安山岩	10.1	8.3	3.7	455
97	表面採集	Ⅱ	½欠損	多孔質安山岩	(8.0)	(8.3)	4.6	(438)

第8表　有縁石皿一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	F17SB上	破　片	多孔質安山岩	(13.8)	(13.5)	(9.4)	(3.42)	第27図1
2	H17Ⅰb	破　片	安　山　岩	(10.8)	(9.0)	(5.0)	(0.46)	同　2

第9表　台石一覧表（単位cm・kg、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G16Ⅰb	⅔欠損	閃　緑　岩	(12.5)	(16.9)	5.8	(2.00)	
2	E17Ⅰb	⅔欠損	砂　岩	(13.4)	(11.7)	(5.0)	(0.98)	
3	F17Ⅲa	完　形	輝緑凝灰岩	25.0	13.7	6.0	3.00	第27図3
4	F17SB上	⅓欠損	安　山　岩	(22.7)	22.2	7.9	(6.00)	
5	G17Ⅲa	⅓欠損	ハンレイ岩	22.6	(13.1)	5.1	(3.00)	
6	G17Ⅲa	完　形	安　山　岩	37.8	24.7	9.3	12.44	同　7
7	G17Ⅲb	½欠損	花崗閃緑岩	41.6	(31.6)	16.0	(29.30)	
8	G17Ⅲb	⅔欠損	花崗閃緑岩	(46.2)	(23.1)	11.9	16.10	
9	G17Ⅲb	⅔欠損	花　崗　岩	(19.5)	(17.4)	(10.7)	(5.34)	
10	I17Ⅰb	完　形	砂　岩	16.7	13.8	3.2	1.08	
11	I17Ⅲb	⅔欠損	砂　岩	(10.2)	(14.5)	6.5	(1.34)	
12	J17Ⅲb	破　片	花　崗　岩	(14.3)	(10.7)	(7.3)	(1.44)	
13	K17Ⅰb	破　片	閃　緑　岩	(22.4)	(10.7)	(11.1)	(2.44)	
14	E18Ⅰb	⅔欠損	砂　岩	(9.1)	(12.5)	(4.3)	(0.72)	
15	E19Ⅰb	⅔欠損	多孔質安山岩	(18.7)	(18.2)	(7.6)	(3.56)	
16	E19Ⅱ	½欠損	輝　緑　岩	(11.6)	12.0	3.8	(1.14)	
17	E19Ⅱ	破　片	閃　緑　岩	(11.6)	(9.7)	(4.6)	(0.58)	

18	E21Ⅱ	1/3 欠損	安山岩	(20.3)	(16.9)	(5.0)	(2.82)	同 3
19	E21Ⅱ	一部欠損	安山岩	29.6	(9.9)	8.2	(3.44)	
20	E21Ⅱ	2/3 欠損	濃飛流紋岩	(26.3)	(10.8)	7.2	(3.48)	
21	E21Ⅱ	破片	多孔質安山岩	(15.8)	(12.5)	(13.5)	(3.24)	
22	E21Ⅱ	破片	多孔質安山岩	(15.6)	(16.9)	(11.7)	(4.30)	
23	E21Ⅱ	破片	多孔質安山岩	(14.0)	(15.9)	(12.0)	(3.50)	
24	E21Ⅱ	2/3 欠損	濃飛流紋岩	(13.6)	(12.2)	5.8	(1.40)	
25	E21Ⅱ	破片	多孔質安山岩	(7.8)	(10.5)	(5.2)	(0.46)	
26	E21Ⅱ	破片	濃飛流紋岩	(9.3)	(7.8)	(1.5)	(0.22)	
27	E22Ⅱ	破片	砂岩	(10.0)	(9.9)	(3.2)	(0.54)	
28	E22Ⅱ	破片	砂岩	(8.4)	(5.5)	(7.0)	(0.38)	
29	E23Ⅱ	2/3 欠損	飛騨片麻岩	(14.9)	(11.5)	(7.3)	(1.76)	
30	E24Ⅱ	完形	砂岩	14.9	13.2	4.1	1.12	
31	N25Ⅲ	破片	飛騨片麻岩	(14.1)	(9.2)	(4.7)	(1.00)	
32	N25Ⅲ	破片	濃飛流紋岩	(12.3)	(10.6)	(9.7)	(1.24)	
33	O25Ⅲ	2/3 欠損	飛騨片麻岩	(16.2)	(13.5)	4.0	(1.72)	
34	P25Ⅲ	破片	砂岩	(12.6)	(7.5)	(5.9)	(0.64)	
35	P25Ⅲ	破片	凝灰岩	(9.8)	(7.0)	(4.7)	(0.30)	
36	Q25Ⅰb	破片	多孔質安山岩	(10.5)	(7.3)	(4.6)	(0.44)	
37	J26Ⅰb	破片	多孔質安山岩	(23.5)	(14.6)	(12.2)	(5.58)	
38	K26Ⅰb	破片	濃飛流紋岩	(11.3)	(8.2)	(5.7)	(0.60)	
39	K26Ⅰb	1/2 欠損	砂岩	(16.0)	(13.1)	(8.1)	(2.20)	
40	K26Ⅲ	破片	砂岩	(14.7)	(9.6)	(3.6)	(0.50)	
41	K26Ⅲ	破片	閃緑岩	(9.7)	(9.0)	(4.3)	(0.36)	
42	K26Ⅲ	破片	凝灰質流紋岩	(10.4)	(8.0)	(3.1)	(0.32)	
43	K26Ⅲ	破片	飛騨片麻岩	(6.7)	(3.8)	(6.4)	(0.30)	
44	L26Ⅰb	破片	砂岩	(14.5)	(10.7)	(9.1)	(1.32)	
45	L26Ⅲ	破片	花崗岩	(10.7)	(6.3)	(6.6)	(0.64)	
46	M26Ⅰb	破片	砂岩	(12.2)	(10.2)	(8.0)	(1.30)	
47	M26Ⅲ	一部欠損	砂岩	(13.3)	11.1	3.0	(0.68)	
48	M26Ⅲ	破片	閃緑岩	(8.9)	(14.6)	(8.5)	(1.48)	
49	M26Ⅲ	破片	安山岩	(14.6)	(5.7)	(5.8)	(0.64)	
50	M26Ⅲ	破片	濃飛流紋岩	(9.7)	(6.5)	(3.3)	(0.32)	
51	M26Ⅲ	破片	閃緑岩	(10.6)	(10.3)	(7.1)	(1.08)	
52	N26Ⅰb	1/2 欠損	花崗閃緑岩	(14.7)	15.3	3.9	(1.76)	
53	L26Ⅲ	完形	閃緑岩	16.9	15.2	5.0	2.14	同 4
54	O26Ⅲ	破片	砂岩	(14.1)	(13.9)	(8.1)	(1.34)	
55	P26Ⅲ	破片	飛騨片麻岩	(7.2)	(6.6)	(4.5)	(0.28)	
56	Q26Ⅲ	1/2 欠損	砂岩	(21.7)	(17.2)	7.1	(3.94)	同 6
57	R26Ⅰb	破片	花崗閃緑岩	(7.7)	(6.5)	(5.5)	(0.30)	
58	表面採集	2/3 欠損	飛騨片麻岩	(15.8)	(13.6)	5.6	(1.70)	
59	表面採集	破片	濃飛流紋岩	(10.7)	(15.8)	2.3	(0.66)	

第10表 石鏃一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	I16Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	1.5	1.0	0.3	0.3	第28図3
2	I16Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	流紋岩	(2.9)	1.8	0.4	(1.9)	同 24
3	F17Ⅰb	－	先端破片	下呂石	(1.5)	(1.1)	0.3	(0.5)	
4	F17Ⅲa	Ⅰ	先端・脚部欠損	チャート	(1.8)	(1.4)	0.4	(1.1)	
5	G17Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	2.6	1.6	0.5	2.0	同 26
6	G17Ⅲ	Ⅰ	先端欠損	下呂石	(1.4)	0.9	0.2	(0.2)	同 4

7	G17Ⅲ	Ⅰ	先端欠損	チャート	(1.3)	1.3	0.2	(0.3)	同	14
8	G17Ⅲ	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.3)	(0.9)	0.2	(0.2)		
9	H17Ⅰb	Ⅰ	片脚部欠損	チャート	(1.6)	(1.2)	0.5	(0.6)		
10	I17Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	下呂石	(1.9)	1.4	0.2	(0.5)	同	11
11	I17Ⅰb	Ⅰ	完形	チャート	1.8	1.5	0.4	0.7		
12	I17Ⅰb	Ⅰ	片脚部欠損	下呂石	(2.4)	(1.5)	0.5	(1.4)	同	27
13	I17Ⅰb	Ⅲ	先端欠損	下呂石	(2.0)	1.1	0.3	(0.6)	同	32
14	I17Ⅰb	Ⅰ	脚部欠損	下呂石	(3.9)	(1.7)	0.4	(2.4)	同	25
15	J17Ⅰb	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.7)	(1.0)	0.2	(0.3)		
16	J17Ⅲ	Ⅰ	先端欠損	チャート	(1.7)	1.4	0.4	(1.0)		
17	J17Ⅲ	－	先端・脚部欠損	下呂石	(2.0)	(1.2)	0.3	(0.9)		
18	K17Ⅰb	Ⅰ	完形	チャート	2.0	1.8	0.4	1.0	同	13
19	K17Ⅰb	未製品	一部欠損	チャート	(2.1)	(1.4)	0.2	(0.7)		
20	N17Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	下呂石	(1.2)	1.4	0.4	(0.4)		
21	O17Ⅰb	Ⅰ	完形	チャート	1.7	1.1	0.4	0.5	同	7
22	O17Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	1.2	1.3	0.3	0.3	同	2
23	E18Ⅰb	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.6)	(1.1)	0.3	(0.4)		
24	G18Ⅰb	－	先端破片	下呂石	(1.6)	(0.7)	(0.2)	(0.3)		
25	H18Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	1.9	1.4	0.4	1.0	同	10
26	E20Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	2.3	1.5	0.2	0.8	同	16
27	E21Ⅰb	Ⅰ	完形	珪質凝灰岩	2.4	1.9	0.4	1.0	同	23
28	E21Ⅱ	Ⅲ	片脚部欠損	下呂石	2.5	(1.5)	0.5	(1.4)	同	31
29	E21Ⅱ	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(2.6)	(1.2)	0.4	(1.2)		
30	N24Ⅰb	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.3)	(0.9)	0.3	(0.3)		
31	N24Ⅰb	Ⅲ	完形	下呂石	2.5	1.0	0.5	1.1	同	33
32	N24Ⅲ	Ⅲ	完形	チャート	2.6	1.1	0.6	1.5	同	34
33	O24Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	珪質凝灰岩	(1.8)	1.5	0.4	(1.2)		
34	N25Ⅰb	Ⅲ	完形	下呂石	3.0	1.5	0.6	2.1	同	30
35	O25Ⅰb	Ⅰ	完形	チャート	2.8	1.5	0.5	1.3	同	22
36	O25Ⅰb	－	基部欠損	下呂石	(2.0)	(1.2)	0.4	(0.9)		
37	O25Ⅲ	Ⅰ	完形	珪質凝灰岩	1.9	1.1	0.3	0.6	同	8
38	O25Ⅲ	Ⅱ	先端・脚部欠損	下呂石	(2.0)	(1.0)	0.4	(0.7)		
39	P25Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	下呂石	(2.3)	1.6	0.5	(1.8)		
40	P25Ⅰb	Ⅰ	片脚部欠損	チャート	(2.2)	(1.6)	0.5	(1.2)	同	17
41	J26Ⅰb	Ⅲ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.6)	1.5	0.4	(0.9)		
42	K26Ⅰb	Ⅰ	片脚部欠損	チャート	(2.0)	(1.6)	0.4	(0.9)		
43	L26Ⅰb	Ⅱ	完形	下呂石	2.3	1.7	0.4	1.4	同	29
44	L26Ⅰb	Ⅳ	完形	下呂石	3.2	1.2	0.6	1.7	同	35
45	L26Ⅲ	Ⅰ	先端欠損	下呂石	2.3	1.7	0.4	1.2		
46	L26Ⅲ	Ⅱ	先端・脚部欠損	チャート	(2.1)	(1.6)	0.5	(1.7)		
47	L26Ⅲ	Ⅰ	完形	下呂石	1.9	1.2	0.3	0.8	同	15
48	M26Ⅲ	Ⅰ	完形	下呂石	1.5	1.1	0.3	0.3	同	6
49	M26Ⅲ	Ⅰ	先端・脚部欠損	珪質凝灰岩	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.4)		
50	N26Ⅲ	Ⅰ	先端欠損	チャート	(1.8)	2.0	0.5	(1.3)	同	19
51	N26Ⅲ	Ⅱ	完形	下呂石	1.4	1.2	0.3	0.4	同	28
52	N26Ⅲ	－	先端破片	黒曜石	(1.7)	(1.2)	(0.4)	(0.7)		
53	O26Ⅲ	－	先端破片	下呂石	(1.9)	(1.0)	(0.3)	(0.6)		
54	P26Ⅲ	Ⅰ	完形	下呂石	2.0	1.4	0.4	0.9	同	18
55	P26Ⅲ	－	基部欠損	チャート	(2.2)	(1.6)	0.4	(1.5)		
56	R26Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	1.3	1.3	0.2	0.2	同	1
57	R26Ⅰb	Ⅰ	先端欠損	下呂石	(1.6)	1.7	0.4	(0.7)	同	20
58	R26Ⅲ	Ⅰ	先端・脚部欠損	下呂石	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.6)		
59	S26Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	1.9	1.1	0.3	0.6	同	9

60	S26Ib	I	完	形	下呂石	2.0	1.6	0.4	0.8	同 21
61	表面採集	I	完	形	下呂石	2.6	1.0	0.3	0.3	同 5

第11表 スクレイパーI類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	P5I	一部欠損	チャート	2.6	(2.1)	0.96	(6.7)	
2	R5I	1/3欠損	下呂石	(2.4)	2.0	0.4	(2.2)	
3	I16Ib	完形	下呂石	6.5	10.2	1.9	110.3	
4	I16Ib	完形	下呂石	2.3	1.6	0.6	1.7	
5	F17IIIa	刃部破片	チャート	(1.8)	(0.9)	(0.4)	(0.9)	
6	G17Ib	1/3欠損	下呂石	(3.0)	(2.5)	0.6	(3.8)	
7	G17Ib	1/3欠損	チャート	(2.0)	(1.5)	0.5	(1.7)	
8	G17Ib	刃部破片	チャート	(2.3)	(1.0)	(0.4)	(1.1)	
9	H17Ib	一部欠損	輝石安山岩	3.3	(2.0)	0.5	(2.6)	
10	I17Ib	完形	下呂石	2.4	3.5	0.7	4.8	
11	J17Ib	完形	下呂石	1.8	2.2	0.5	2.1	第29図3
12	K17Ib	完形	チャート	3.2	1.8	0.6	3.1	
13	K17Ib	完形	黒曜石	2.2	1.3	0.6	1.4	
14	N17Ib	完形	下呂石	3.1	2.2	0.7	3.9	
15	N17Ib	刃部破片	下呂石	(0.7)	(1.2)	(0.3)	(0.3)	
16	H18Ib	一部欠損	下呂石	2.0	(1.6)	0.3	(1.1)	
17	H18Ib	完形	下呂石	2.5	1.4	0.4	1.8	
18	H18Ib	1/3欠損	チャート	(2.6)	(1.9)	(0.6)	(2.6)	
19	I18Ib	完形	下呂石	1.9	2.3	0.4	1.9	
20	E19II	一部欠損	チャート	(3.9)	3.2	0.8	(10.0)	
21	E20II	完形	下呂石	4.0	4.7	0.7	10.5	同 2
22	E21II	完形	下呂石	1.8	1.3	0.4	0.9	
23	E21II	一部欠損	チャート	(3.5)	2.3	0.5	(4.7)	
24	E21II	1/3欠損	黒曜石	(1.3)	(1.4)	(0.4)	(0.7)	
25	E23II	完形	下呂石	3.0	1.3	0.7	2.7	
26	N24Ib	完形	チャート	2.0	2.2	0.6	2.6	
27	N24Ib	刃部破片	チャート	(1.7)	(1.3)	(0.5)	(1.3)	
28	N24Ib	刃部破片	チャート	(1.2)	(1.6)	(0.5)	(1.1)	
29	N24III	完形	下呂石	2.4	1.4	0.4	1.4	
30	O24Ib	完形	チャート	2.2	3.2	0.6	4.5	
31	N25Ib	一部欠損	下呂石	3.3	(3.4)	0.6	(5.5)	
32	N25Ib	1/3欠損	メノウ	2.6	(1.7)	0.6	(3.6)	
33	O25Ib	1/2欠損	チャート	1.8	(1.7)	0.4	(1.2)	
34	O25Ib	1/2欠損	硬質頁岩	(2.0)	(1.8)	0.4	(1.9)	
35	O25III	刃部破片	下呂石	(2.5)	(1.8)	(0.3)	(1.4)	
36	O25III	一部欠損	チャート	(2.5)	1.6	0.4	(2.2)	
37	P25Ib	1/2欠損	下呂石	(2.0)	(1.4)	(0.3)	(1.1)	
38	P25III	完形	下呂石	2.7	1.4	0.5	1.8	
39	P25III	完形	下呂石	1.5	2.8	0.5	1.9	
40	Q25Ib	一部欠損	チャート	(2.2)	1.6	0.6	(2.7)	
41	Q25Ib	完形	チャート	1.7	2.3	0.5	2.7	
42	K26Ib	完形	下呂石	1.3	2.2	0.7	1.8	
43	K26Ib	完形	チャート	4.4	3.0	1.3	21.3	
44	L26III	刃部破片	流紋岩	(1.6)	(1.1)	(0.2)	(0.4)	
45	M26III	完形	チャート	2.6	2.6	0.4	3.2	
46	N26Ib	一部欠損	チャート	(1.9)	1.1	0.2	(0.6)	

47	O26Ⅲ	一部欠損	下呂石	2.0	(1.5)	0.3	(1.2)	
48	P26Ⅰb	一部欠損	下呂石	(2.2)	1.6	0.4	(1.6)	
49	P26Ⅲ	完形	チャート	2.0	1.3	0.5	1.8	
50	表面採集	完形	珪質凝灰岩	3.5	2.6	0.5	6.2	同 1
51	表面採集	1/3欠損	チャート	(1.9)	(2.5)	0.6	(2.7)	
52	表面採集	一部欠損	下呂石	(2.2)	(1.8)	0.5	(1.5)	

第12表 スクレイパーⅡ類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	P5Ⅰ	一部欠損	下呂石	5.9	2.9	1.2	(20.1)	第29図6
2	R5Ⅰ	完形	珪質凝灰岩	2.5	3.7	1.1	10.4	同 4
3	M6Ⅰ	完形	チャート	3.0	2.3	0.9	6.8	
4	U6Ⅰ	完形	チャート	5.0	3.9	1.6	43.3	
5	E14Ⅰb	1/3欠損	チャート	4.0	(2.7)	1.2	(12.7)	
6	F17Ⅰb	1/3欠損	チャート	(3.2)	(2.7)	0.9	(9.2)	
7	F17Ⅰb	一部欠損	チャート	(3.9)	2.8	1.1	(12.6)	
8	G17Ⅲa	完形	黒曜石	2.0	1.1	0.5	0.9	
9	H17Ⅰb	1/3欠損	下呂石	(2.4)	(1.1)	0.4	(1.6)	
10	H17Ⅰb	完形	チャート	4.3	3.8	1.4	24.9	
11	I17Ⅰb	完形	チャート	2.5	2.5	0.7	5.4	
12	I17Ⅰb	完形	チャート	2.8	2.0	1.0	6.9	
13	J17Ⅰb	刃部破片	珪質凝灰岩	(1.5)	(2.9)	(1.1)	(5.0)	
14	K17Ⅰb	一部欠損	チャート	3.4	(2.7)	0.8	(7.0)	
15	O17Ⅰb	一部欠損	珪質凝灰岩	(4.1)	2.2	1.8	(12.5)	
16	E19Ⅱ	1/3欠損	チャート	(1.8)	2.4	0.9	(3.8)	
17	E20Ⅰb	刃部破片	チャート	(1.2)	(1.5)	(0.6)	(1.3)	
18	E22Ⅱ	1/2欠損	下呂石	(1.5)	(2.1)	(0.9)	(2.8)	
19	O24Ⅰb	完形	下呂石	2.4	2.0	0.8	4.9	
20	O24Ⅰb	完形	チャート	3.5	3.9	1.4	9.7	同 5
21	O24Ⅰb	一部欠損	チャート	(5.0)	3.8	1.2	(23.5)	
22	O24Ⅲ	一部欠損	下呂石	(2.4)	1.5	0.7	(2.3)	
23	N25Ⅰb	一部欠損	下呂石	3.1	(1.8)	1.2	(6.3)	同 7
24	N25Ⅲ	1/2欠損	チャート	(2.9)	(1.2)	(0.7)	(2.6)	
25	N25Ⅲ	1/3欠損	チャート	(1.5)	(1.5)	(0.5)	(1.2)	
26	O25Ⅰb	完形	チャート	4.2	5.0	1.9	46.8	
27	O25Ⅰb	一部欠損	チャート	(1.7)	2.4	0.5	(2.5)	
28	P25Ⅰb	1/3欠損	チャート	(2.8)	(2.3)	0.8	(5.4)	
29	Q25Ⅰb	完形	下呂石	2.6	2.9	0.7	4.7	
30	J26Ⅰb	完形	チャート	5.4	3.1	1.6	24.8	
31	K26Ⅰb	一部欠損	チャート	(3.0)	3.4	1.4	(16.7)	
32	K26Ⅲ	完形	下呂石	3.0	2.1	0.6	3.4	
33	K26Ⅲ	1/3欠損	下呂石	(3.1)	(1.4)	0.7	(3.2)	
34	M26Ⅲ	一部欠損	チャート	4.1	(3.9)	1.4	(22.7)	
35	M26Ⅲ	一部欠損	チャート	2.9	(2.7)	0.6	(6.0)	
36	N26Ⅰb	一部欠損	下呂石	(3.3)	2.2	0.7	(4.8)	
37	N26Ⅲ	1/2欠損	下呂石	(2.5)	(2.2)	0.6	(3.3)	
38	O26Ⅰb	完形	チャート	5.8	6.3	2.2	77.3	
39	P26Ⅰb	1/2欠損	下呂石	(3.4)	(2.5)	0.7	(4.2)	
40	R26Ⅰb	一部欠損	下呂石	2.5	2.3	0.6	(3.8)	
41	S26Ⅰb	1/2欠損	下呂石	(3.4)	(2.7)	(1.4)	(9.3)	

第13表　スクレイパーⅢ類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G17Ⅲa	一部欠損	下呂石	(3.3)	2.2	1.0	(4.5)	
2	G17Ⅲa	完形	チャート	1.5	2.1	0.4	1.5	
3	H17Ⅰb	完形	下呂石	3.9	3.6	0.7	10.6	
4	H17Ⅰb	½欠損	下呂石	(1.5)	(2.1)	(0.4)	(0.9)	
5	H17Ⅰb	完形	チャート	1.9	1.3	0.3	0.9	
6	H17Ⅲa	一部欠損	チャート	(1.1)	(1.5)	0.3	(0.5)	
7	I17Ⅰb	一部欠損	チャート	(3.2)	2.3	0.6	(5.7)	
8	J17Ⅰb	完形	下呂石	3.0	2.4	0.5	4.5	
9	J17Ⅰb	一部欠損	チャート	(2.9)	1.2	0.6	(2.1)	
10	J17Ⅰb	一部欠損	チャート	(2.3)	1.3	0.5	(1.6)	
11	J17Ⅰb	½欠損	珪質凝灰岩	(3.0)	(2.2)	(1.3)	(6.5)	
12	J17Ⅲ	完形	チャート	1.8	3.0	0.5	2.9	
13	K17Ⅰb	完形	チャート	2.6	3.2	0.5	5.7	第29図10
14	K17Ⅰb	完形	チャート	2.1	2.0	0.6	3.1	
15	N17Ⅰb	一部欠損	下呂石	(3.0)	1.3	0.9	(2.4)	
16	F17Ⅰb	一部欠損	下呂石	2.6	(1.4)	0.6	(2.0)	
17	O17Ⅰb	一部欠損	チャート	3.0	(2.5)	0.6	4.3	
18	O17Ⅰb	一部欠損	流紋岩	5.3	4.1	0.9	(36.4)	
19	F18Ⅰb	完形	下呂石	5.2	5.0	1.2	20.2	
20	F18Ⅰb	½欠損	下呂石	(5.2)	(2.2)	(1.4)	(13.3)	
21	F18Ⅰb	⅓欠損	下呂石	1.9	(1.7)	0.3	(0.9)	
22	F18Ⅰb	一部欠損	下呂石	(1.7)	0.8	0.2	(0.3)	
23	F18Ⅰb	刃部破片	下呂石	(1.8)	(0.8)	(0.4)	(0.4)	
24	F18Ⅰb	完形	チャート	2.8	1.8	0.8	3.5	
25	G18Ⅰb	一部欠損	下呂石	3.4	(2.2)	0.6	(4.5)	
26	G18Ⅰb	完形	下呂石	2.5	1.7	0.4	1.8	
27	G18Ⅰb	刃部破片	下呂石	(1.7)	(1.1)	(0.2)	(0.4)	
28	H18Ⅰb	⅓欠損	下呂石	(1.7)	2.8	0.5	(1.8)	
29	E19Ⅱ	完形	下呂石	1.9	1.9	0.7	1.8	
30	E19Ⅱ	完形	玉髄	1.7	1.1	0.2	0.4	
31	E20Ⅱ	完形	黒曜石	3.8	1.6	0.8	4.3	
32	E20Ⅱ	完形	黒曜石	1.5	2.3	0.4	1.3	
33	E21Ⅰb	完形	チャート	3.5	2.0	0.4	3.5	
34	E21Ⅱ	完形	下呂石	4.0	3.0	0.7	5.5	
35	E21Ⅱ	一部欠損	下呂石	(3.9)	3.1	0.8	(8.6)	
36	E21Ⅱ	完形	下呂石	3.8	3.1	0.5	5.2	
37	E21Ⅱ	完形	下呂石	2.3	3.2	0.6	2.9	
38	E21Ⅱ	⅓欠損	下呂石	(1.6)	(1.5)	(0.5)	(1.1)	
39	E21Ⅱ	½欠損	下呂石	(1.6)	(1.5)	(0.2)	(0.5)	
40	E21Ⅱ	⅓欠損	チャート	(2.7)	2.0	0.8	(4.1)	
41	E22Ⅰb	完形	チャート	3.1	2.5	0.6	4.4	
42	E22Ⅰb	刃部破片	チャート	(2.7)	(0.8)	(0.5)	(0.8)	
43	E22Ⅰb	一部欠損	下呂石	(2.5)	1.7	0.4	(1.3)	
44	E23Ⅱ	一部欠損	下呂石	3.4	3.5	0.8	(10.2)	
45	E23Ⅱ	完形	下呂石	2.1	1.0	0.3	0.5	
46	E23Ⅱ	完形	チャート	2.7	1.2	0.6	2.0	
47	E24Ⅱ	⅓欠損	チャート	(2.5)	(1.5)	0.6	(1.9)	
48	E24Ⅱ	完形	チャート	2.1	1.3	0.5	1.1	
49	E24Ⅱ	完形	チャート	2.1	2.3	0.5	2.4	
50	N24Ⅰb	一部欠損	チャート	(3.5)	1.6	0.7	(4.2)	

51	N24Ⅰb	完　形	チャート	2.0	1.8	0.3	1.3	
52	N24Ⅰb	完　形	チャート	1.8	2.5	0.7	2.9	
53	N24Ⅰb	刃部破片	黒　曜　石	(1.9)	(0.8)	(0.2)	(0.3)	
54	N24Ⅲ	完　形	下　呂　石	2.1	1.5	0.4	1.1	
55	N24Ⅲ	1/3 欠　損	チャート	(2.7)	1.7	0.4	(2.0)	
56	O24Ⅰb	完　形	チャート	3.2	1.6	0.6	3.1	同　8
57	O24Ⅰb	刃部破片	チャート	(1.7)	(1.0)	(0.2)	(0.4)	
58	O24Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.4	2.3	0.6	1.2	
59	N25Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	2.1	(2.6)	0.5	(2.8)	
60	N25Ⅰb	1/2 欠　損	下　呂　石	(1.8)	(1.1)	(0.2)	(0.5)	
61	N25Ⅰb	完　形	チャート	4.4	4.8	1.8	25.2	
62	N25Ⅰb	完　形	チャート	2.1	1.5	0.6	1.6	
63	N25Ⅰb	完　形	チャート	3.0	2.1	0.4	2.5	
64	N25Ⅰb	完　形	チャート	2.0	2.9	0.4	2.7	
65	N25Ⅰb	一部欠損	チャート	(2.8)	(1.7)	0.5	(2.2)	
66	N25Ⅰb	完　形	黒　曜　石	2.2	1.4	0.7	1.7	
67	N25Ⅲ	完　形	チャート	4.2	2.4	0.7	6.2	同　11
68	O25Ⅰb	完　形	チャート	1.7	1.4	0.4	0.9	
69	O25Ⅲ	1/2 欠　損	チャート	(3.9)	(3.2)	1.2	(16.3)	
70	P25Ⅰb	完　形	チャート	3.2	2.0	0.5	3.1	
71	P25Ⅰb	完　形	チャート	2.4	2.0	0.5	2.8	
72	P25Ⅰb	一部欠損	チャート	1.3	(1.5)	0.7	(1.2)	
73	P25Ⅰb	完　形	チャート	1.7	1.2	0.3	0.7	
74	P25Ⅰb	刃部破片	チャート	(1.5)	(0.8)	(0.2)	(0.2)	
75	P25Ⅲ	1/3 欠　損	チャート	(2.9)	(2.1)	0.6	(4.0)	
76	Q25Ⅰb	完　形	チャート	1.9	2.9	0.5	2.6	
77	Q25Ⅲ	1/3 欠　損	下　呂　石	(2.4)	(1.1)	0.4	(1.2)	
78	J26Ⅰb	完　形	チャート	2.6	1.1	0.5	1.2	
79	J26Ⅰb	刃部破片	チャート	(1.0)	(1.6)	(0.3)	(0.6)	
80	K26Ⅰb	一部欠損	チャート	(1.9)	(3.8)	(0.4)	(2.7)	
81	K26Ⅰb	完　形	チャート	2.3	1.6	0.6	1.7	
82	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.6	2.8	0.6	2.8	
83	K26Ⅰb	完　形	黒　曜　石	1.9	1.3	0.2	0.5	
84	K26Ⅰb	一部欠損	チャート	1.7	(2.0)	0.6	(2.1)	
85	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.8	2.3	0.6	2.4	
86	L26Ⅲ	一部欠損	下　呂　石	(3.6)	1.5	0.4	(2.0)	
87	L26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.4	1.5	0.4	0.7	
88	L26Ⅲ	1/3 欠　損	チャート	(1.6)	(2.4)	0.4	(1.3)	
89	M26Ⅰb	完　形	チャート	7.5	4.8	2.0	92.4	
90	M26Ⅲ	1/3 欠　損	下　呂　石	(1.6)	(2.0)	0.7	(1.9)	
91	M26Ⅲ	1/2 欠　損	チャート	(2.5)	(1.1)	(0.4)	(1.3)	
92	M26Ⅲ	完　形	黒　曜　石	2.4	1.8	0.5	2.0	同　9
93	N26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.4	2.0	0.4	2.2	
94	N26Ⅲ	1/3 欠　損	下　呂　石	2.4	(1.9)	0.4	(1.8)	
95	N26Ⅲ	1/3 欠　損	下　呂　石	(3.2)	2.2	0.6	(3.6)	
96	N26Ⅲ	一部欠損	チャート	(3.4)	1.8	0.6	(4.0)	
97	O26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.9	1.7	0.4	1.2	
98	O26Ⅰb	一部欠損	チャート	3.6	(4.8)	1.3	(22.3)	
99	O26Ⅲ	一部欠損	流　紋　岩	(5.7)	4.1	1.7	(34.9)	
100	P26Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	3.1	(3.7)	0.8	(6.7)	
101	P26Ⅲ	完　形	チャート	2.2	1.7	0.5	1.4	
102	R26Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	(2.2)	1.5	0.6	(1.8)	
103	S26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.3	2.5	0.6	3.3	

104	表面採集	一部欠損	下呂石	(3.3)	2.5	0.7	(5.5)
105	表面採集	½欠損	下呂石	4.8	(1.5)	0.4	(2.5)
106	表面採集	完形	チャート	4.0	4.0	1.6	32.8
107	表面採集	一部欠損	チャート	2.2	3.0	0.5	(2.9)
108	表面採集	一部欠損	硬質頁岩	(3.5)	3.0	1.0	(9.4)
109	表面採集	完形	黒曜石	1.6	2.3	0.7	2.1
110	表面採集	完形	水晶	1.5	1.9	0.3	0.6

第14表 石錐一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	I16Ib	Ⅲ	完形	下呂石	2.7	1.0	0.6	1.4	第30図10
2	F17Ib	Ⅱ	完形	チャート	1.7	1.0	0.4	0.8	
3	H17Ib	Ⅱ	錐部先端欠損	チャート	(4.2)	2.3	1.0	(8.5)	同 9
4	H17Ib	Ⅲ	錐部先端欠損	下呂石	(3.3)	1.2	0.8	(3.3)	
5	H17Ib	Ⅳ	完形	玉髄	3.0	1.1	0.7	2.8	同 20
6	I17Ib	－	錐部破片	下呂石	(2.4)	(0.5)	(0.3)	(0.5)	同 19
7	I17Ib	Ⅱ	完形	チャート	1.6	1.1	0.3	0.7	
8	I17Ib	－	錐部破片	チャート	(1.7)	(0.8)	(0.3)	(0.5)	
9	I17Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	2.2	(1.0)	0.3	(0.6)	
10	J17Ib	Ⅲ	完形	チャート	2.3	0.7	0.2	0.6	同 18
11	J17Ib	Ⅲ	一部欠損	チャート	(2.1)	0.8	0.3	(0.7)	
12	K17Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	下呂石	(3.0)	(2.5)	0.6	(3.9)	
13	O17Ib	Ⅲ	完形	下呂石	2.1	0.9	0.6	1.0	
14	O17Ib	Ⅲ	完形	チャート	2.2	0.6	0.2	0.4	
15	G18Ib	Ⅰ	錐部先端欠損	下呂石	(2.2)	1.3	0.5	(1.3)	
16	E19Ib	Ⅲ	完形	チャート	3.6	1.1	0.5	2.6	同 11
17	E19Ib	Ⅲ	完形	玉髄	2.5	0.7	0.4	0.9	同 12
18	E20Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	1.8	(1.5)	0.3	(0.9)	
19	E21Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	2.3	2.4	0.9	3.8	同 2
20	E21Ⅱ	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	1.5	(1.1)	0.2	(0.4)	
21	E23Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	2.8	0.8	0.5	1.3	
22	E24Ⅱ	Ⅲ	一部欠損	下呂石	(2.4)	1.0	0.4	(1.1)	
23	N24Ib	Ⅱ	完形	下呂石	3.5	1.2	0.4	1.8	
24	O24Ib	Ⅰ	完形	チャート	2.4	2.5	1.2	4.9	同 1
25	O24Ib	－	錐部欠損	チャート	(1.8)	1.2	0.7	(2.0)	
26	N25Ib	Ⅲ	完形	チャート	2.8	1.1	0.5	1.8	同 13
27	N25Ib	Ⅱ	完形	チャート	2.7	1.5	0.7	2.4	同 6
28	N25Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	下呂石	(2.5)	2.3	0.5	(1.5)	
29	N25Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	下呂石	(1.7)	(1.0)	(0.6)	(0.9)	
30	O25Ib	Ⅲ	錐部先端欠損	チャート	(2.8)	1.1	0.5	(2.0)	
31	O25Ⅲ	Ⅲ	完形	下呂石	2.1	0.6	0.4	0.6	同 17
32	O25Ⅲ	Ⅱ	つまみ部・錐部欠損	下呂石	(1.5)	(1.1)	(0.4)	(0.9)	
33	P25Ib	－	錐部破片	下呂石	(1.4)	(0.7)	(0.5)	(0.6)	
34	P25Ib	Ⅱ	完形	チャート	3.1	1.8	0.9	4.0	
35	Q25Ib	Ⅲ	錐部先端欠損	チャート	(2.8)	1.2	0.8	(3.4)	
36	J26Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	下呂石	3.1	(1.2)	0.6	(2.2)	
37	K26Ib	Ⅱ	完形	下呂石	2.6	1.5	0.4	1.5	同 7
38	K26Ib	Ⅲ	完形	チャート	3.0	0.9	0.7	2.0	同 14
39	K26Ib	Ⅱ	完形	チャート	2.0	1.1	0.4	1.0	
40	L26Ib	Ⅲ	完形	下呂石	3.2	1.2	0.7	2.0	同 15
41	L26Ib	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	2.9	(1.7)	1.0	(3.8)	

42	L26Ⅲ	Ⅲ	錐部欠損	チャート	(2.5)	1.2	0.5	(1.8)	
43	M26Ⅲ	Ⅲ	完形	下呂石	1.8	0.7	0.3	0.4	同 16
44	M26Ⅲ	Ⅱ	完形	下呂石	2.1	1.0	0.8	1.1	
45	M26Ⅲ	Ⅳ	完形	下呂石	1.8	0.9	0.8	1.0	
46	M26Ⅲ	Ⅱ	完形	チャート	1.8	1.0	0.3	0.5	
47	N26Ⅰb	Ⅰ	完形	下呂石	2.1	1.6	0.5	1.5	同 3
48	P26Ⅰb	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	(1.5)	(1.2)	0.7	(1.0)	
49	Q26Ⅰb	Ⅱ	錐部・つまみ部一部欠損	下呂石	(3.3)	(1.3)	0.6	(2.7)	
50	Q26Ⅰb	Ⅲ	錐部先端欠損	下呂石	(1.8)	0.7	0.3	(0.4)	
51	Q26Ⅲ	Ⅰ	完形	チャート	2.5	1.3	0.6	1.7	同 4
52	Q26Ⅲ	Ⅱ	完形	チャート	3.2	1.8	0.7	2.9	同 8
53	R26Ⅰb	Ⅱ	つまみ部一部欠損	チャート	(3.2)	1.4	0.7	(2.9)	同 5
54	表面採集	Ⅰ	つまみ部一部欠損	チャート	(3.5)	(1.7)	0.6	(3.6)	
55	表面採集	Ⅲ	完形	チャート	2.5	1.0	0.4	1.1	
56	表面採集	Ⅲ	完形	チャート	2.1	0.8	0.5	1.0	

第15表 磨製石斧一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	Ⅰ16Ⅰb	定角式	刃部欠損	蛇紋岩	(4.5)	(3.1)	(1.5)	(30)	第31図1
2	G17Ⅰb	定角式	胴部破片	蛇紋岩	(5.4)	(5.4)	(2.9)	(139)	
3	G17Ⅲ	定角式	刃部欠損	蛇紋岩	(5.5)	(4.7)	(2.2)	(72)	
4	G17Ⅲ	不明	刃部破片	蛇紋岩	(3.8)	(5.8)	(1.1)	(24)	
5	Ⅰ17Ⅰb	定角式	胴部破片	蛇紋岩	(3.2)	(4.5)	(1.6)	(34)	
6	K17Ⅰb	定角式	基部破片	蛇紋岩	(2.5)	(2.2)	(0.9)	(7)	
7	K17Ⅰb	定角式	刃部破片	蛇紋岩	(3.8)	(4.7)	(1.6)	(28)	
8	G18Ⅰb	定角式	基部破片	蛇紋岩	(1.9)	(2.5)	(0.8)	(5)	
9	E19Ⅱ	定角式	刃部一部欠損	凝灰岩	7.9	3.9	2.2	(96)	同 2
10	E21Ⅰb	定角式	基部欠損	蛇紋岩	(7.8)	4.0	(2.4)	(137)	同 3
11	E21Ⅱ	定角式	刃部一部欠損	輝緑岩	(14.8)	6.0	2.7	(319)	
12	E21Ⅱ	定角式	刃部欠損	安山岩	(10.2)	(5.8)	3.9	(382)	
13	O24Ⅰb	定角式	基部破片	安山岩	(5.1)	(5.2)	(2.7)	(90)	
14	P25Ⅰb	定角式	刃部破片	蛇紋岩	(1.9)	(2.4)	(0.8)	(3)	
15	Q25Ⅰb	定角式	刃部・基部欠損	蛇紋岩	(5.4)	(3.1)	1.1	(29)	同 6
16	J26Ⅰb	不明	破片	蛇紋岩	(2.0)	(2.4)	(0.4)	(2)	
17	L26Ⅲ	定角式	完形	蛇紋岩	4.0	1.8	0.8	10	同 4
18	R26Ⅲ	定角式	刃部欠損	蛇紋岩	(8.5)	(5.1)	2.3	(183)	
19	表面採集	定角式	基部欠損	蛇紋岩	(3.6)	(3.0)	1.0	(17)	同 5

第16表 据置砥石一覧表（単位cm・kg、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	F17SB上	完形	砂岩	24.5	17.4	12.9	5.04	
2	G17Ⅲb	一部欠損	砂岩	20.3	(17.5)	11.1	(4.66)	
3	H17Ⅲa	破片	砂岩	(7.8)	(6.8)	(2.2)	(0.14)	
4	Ⅰ17Ⅲb	一部欠損	砂岩	(24.8)	(28.1)	10.4	(5.50)	
5	J17Ⅰb	破片	砂岩	(4.9)	(5.1)	(1.1)	(0.04)	
6	K17Ⅰb	破片	砂岩	(9.7)	(9.9)	(5.6)	(0.42)	
7	G18Ⅰb	破片	砂岩	(7.8)	(7.3)	(1.3)	(0.10)	
8	E20Ⅱ	破片	砂岩	(13.3)	11.3	4.3	(0.84)	第32図6
9	E21Ⅱ	½欠損	砂岩	(18.5)	(14.7)	(8.8)	(2.62)	

10	E21Ⅱ	完　形	砂　岩	17.9	10.8	4.6	0.84	
11	E21Ⅱ	破　片	砂　岩	(9.0)	(8.3)	(3.4)	(0.48)	
12	E21Ⅱ	破　片	砂　岩	(6.8)	(6.2)	(3.8)	(0.20)	
13	E21Ⅱ	破　片	砂　岩	(6.9)	(1.3)	(3.2)	(0.20)	
14	E22Ⅱ	1/3 欠損	砂　岩	(38.1)	19.9	(13.6)	(15.24)	同4
15	O24Ⅲ	2/3 欠損	砂　岩	(10.4)	(14.6)	6.0	(1.42)	同5
16	O24Ⅲ	破　片	砂　岩	(11.1)	(7.7)	(3.1)	(0.38)	
17	N25Ⅰb	1/2 欠損	飛騨片麻岩	(15.6)	16.5	4.8	(1.92)	同1
18	N25Ⅰb,L26Ⅰb	破　片	砂　岩	(15.7)	(10.2)	(2.5)	(0.46)	
19	N25Ⅰb	破　片	砂　岩	(5.5)	(6.4)	(3.1)	(0.16)	
20	N25Ⅲ	完　形	砂　岩	24.4	15.9	6.8	3.06	
21	J26Ⅰb	破　片	砂　岩	(7.0)	(8.7)	(7.2)	(0.60)	
22	K26Ⅰb	破　片	砂　岩	(9.7)	(4.9)	(2.7)	(0.14)	
23	L26Ⅰb	破　片	砂　岩	(11.3)	(9.9)	(4.9)	(0.66)	
24	M26Ⅰb	一部欠損	凝灰質流紋岩	(17.7)	15.0	4.8	(1.60)	
25	M26Ⅲ	2/3 欠損	砂　岩	(11.2)	(9.0)	(7.9)	(1.04)	
26	M26Ⅲ	一部欠損	砂　岩	(9.0)	6.3	6.3	(0.60)	
27	M26Ⅲ	破　片	砂　岩	(9.5)	(9.2)	(2.7)	(0.28)	
28	N26Ⅰb	破　片	砂　岩	(6.4)	(5.0)	(1.7)	(0.06)	
29	N26Ⅲ	完　形	砂　岩	10.0	10.2	6.3	1.02	
30	R26Ⅲ	完　形	飛騨片麻岩	25.3	14.0	5.9	2.56	同2
31	表面採集	一部欠損	砂　岩	(24.0)	23.5	10.9	(8.40)	同3

第17表　手持砥石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G17Ⅲ	1/2 欠損	砂　岩	(6.3)	(4.9)	1.2	(36)	
2	H17Ⅰb	破　片	砂　岩	(5.6)	(4.2)	(2.0)	(56)	
3	I17Ⅰb	1/2 欠損	砂　岩	(5.2)	(4.9)	0.6	(25)	
4	I17Ⅲ	1/3 欠損	砂　岩	(8.0)	5.7	1.4	(93)	第33図4
5	E19Ⅱ	2/3 欠損	砂　岩	(4.9)	(4.4)	(0.9)	(24)	
6	E22Ⅱ	2/3 欠損	飛騨片麻岩	(5.3)	(3.9)	(1.0)	(30)	
7	N25Ⅱ	一部欠損	砂　岩	(4.9)	5.8	3.8	(92)	
8	Q25Ⅰb	1/2 欠損	砂　岩	(5.5)	(3.5)	(1.1)	(28)	同　5
9	K26Ⅲ	破　片	砂　岩	(2.4)	(4.0)	(0.9)	(13)	
10	P26Ⅰb	一部欠損	砂　岩	8.7	4.6	1.7	(115)	同　1
11	P26Ⅰb	1/2 欠損	砂　岩	(4.3)	4.3	0.9	(20)	同　3
12	P26Ⅲ	完　形	砂　岩	6.7	4.5	1.5	70	同　6
13	Q26Ⅰb	1/3 欠損	砂　岩	(4.9)	5.3	1.4	(40)	同　2
14	Q26Ⅲ	1/2 欠損	飛騨片麻岩	(7.2)	8.8	1.5	(101)	同　7

第18表　擦切石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	M6Ⅰ	1/2 欠損	頁　岩	(4.8)	(5.0)	0.8	(17)	
2	G17Ⅰb	一部欠損	砂　岩	5.3	(9.0)	1.0	(48)	第33図9
3	J17Ⅲb	一部欠損	砂　岩	6.3	(8.9)	1.1	(70)	
4	H18Ⅰb	1/3 欠損	砂　岩	3.5	(6.1)	0.7	(15)	同8
5	E21Ⅱ	1/3 欠損	砂　岩	10.0	(13.0)	2.8	(488)	
6	E21Ⅱ	完　形	砂　岩	8.0	11.9	2.6	220	
7	E21Ⅱ	完　形	安山岩	8.9	10.5	2.0	205	

8	N25Ⅲ	一部欠損	頁　　岩	(4.7)	(11.9)	1.6	(89)	
9	P26Ⅰb	破　　片	片　　岩	(2.9)	(2.5)	(0.4)	(4)	

第19表　敲石Ⅰ類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G17Ⅰb	½欠損	花崗閃緑岩	(7.0)	(5.9)	3.1	(215)	
2	H17Ⅰb	完　　形	輝緑凝灰岩	10.0	6.0	3.6	273	第34図2
3	E20Ⅱ	½欠損	輝緑凝灰岩	(6.0)	(7.5)	1.9	(151)	
4	E20Ⅱ	⅓欠損	安　山　岩	(7.6)	(1.2)	(4.3)	(574)	
5	E21Ⅰb	完　　形	安　山　岩	9.0	3.5	3.0	141	
6	E22Ⅱ	完　　形	頁　　岩	8.0	4.3	2.1	95	
7	E23Ⅰb	完　　形	凝　灰　岩	11.5	9.8	5.0	688	
8	E23Ⅲ	完　　形	安　山　岩	8.5	7.7	4.3	330	
9	O24Ⅲ	完　　形	濃飛流紋岩	15.0	5.8	3.9	497	同　10
10	N25Ⅲ	完　　形	頁　　岩	9.6	7.2	4.7	406	同　4
11	N25Ⅲ	完　　形	花崗閃緑岩	7.9	8.8	4.4	454	同　6
12	O25Ⅲ	完　　形	砂　　岩	16.8	7.6	3.9	743	同　11
13	K26Ⅰb	完　　形	砂　　岩	11.6	5.5	4.1	383	
14	K26Ⅲ	完　　形	頁　　岩	8.5	6.9	5.4	421	同　8
15	K26Ⅲ	破　　片	凝　灰　岩	(8.1)	(4.8)	(2.6)	(117)	
16	L26Ⅲ	一部欠損	輝緑凝灰岩	(6.3)	5.1	3.8	(172)	
17	M26Ⅰb	完　　形	輝緑凝灰岩	16.5	10.0	6.8	1600	
18	M26Ⅰb	完　　形	チャート	7.4	4.9	3.0	138	同　1
19	N26Ⅲ	完　　形	輝緑凝灰岩	10.0	5.6	4.0	334	同　3
20	P26Ⅰb	完　　形	凝　灰　岩	(12.4)	3.5	3.6	(231)	同　9
21	P26Ⅲ	一部欠損	頁　　岩	6.6	(4.1)	2.1	(80)	
22	Q26Ⅰb	⅓欠損	閃　緑　岩	(7.7)	(7.8)	2.9	(249)	
23	R26Ⅰb	完　　形	濃飛流紋岩	9.3	8.9	4.3	598	
24	表面採集	完　　形	砂　　岩	9.8	6.2	2.1	224	同　7
25	表面採集	完　　形	チャート	8.7	7.9	5.6	520	同　5
26	表面採集	½欠損	砂　　岩	(13.5)	(6.8)	(4.8)	(560)	

第20表　敲石Ⅱ類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	H16Ⅰb	完　　形	砂　　岩	6.0	6.6	1.5	65	
2	E17Ⅰb	完　　形	砂　　岩	8.0	10.6	4.2	330	
3	F17Ⅲa	⅔欠損	飛騨片麻岩	(6.9)	(8.8)	(2.5)	(126)	
4	G17Ⅰb	完　　形	頁　　岩	7.2	12.5	3.0	335	
5	I17Ⅲa	破　　片	砂　　岩	5.6	(8.9)	1.2	(75)	
6	J17Ⅰb	½欠損	凝灰質流紋岩	(6.3)	11.8	2.1	(230)	
7	K17Ⅰb	½欠損	砂　　岩	(6.0)	(6.1)	1.6	(59)	
8	N17Ⅰb	完　　形	凝　灰　岩	8.4	13.9	3.4	549	第35図5
9	N17Ⅰb	一部欠損	閃　緑　岩	9.4	(17.3)	5.2	(1060)	
10	O17Ⅰb	完　　形	頁　　岩	8.3	10.2	1.9	285	
11	E18Ⅰb	完　　形	安　山　岩	9.6	10.3	3.6	365	
12	H18Ⅰb	完　　形	砂　　岩	5.1	9.9	2.6	183	同　3
13	E20Ⅱ	完　　形	砂　　岩	11.2	13.6	5.0	976	
14	E21Ⅱ	完　　形	安　山　岩	9.2	11.7	3.0	428	同　4
15	E21Ⅱ	一部欠損	凝　灰　岩	5.1	(8.2)	2.3	(97)	

16	E21Ⅱ	一部欠損	砂岩	5.7	(6.6)	2.2	(100)	
17	E23Ⅱ	完形	砂岩	9.9	10.5	3.3	402	
18	E23Ⅱ	一部欠損	砂岩	6.8	(8.7)	3.4	(311)	
19	E24Ⅱ	一部欠損	砂岩	(7.0)	8.5	2.0	(152)	
20	E24Ⅱ	1/3欠損	砂岩	(8.6)	13.2	3.5	(470)	
21	N24Ⅰb	完形	砂岩	8.5	2.8	4.6	544	
22	O24Ⅰb	完形	砂岩	8.2	9.9	6.8	664	
23	O24Ⅲ	完形	輝緑岩	7.8	13.3	3.2	418	
24	N25Ⅲ	完形	凝灰岩	8.5	8.6	2.0	166	
25	N25Ⅲ	1/3欠損	砂岩	(4.9)	11.5	(2.5)	(171)	
26	P25Ⅲ	完形	濃飛流紋岩	8.6	6.5	4.3	233	
27	L26Ⅲ	1/2欠損	凝灰質流紋岩	9.4	(6.5)	2.5	(184)	
28	M26Ⅰb	破片	砂岩	(4.9)	(6.1)	(1.3)	(40)	
29	M26Ⅲ	一部欠損	安山岩	8.8	(8.6)	2.3	(213)	
30	N26Ⅰb	一部欠損	安山岩	8.2	15.8	4.5	(627)	
31	N26Ⅲ	一部欠損	凝灰岩	(5.8)	13.0	2.6	(204)	
32	O26Ⅰb	一部欠損	砂岩	8.8	(10.9)	2.7	(351)	
33	P26Ⅲ	完形	花崗閃緑岩	8.0	9.2	2.1	215	同 2
34	R26Ⅲ	1/2欠損	飛騨片麻岩	7.6	(5.5)	3.3	(156)	
35	表面採集	完形	安山岩	7.3	12.6	2.2	232	
36	表面採集	完形	砂岩	6.1	8.7	1.4	97	
37	表面採集	完形	砂岩	5.7	8.5	2.3	146	同 1
38	表面採集	1/3欠損	砂岩	8.4	(8.8)	2.1	(234)	

第21表 礫器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	F17Ⅲa	Ⅱb	1/2欠損	安山岩	(7.6)	(8.3)	(2.7)	(146)	
2	E19Ⅰb	Ⅰa	完形	砂岩	8.1	8.7	6.5	475	第35図7
3	E19Ⅰb	Ⅱb	完形	砂岩	12.7	14.2	4.0	1040	同 8
4	E20Ⅱ	Ⅰa	完形	安山岩	10.0	18.8	4.5	1120	
5	E20Ⅱ	Ⅰb	完形	安山岩	10.7	20.8	4.7	1220	同 6
6	E22Ⅱ	Ⅱa	完形	砂岩	9.6	10.8	3.1	348	
7	E24Ⅰb	Ⅰb	完形	安山岩	10.3	13.0	7.7	1094	
8	O24Ⅲ	Ⅰa	1/2欠損	濃飛流紋岩	(8.1)	(8.7)	3.9	(418)	
9	O25Ⅰb	Ⅱa	1/2欠損	安山岩	(5.8)	(12.5)	(3.6)	(285)	
10	J26Ⅰb	Ⅰa	完形	ハンレイ岩	10.8	8.8	4.1	571	
11	L26Ⅰb	Ⅰa	完形	濃飛流紋岩	9.1	9.7	4.5	445	
12	Q26Ⅲ	Ⅱb	1/3欠損	砂岩	(4.7)	(7.5)	(3.2)	(125)	
13	表面採集	Ⅱa	完形	凝灰質流紋岩	(6.9)	(13.8)	(5.1)	(425)	

第22表 楔形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	I16Ⅰb	完形	下呂石	2.2	0.9	0.4	0.9	
2	F17Ⅲa	完形	下呂石	1.6	1.0	0.4	0.7	
3	F17Ⅲa	完形	チャート	2.9	1.4	0.7	3.4	
4	G17Ⅰb	完形	下呂石	3.6	3.6	1.2	16.2	第36図4
5	G17Ⅰb	一部欠損	下呂石	(3.1)	1.2	0.3	(1.8)	
6	G17Ⅰb	完形	下呂石	2.2	2.2	0.7	3.7	同 10
7	G17Ⅰb	完形	下呂石	1.9	1.9	0.6	1.7	

8	G17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.1	1.8	0.7	2.9	
9	G17Ⅰb	完　形	チャート	2.3	1.8	0.9	3.8	
10	G17Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.9	1.8	0.4	2.0	
11	G17Ⅲa	完　形	下　呂　石	5.5	3.6	1.7	30.5	
12	H17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.2	1.9	0.5	2.1	
13	H17Ⅰb	完　形	チャート	2.5	0.8	0.6	1.1	
14	H17Ⅲa	一部欠損	下　呂　石	(2.8)	2.0	1.1	(4.1)	
15	H17Ⅲa	完　形	下　呂　石	1.7	2.1	0.6	2.2	
16	H17Ⅲa	完　形	チャート	1.7	1.5	0.4	1.4	
17	I17Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.1	3.7	1.6	14.3	
18	I17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.2	1.9	0.6	2.7	
19	I17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.0	1.6	0.6	1.7	
20	I17Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.7	2.3	0.6	1.7	
21	I17Ⅰb	完　形	玉　　髄	3.1	2.3	1.1	7.3	
22	I17Ⅲ	完　形	チャート	2.2	1.1	0.6	1.5	
23	J17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2..0	1.6	0.5	1.8	
24	J17Ⅰb	完　形	チャート	1.7	2.5	0.5	2.4	
25	J17Ⅰb	完　形	チャート	1.6	1.2	0.5	0.8	
26	J17Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.4	1.7	0.4	1.1	
27	J17Ⅲ	完　形	チャート	1.6	1.1	0.5	0.9	
28	K17Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.6	1.9	1.3	7.7	
29	K17Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	(2.2)	2.1	0.9	(3.8)	
30	K17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.3	1.8	0.6	1.9	
31	K17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.0	0.7	0.9	1.1	
32	K17Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.7	0.6	0.4	0.4	
33	N17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.1	1.7	1.0	3.1	
34	N17Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.2	2.6	0.9	4.6	
35	N17Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.2	1.1	0.7	2.3	
36	N17Ⅰb	完　形	チャート	3.1	2.4	1.2	9.2	
37	N17Ⅰb	完　形	チャート	2.0	2.5	1.4	4.2	
38	N17Ⅰb	完　形	チャート	2.0	2.5	0.6	2.2	同　6
39	N17Ⅰb	完　形	チャート	0.8	0.6	0.4	0.4	
40	O17Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.1	1.4	1.0	3.7	
41	O17Ⅰb	完　形	チャート	2.3	1.1	0.8	2.1	
42	O17Ⅰb	完　形	チャート	1.8	1.8	0.5	1.8	
43	O17Ⅰb	一部欠損	チャート	(2.3)	0.8	1.0	(1.6)	
44	F18Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	2.2	2.7	0.9	(5.4)	
45	F18Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.0	1.6	0.5	1.8	
46	G18Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.8	2.4	0.7	4.5	
47	H18Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.2	1.3	0.5	1.7	
48	H18Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.3	1.6	0.4	1.4	
49	E19Ⅰb	完　形	下　呂　石	3.7	1.5	1.0	4.1	
50	E19Ⅱ	完　形	下　呂　石	3.3	1.3	1.0	4.0	
51	E19Ⅱ	完　形	下　呂　石	1.4	1.2	0.5	0.7	
52	E19Ⅱ	完　形	チャート	3.4	1.4	0.9	2.8	
53	E20Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.4	2.9	0.7	4.0	
54	E20Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.1	1.1	0.5	0.8	
55	E20Ⅰb	完　形	チャート	1.6	0.8	0.3	0.5	
56	E20Ⅱ	完　形	下　呂　石	1.7	1.5	0.8	2.3	
57	E20Ⅱ	完　形	チャート	2.4	1.6	0.4	2.5	
58	E21Ⅱ	完　形	下　呂　石	1.6	1.8	0.5	1.5	同　7
59	E21Ⅱ	完　形	下　呂　石	1.5	1.7	0.7	1.6	
60	E21Ⅱ	完　形	下　呂　石	2.2	1.1	0.6	1.4	

61	E21Ⅱ	完　形	チャート	2.4	2.2	0.8	3.7	
62	E21Ⅱ	完　形	チャート	2.5	1.5	0.9	3.7	
63	E22Ⅰb	完　形	下呂石	2.9	1.2	0.7	1.8	
64	E22Ⅱ	完　形	下呂石	2.5	1.6	0.6	2.2	
65	E22Ⅱ	完　形	下呂石	2.3	1.3	0.8	2.1	
66	E23Ⅱ	完　形	下呂石	2.5	3.0	1.2	8.9	同　5
67	E23Ⅱ	一部欠損	下呂石	(1.5)	1.9	1.0	(2.1)	
68	E23Ⅱ	完　形	下呂石	1.9	1.5	0.5	1.3	
69	E23Ⅱ	完　形	下呂石	2.8	1.0	0.7	2.2	
70	E23Ⅱ	完　形	下呂石	2.0	1.2	0.7	1.5	
71	E23Ⅱ	完　形	下呂石	2.1	1.1	0.6	1.4	
72	E24Ⅱ	一部欠損	下呂石	(2.1)	1.2	0.8	(1.4)	
73	N24Ⅰb	一部欠損	下呂石	2.4	(1.6)	0.5	(1.9)	
74	N24Ⅰb	完　形	下呂石	1.6	2.3	0.6	2.3	
75	N24Ⅰb	完　形	下呂石	2.1	1.8	0.6	2.1	
76	N24Ⅰb	完　形	チャート	2.5	2.2	1.0	5.0	
77	O24Ⅰb	完　形	下呂石	2.3	2.3	0.8	3.4	
78	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.4	1.6	0.7	2.8	
79	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.0	1.6	0.5	1.5	
80	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.2	1.9	0.5	1.9	
81	N25Ⅰb	完　形	下呂石	1.7	1.8	0.5	1.5	
82	N25Ⅰb	完　形	下呂石	3.0	1.3	0.9	2.8	
83	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.1	1.8	0.8	3.0	
84	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.4	2.1	1.0	3.6	
85	N25Ⅰb	完　形	下呂石	2.2	1.7	0.6	2.6	
86	N25Ⅰb	完　形	チャート	2.2	2.9	0.8	5.0	
87	N25Ⅲ	完　形	下呂石	2.4	2.5	0.6	3.4	
88	O25Ⅰb	完　形	下呂石	2.3	1.8	0.6	2.4	同　8
89	O25Ⅰb	完　形	チャート	2.6	2.2	0.9	4.7	
90	O25Ⅰb	完　形	チャート	1.6	2.3	0.8	5.5	
91	O25Ⅲ	完　形	下呂石	2.8	1.4	1.0	2.8	
92	O25Ⅲ	完　形	下呂石	2.0	0.9	0.5	0.7	
93	O25Ⅲ	完　形	チャート	2.0	2.2	0.8	3.3	
94	O25Ⅲ	完　形	流紋岩	1.9	1.6	0.6	1.5	
95	O25Ⅲ	完　形	メノウ	1.9	0.8	0.5	0.8	
96	P25Ⅰb	完　形	チャート	3.7	2.7	1.4	15.5	
97	P25Ⅰb	完　形	チャート	2.7	2.7	0.7	4.9	
98	P25Ⅰb	完　形	チャート	2.7	1.3	1.0	2.6	
99	P25Ⅲ	完　形	下呂石	2.0	2.0	0.7	2.8	
100	P25Ⅲ	完　形	玉髄	2.8	1.3	0.8	2.5	
101	Q25Ⅰb	一部欠損	下呂石	(2.9)	(1.5)	0.7	(2.8)	
102	Q25Ⅰb	完　形	下呂石	2.1	2.1	0.5	1.9	
103	Q25Ⅰb	完　形	下呂石	1.6	1.5	0.5	1.3	同　1
104	Q25Ⅰb	完　形	チャート	2.8	2.2	1.5	8.0	
105	J26Ⅰb	完　形	下呂石	2.4	1.8	0.9	3.7	同　9
106	J26Ⅰb	完　形	下呂石	2.0	1.6	0.4	1.0	
107	J26Ⅰb	完　形	下呂石	2.0	0.6	0.4	0.4	
108	J26Ⅰb	完　形	下呂石	1.8	0.6	0.5	0.7	
109	J26Ⅰb	完　形	チャート	2.3	2.3	0.6	3.0	
110	J26Ⅰb	一部欠損	チャート	(2.5)	1.8	1.1	(4.5)	
111	K26Ⅲ	完　形	下呂石	1.9	1.4	0.4	1.2	
112	K26Ⅰb	完　形	下呂石	2.7	2.7	0.6	4.2	
113	K26Ⅰb	完　形	下呂石	2.3	1.5	0.6	1.8	

114	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.9	1.3	0.4	0.8	
115	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.9	1.9	0.5	1.9	
116	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	4.2	2.2	1.4	7.4	
117	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.6	2.7	1.1	8.7	
118	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.6	3.2	0.7	4.6	同　3
119	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.8	2.9	0.7	4.4	
120	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.1	1.9	0.8	3.1	
121	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.7	2.3	0.3	1.6	
122	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.9	2.6	1.7	12.7	
123	K26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.8	0.8	0.5	0.4	
124	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.8	1.5	0.8	2.0	
125	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.7	1.8	0.7	1.5	
126	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.8	1.3	0.5	1.2	
127	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.8	1.6	1.0	2.2	
128	K26Ⅰb	完　形	チャート	1.4	1.2	0.7	1.2	
129	K26Ⅰb	完　形	チャート	2.1	0.8	0.5	0.7	
130	K26Ⅲ	完　形	チャート	6.1	3.6	2.0	36.2	
131	K26Ⅲ	完　形	チャート	2.7	1.6	0.9	4.5	
132	L26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.7	1.7	0.4	1.0	
133	L26Ⅰb	完　形	チャート	2.2	2.2	1.2	5.6	
134	L26Ⅰb	一部欠損	玉　　髄	(1.4)	1.2	0.4	(0.8)	
135	L26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.7	1.2	0.5	1.2	
136	L26Ⅲ	完　形	チャート	2.1	1.8	0.7	2.4	
137	L26Ⅲ	完　形	チャート	2.0	1.0	0.9	1.8	
138	L26Ⅲ	完　形	チャート	1.7	0.9	0.4	0.8	
139	M26Ⅲ	完　形	下　呂　石	3.6	1.5	1.0	5.7	
140	M26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.6	1.5	0.3	1.0	
141	M26Ⅲ	一部欠損	下　呂　石	(1.8)	2.3	0.7	(2.0)	
142	M26Ⅲ	完　形	チャート	3.9	3.8	2.0	34.3	
143	M26Ⅲ	一部欠損	チャート	(1.9)	0.8	0.7	(3.3)	
144	N26Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	2.3	1.0	0.6	(1.2)	
145	N26Ⅰb	一部欠損	下　呂　石	(2.0)	2.2	0.4	(1.8)	
146	N26Ⅰb	完　形	チャート	2.5	3.8	1.2	11.1	
147	N26Ⅰb	完　形	チャート	3.0	2.1	1.5	10.6	
148	N26Ⅰb	完　形	チャート	1.7	1.7	0.4	1.4	
149	N26Ⅰb	完　形	チャート	1.7	1.3	0.6	1.3	
150	N26Ⅰb	完　形	チャート	2.1	1.5	0.9	2.4	
151	N26Ⅰb	完　形	チャート	2.8	2.3	1.0	5.4	
152	N26Ⅰb	完　形	黒　曜　石	2.7	1.5	1.1	3.2	
153	N26Ⅲ	完　形	下　呂　石	3.0	2.4	1.2	6.5	
154	N26Ⅲ	完　形	下　呂　石	2.1	1.6	0.4	1.3	
155	N26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.4	1.5	0.3	0.8	
156	N26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.5	1.1	0.3	0.7	
157	N26Ⅲ	完　形	下　呂　石	1.6	1.0	0.5	0.9	
158	N26Ⅲ	完　形	チャート	2.9	2.0	1.7	12.7	
159	N26Ⅲ	完　形	チャート	3.1	2.9	2.0	13.9	
160	O26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.8	1.9	1.0	5.1	
161	O26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.0	1.1	0.7	1.3	
162	O26Ⅰb	完　形	下　呂　石	2.2	1.9	1.4	5.1	
163	O26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.8	0.7	0.5	0.6	
164	O26Ⅲ	完　形	チャート	2.1	1.1	0.9	2.0	
165	O26Ⅲ	完　形	チャート	2.8	1.1	0.7	1.6	
166	P26Ⅰb	完　形	下　呂　石	1.9	1.9	0.6	1.8	

167	P26Ⅰb	完	形	チャート	3.4	2.4	1.4	11.9	
168	Q26Ⅰb	完	形	下呂石	2.4	0.9	0.6	1.4	
169	Q26Ⅰb	完	形	チャート	1.8	1.4	0.9	2.7	
170	R26Ⅰb	完	形	下呂石	1.8	1.4	0.4	1.1	
171	R26Ⅰb	完	形	チャート	2.6	4.2	1.2	14.1	
172	R26Ⅰb	完	形	チャート	3.1	3.0	1.3	15.0	
173	R26Ⅰb	完	形	チャート	1.6	1.1	0.5	0.9	
174	R26Ⅰb	完	形	硬質頁岩	1.9	1.0	0.4	0.9	
175	S26Ⅰb	完	形	下呂石	3.1	1.5	0.7	2.7	
176	S26Ⅰb	完	形	下呂石	2.8	1.2	0.6	1.7	
177	S26Ⅰb	完	形	黒曜石	1.7	1.0	0.6	0.9	
178	表面採集	完	形	下呂石	2.4	2.5	0.7	3.7	
179	表面採集	完	形	下呂石	2.7	2.0	0.9	1.0	
180	表面採集	完	形	下呂石	1.8	2.2	0.5	1.9	
181	表面採集	完	形	下呂石	1.7	2.1	0.3	1.4	同 2
182	表面採集	完	形	下呂石	2.1	1.5	0.6	2.0	
183	表面採集	完	形	下呂石	2.0	2.0	0.6	2.4	
184	表面採集	完	形	下呂石	2.9	1.4	1.1	3.0	
185	表面採集	完	形	チャート	1.5	2.5	0.7	2.4	
186	表面採集	完	形	珪質凝灰岩	1.8	2.0	1.4	5.3	

第23表 礫石錘一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	a	b	L_1	L_2	W	S	重さ	挿図番号
1	J16Ⅰb	完形	花崗岩	3.0	4.2	8.6	7.4	8.4	2.8	255.0	第37図7
2	O17Ⅰb	½欠損	砂岩	2.2	—	—	—	(4.5)	(2.2)	(45.9)	同 2
3	E18Ⅰb	完形	頁岩	1.0	2.4	8.9	8.0	5.0	1.8	138.9	同 5
4	E18Ⅱ	完形	凝灰岩	1.0	1.4	3.7	3.6	2.0	1.0	10.6	同 1
5	J26Ⅰb	完形	濃飛流紋岩	2.6	2.1	9.9	9.3	8.3	2.7	356.2	同 6
6	L26Ⅰb	⅔欠損	砂岩	0.9	—	—	—	(3.2)	(2.0)	(37.8)	
7	表面採集	完形	安山岩	1.2	2.0	6.6	6.3	4.1	1.6	70.5	同 3
8	表面採集	⅓欠損	砂岩	1.1	—	—	—	(4.5)	2.1	(79.1)	同 4

第24表 有溝石錘一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	a	b	L_1	L_2	W	S	重さ	挿図番号
1	L26Ⅲ	完形	濃飛流紋岩	1.8	1.5	6.9	6.3	9.3	6.3	580	第37図8

第25表 異形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	E24Ⅱ	一部欠損	下呂石	4.0	(2.2)	0.9	(3.7)	第36図11

第26表 石核一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	礫面	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G16Ⅰb	Ⅰ	○	完形	チャート	9.8	6.2	3.9	287.0	
2	I16Ⅰb	Ⅰ	○	完形	チャート	4.3	3.0	2.4	39.5	
3	G17Ⅰb	Ⅰ	○	完形	チャート	9.2	6.0	3.0	222.2	

4	I17Ib	I	○	完	形	チャート	6.6	5.2	4.2	216.3
5	I17Ib	I	○	完	形	チャート	6.3	4.2	2.7	188.9
6	I17Ib	Ⅲ	○	完	形	チャート	5.7	3.1	2.9	72.5
7	I17Ib	Ⅲ	○	完	形	チャート	3.7	2.7	2.5	45.2
8	I17Ⅲa	I	○	完	形	チャート	6.2	3.6	2.0	53.1
9	K17Ib	Ⅱ	○	完	形	下呂石	11.7	9.2	6.8	904.1
10	K17Ib	Ⅱ	○	完	形	チャート	4.6	3.1	2.2	60.2
11	K17Ib	Ⅲ	○	一部欠損	下呂石	(4.0)	3.7	1.2	(16.5)
12	N17Ib	Ⅲ	○	完	形	チャート	4.5	3.6	1.9	34.6
13	N17Ib	Ⅲ	×	完	形	下呂石	3.7	3.1	1.1	22.3
14	N17Ib	I	○	完	形	珪質凝灰岩	3.1	2.6	1.7	16.0
15	E19Ⅱ	I	○	完	形	チャート	7.8	7.5	3.5	251.1
16	E19Ⅱ	I	○	完	形	チャート	7.3	3.9	3.2	123.8
17	E21Ⅱ	I	○	完	形	チャート	10.3	6.9	4.4	349.9
18	E21Ⅱ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.1	5.9	4.3	222.1
19	E21Ⅱ	I	○	完	形	チャート	6.6	4.3	3.1	92.3
20	E21Ⅱ	Ⅱ	○	完	形	チャート	3.4	2.9	2.5	38.9
21	E22Ⅱ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.5	5.1	5.2	26.8
22	E22Ⅱ	Ⅲ	×	完	形	チャート	7.2	5.3	5.4	188.2
23	E22Ⅱ	I	○	完	形	チャート	7.9	6.5	2.5	135.4
24	E22Ⅱ	I	○	完	形	チャート	2.6	2.5	1.8	11.2
25	E23Ib	I	○	完	形	チャート	6.7	5.2	2.4	98.8
26	E23Ib	Ⅲ	○	完	形	チャート	4.0	3.3	3.2	65.4
27	E23Ⅱ	I	○	完	形	チャート	8.1	5.8	3.6	207.4
28	E23Ⅱ	I	○	完	形	チャート	6.9	5.5	3.4	147.4
29	E23Ⅱ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.6	6.8	3.2	148.1
30	E23Ⅱ	Ⅲ	×	完	形	チャート	4.6	3.8	1.9	46.3
31	E23Ⅱ	I	○	完	形	チャート	4.9	4.0	2.3	72.8
32	E24Ib	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.1	3.3	3.0	54.3
33	E24Ⅱ	I	○	完	形	チャート	7.4	5.8	5.2	292.6
34	E24Ⅱ	I	○	完	形	チャート	5.9	5.1	3.1	131.8
35	E24Ⅱ	Ⅱ	○	完	形	チャート	7.5	4.7	3.5	157.9
36	E24Ⅱ	I	○	完	形	チャート	7.8	2.3	2.2	47.5
37	N24Ib	Ⅱ	○	完	形	チャート	8.5	7.1	4.0	286.4
38	N24Ib	I	○	完	形	チャート	6.8	4.9	4.2	172.7
39	N24Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	7.9	5.5	2.5	136.9
40	N24Ⅲ	I	○	完	形	チャート	6.1	5.4	2.9	109.5
41	N24Ⅲ	I	○	完	形	チャート	4.8	3.5	3.2	85.4
42	N24Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.4	5.2	3.1	101.8
43	N24Ⅲ	I	○	完	形	チャート	4.5	4.1	2.4	56.3
44	O24Ib	Ⅱ	○	完	形	チャート	9.7	6.5	3.2	188.7
45	O24Ib	I	○	完	形	チャート	3.8	2.8	2.2	26.5
46	O24Ⅲ	I	○	完	形	チャート	12.4	11.4	9.1	1520.0
47	O24Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	8.2	5.4	4.3	211.3
48	N24Ib	I	○	完	形	チャート	9.7	9.5	4.2	452.1
49	N25Ib	I	○	完	形	チャート	11.7	6.7	4.9	479.8
50	N25Ib	I	○	完	形	チャート	5.8	5.7	2.4	111.4
51	N25Ib	I	○	完	形	チャート	6.5	6.4	4.2	153.1
52	N25Ib	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.1	4.8	2.5	100.1
53	N25Ib	Ⅱ	○	一部欠損	チャート	(3.6)	(3.1)	1.7	(25.1)
54	O25Ib	I	○	完	形	チャート	6.4	5.9	3.7	174.4
55	O25Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.4	4.8	4.0	185.6
56	P25Ib	I	○	完	形	チャート	5.7	4.6	2.8	85.0

57	P25Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.8	4.3	2.4	80.4
58	P25Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.4	3.6	2.9	72.7
59	Q25Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	4.7	4.1	2.2	52.9
60	Q26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	10.0	8.5	6.0	723.6
61	K26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	6.7	6.7	3.1	209.1
62	K26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	6.8	5.6	2.8	145.0
63	K26Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.1	4.3	3.6	108.5
64	K26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	6.7	4.4	4.4	114.7
65	K26Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	4.7	4.7	2.6	83.9
66	K26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.6	4.6	4.5	143.3
67	K26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	6.3	6.1	3.7	171.1
68	K26Ⅲ	Ⅲ	○	完	形	下呂石	5.4	2.5	2.2	24.1
69	L26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.7	4.5	2.5	81.5
70	L26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.2	3.5	2.5	53.2
71	L26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	4.9	3.5	2.1	32.1
72	L26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	7.6	7.5	4.6	295.3
73	L26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.8	4.9	3.4	134.2
74	M26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	7.2	5.3	4.2	220.8
75	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	10.2	9.6	7.4	977.2
76	M26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	11.5	9.8	4.9	619.9
77	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	13.0	8.2	5.8	50.4
78	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	9.5	5.6	6.7	403.4
79	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	8.2	7.7	3.9	320.0
80	M26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	7.6	6.9	3.6	271.2
81	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	6.2	5.8	5.2	205.0
82	M26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	7.6	4.3	2.9	136.1
83	M26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	7.0	4.8	3.5	139.5
84	M26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	4.6	4.6	3.2	61.4
85	M26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	4.2	3.4	2.3	35.6
86	N26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	4.8	4.4	2.4	60.7
87	N26Ⅲ	Ⅲ	×	完	形	チャート	3.8	3.2	2.8	38.5
88	N26Ⅲ	Ⅲ	×	完	形	チャート	3.0	2.0	2.2	12.0
89	O26Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.6	4.7	2.2	85.5
90	O26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	8.2	4.7	3.4	164.4
91	O26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	6.1	4.6	3.5	145.2
92	O26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.6	5.2	2.7	100.8
93	O26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	チャート	3.3	3.2	1.6	23.5
94	P26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	11.7	6.9	5.5	642.7
95	P26Ⅰb	Ⅱ	○	一部欠損		チャート	(5.7)	(4.6)	3.2	(91.9)
96	P26Ⅰb	Ⅲ	×	完	形	チャート	5.2	3.7	2.2	44.5
97	P26Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	4.2	4.0	1.7	28.0
98	Q26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	8.4	5.6	3.5	200.0
99	Q26Ⅲ	Ⅰ	○	完	形	チャート	5.2	4.5	3.5	118.7
100	Q26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	流紋岩	4.2	6.5	4.0	301.3
101	Q26Ⅲ	Ⅱ	○	完	形	珪質凝灰岩	4.7	3.3	1.8	29.1
102	S26Ⅰb	Ⅰ	○	完	形	チャート	7.8	6.8	5.7	395.1
103	S26Ⅰb	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.0	4.1	3.7	107.1
104	表面採集	Ⅱ	○	完	形	チャート	8.7	4.5	5.2	350.6
105	表面採集	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.6	4.4	4.3	141.9
106	表面採集	Ⅱ	○	完	形	チャート	5.9	5.2	3.0	104.6
107	表面採集	Ⅲ	×	完	形	チャート	3.9	3.5	1.9	27.2
108	表面採集	Ⅰ	○	完	形	チャート	3.2	2.3	2.4	20.5

第４節　石製品・土製品

１．はじめに

配石遺構に伴う石冠をはじめ、総数22点の石製品が出土している。また、２点の土製品が確認されている。村内における石製品の出土量が、土製品を上回る状況が今回の調査でも顕著にあらわれている。今回出土した石製品の器種には、石棒、石刀、異形石棒、石冠、御物石器およびその他の石製品がある。これに対し、土製品の器種は、耳栓と土器片円板のみである。

なお、配石遺構に伴うものについては、第４章を参照とされたい。

２．石製品

２－１）石棒（第38図５～９、第27表）

総数９点が出土している。使用石材には、安山岩が３点、濃飛流紋岩と塩屋石が各２点づつ、粘板岩と輝緑岩が各１点づつみられる。

第39図５は、粘板岩製の細身のもので端部の資料である。端部の先端は欠損するが、再生のためか、二次的な研磨が認められる。同６は、輝緑岩製の端部あるいは無頭石棒の頭部の資料で、凹石に再利用されている。同７は、濃飛流紋岩の長円礫利用のもので、自然石に近いものであるが、配石遺構の検出面の小ピットに立てられた状態で出土している（第４章、第６図参照）。全体に受熱し、タールが付着している。同８は、村内の塩屋地区に産出する塩屋石の柱状節理を素材としたもので、未製品とみられる。自然面を多く残し、稜線を敲打・研磨している。中央には凹がみられ、凹石に転用されている。同９も未製品であるが、川原の転石とみられる長円礫の安山岩を素材とする。剥離・敲打の調整が認められる。配石遺構４に伴うもので、やはり受熱している。

２－２）石刀（第38図１～４、第28表）

総数６点が出土している。使用石材には、粘板岩が多く、これが４点あるほか、緑泥片岩と凝灰岩が各１点づつみられる。

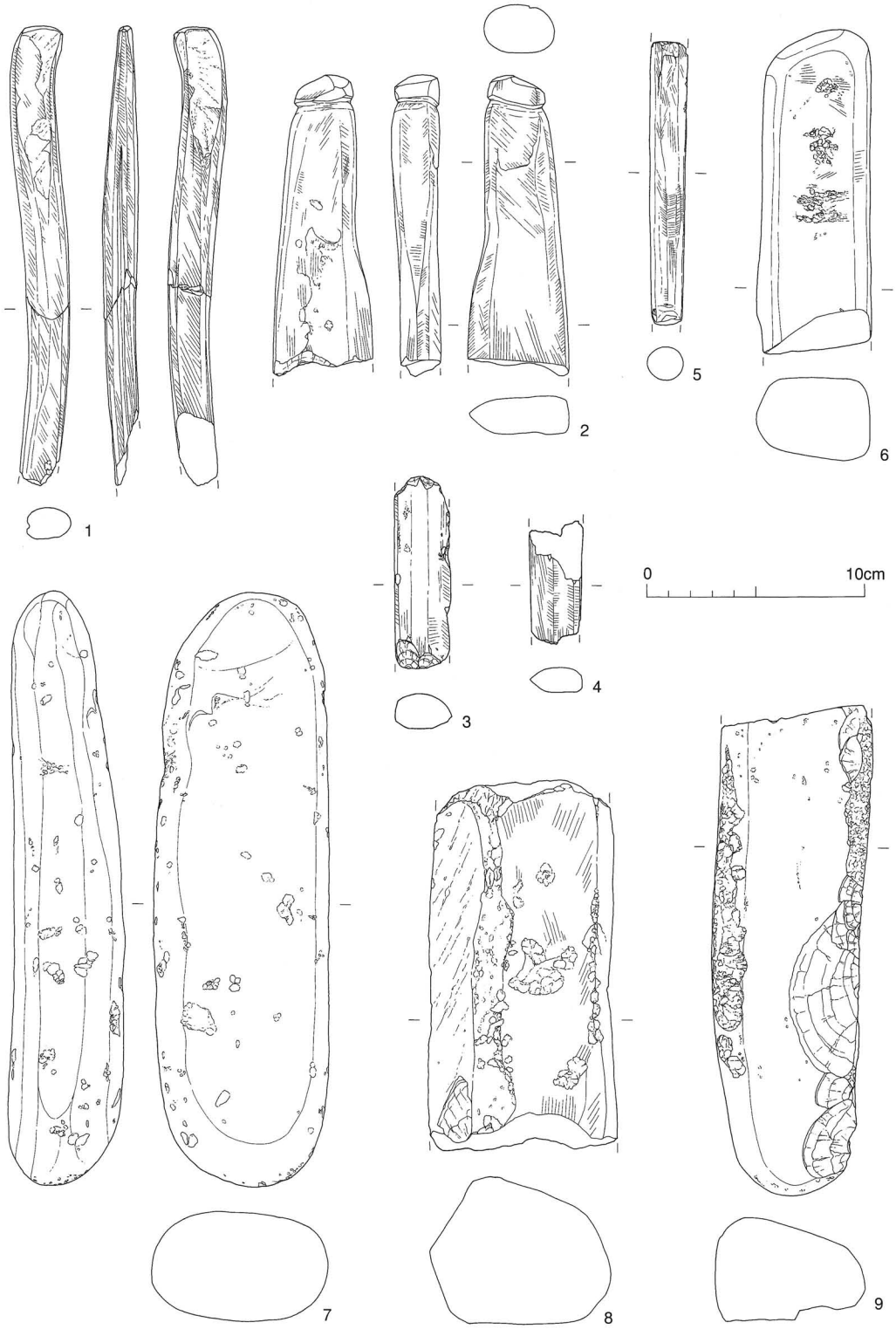
第39図１は、粘板岩製のもので、端部を欠損するものの比較的状態がよい。頭部の断面形は扁平で、胴部に最大厚をもつ。背には、１条の沈線文が刻まれる。撹乱層出土ではあるが、出土区の土器分布から後期に属す可能性がある。

同２は、凝灰岩製の頭部から胴部にかけての資料で、巾の広い刃部をもつ。頭部の先端は、ほぼ球頭状を呈する。配石遺構の検出面から出土しており、晩期中葉に属す可能性がある。

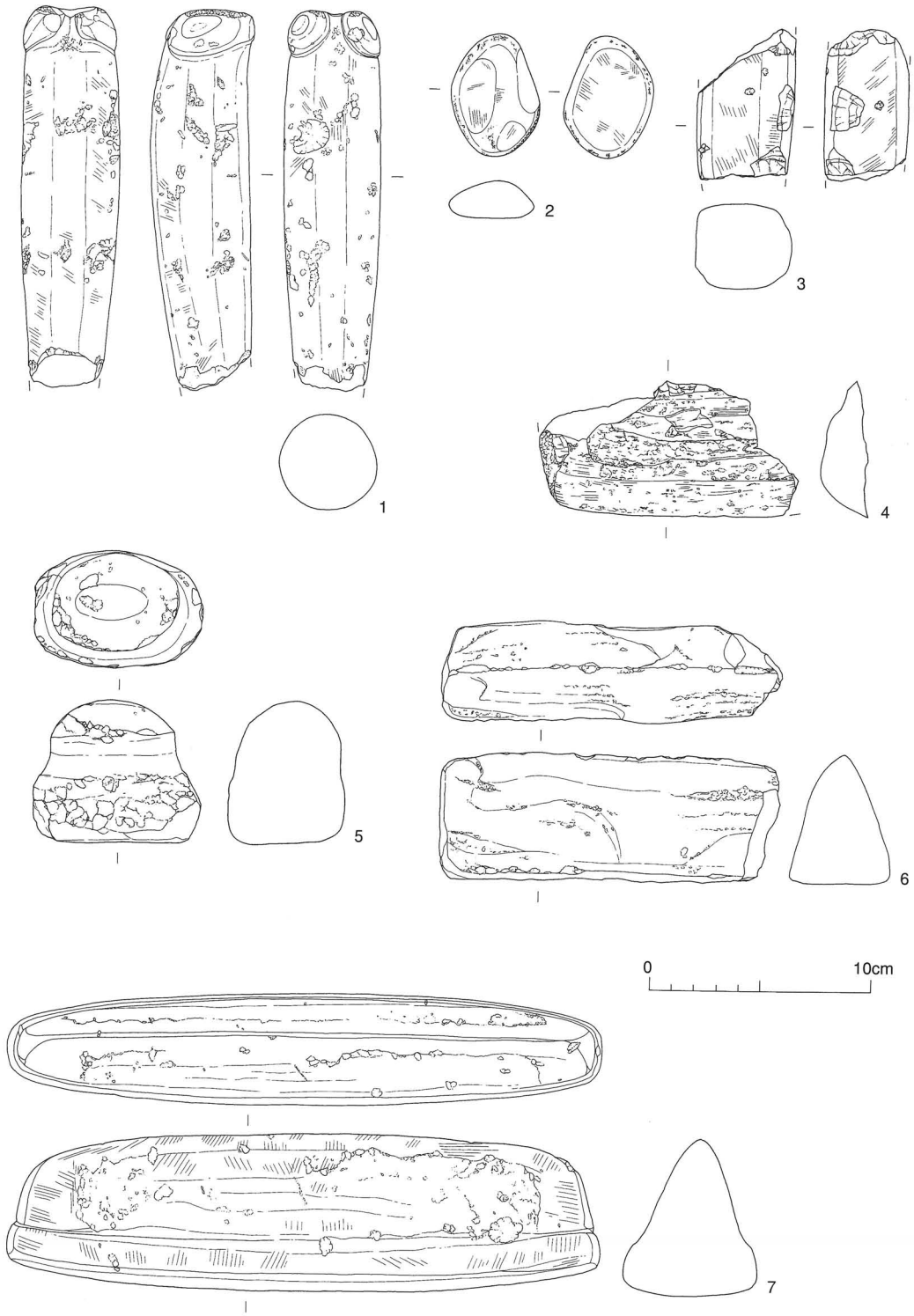
同３・４は、胴部の資料で、緑泥片岩および粘板岩製である。同３には、明瞭に受熱した形跡が認められる。

２－３）異形石棒（第39図１、第29表）

特殊な形態をもつ異形石棒１点が出土している。凝灰岩製で、頭部には敲打によって円形の凹が２つ設けられている。おそらく、魚あるいは蛇などの動物をモチーフにしているものと想定さ



第38図　石棒（5～9）、石刀（1～4）実測図



第39図　異形石棒（1）、石冠（5～7）、御物石器（4）、その他の石製品（2・3）実測図

れる。この資料も配石遺構の検出面から出土しており、晩期中葉の時期が考えられる。

2－4）石冠（第39図５～７、第30表）

総数３点が出土している。石冠を次の類に分類する。

＜Ⅰ類＞石棒に似た頭部をもつもの。いわゆる球頭状石冠にあたる。

＜Ⅱ類＞刃物状の頭部をもつもののうち、頭部と基部が明瞭に区別できるもの。いわゆる斧形石冠をａ類、いわゆる石鋸形石冠をｂ類とする。

＜Ⅲ類＞刃物状の頭部をもつもののうち、頭部と基部の区別が不明瞭なもの。いわゆる斧形石冠をａ類、いわゆる石鋸形石冠をｂ類とする。

＜Ⅳ類＞丸みをもつ山形の頭部をもつもの。いわゆる山形石冠にあたる。

＜Ⅴ類＞その他の類。

今回出土したものは、Ⅰ類（第39図５）、Ⅱb類（同７）、Ⅲb類（同６）が１点づつある。

Ⅰ類のものは、石英斑岩製で、配石遺構の検出面から出土している。Ⅱb類のものは塩屋石製で、自然面が完全に消失するものの、柱状節理を利用したものとみられる。配石遺構２に伴って出土している。Ⅲb類のものは飛騨片麻岩製で、断面形が三角形をなすプリズムのような形態をもつ。撹乱層の出土ではあるが、配石遺構の検出されたグリッドで出土していることから、関連するものかもしれない。

2－5）御物石器（第39図６、第31表）

破片１点が出土している。粘板岩製のいわゆる北陸型に属すもので、刻文がある。

2－6）その他の石製品（第39図２・３、第32表）

その他の石製品が２点出土している。緑色を呈する凝灰岩を玉石状に磨いたもの（第39図２）と砂岩製の断面四角形の砥石状石製品（同３）がある。

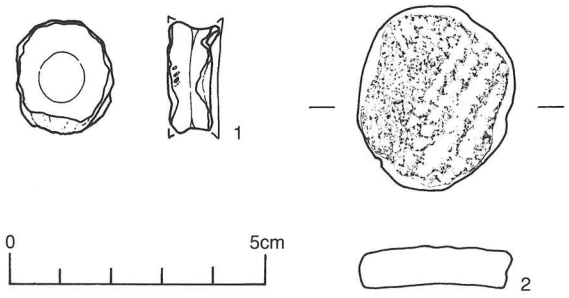
３．土製品

3－1）耳栓（第40図１、第33表）

耳栓１点が出土している。全体に磨耗し、遺存状態は良好ではないが、ほぼ２㎝程度の直径をもつ。

3－2）土器片円板（第40図２、第34表）

土器片円板１点が出土している。縄文地の土器片を再利用し、長径3.6㎝、短径3.0㎝のやや楕円形に整形される。



第40図　耳栓（１）・土器片円板（２）実測図

第27表　石棒一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	I17Ib	端部片	粘板岩	(13.1)	(1.7)	(1.5)	(57)	第38図5
2	J17IIIa	一部欠損	安山岩	(23.2)	6.0	(6.3)	(1840)	
3	E20II	胴部片	濃飛流紋岩	(8.4)	(7.0)	(5.4)	(360)	
4	E22II	端部片	輝緑岩	(14.7)	(5.3)	(4.2)	(580)	同　6
5	N25Ib	胴部片	塩屋石	(16.8)	(8.6)	(6.6)	(1480)	同　8
6	K26Ib	端部片	安山岩	(14.0)	(7.4)	(5.9)	(860)	
7	K26III	一部欠損	安山岩	(22.6)	7.0	4.6	(1140)	同　7
8	K26III	胴部破片	塩屋石	(8.7)	(5.5)	(3.6)	(172)	
9	Q26III	完　形	濃飛流紋岩	27.3	8.0	5.2	1900	同　9

第28表　石刀一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G17Ib	端部欠損	粘板岩	(21.0)	2.1	1.5	(107)	第38図1
2	E19II	胴部破片	粘板岩	(4.7)	(2.4)	(0.7)	(8)	
3	J26Ib	胴部破片	粘板岩	(5.7)	(2.4)	(1.2)	(22)	同　4
4	N26Ib	胴部片	緑泥片岩	(8.8)	(2.5)	(1.6)	(71)	同　3
5	O26III	端部欠損	凝灰岩	(13.7)	(4.5)	2.2	(119)	同　2
6	O26III	胴部破片	粘板岩	(1.9)	(2.1)	(1.2)	(5)	

第29表　異形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	N25III	端部欠損	凝灰岩	(17.2)	4.3	4.4	(560)	第39図1

第30表　石冠一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	O24III	IIb	完　形	塩屋石	7.3	26.8	5.1	940	第39図7
2	O26III	I	基部一部欠損	石英斑岩	6.4	(7.4)	5.3	(360)	同　5
3	Q26Ib	IIIb	一部欠損	飛騨片麻岩	5.8	(15.2)	4.6	(620)	同　6

第31表　御物石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	E22II	破　片	粘板岩	(11.7)	(6.2)	(2.2)	(192)	第39図4

第32表　その他の石製品一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	G17IIIa	玉石状	完　形	緑色凝灰岩	5.5	3.8	1.6	47	第39図2
2	O24III	砥石状	破　片	砂　岩	(6.6)	(4.4)	3.8	(148)	同　3

第33表　耳栓一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	最大直径	最小直径	高さ	重さ	挿図番号
1	J17Ib	一部欠損	(2.2)	(1.8)	(0.9)	(2.2)	第40図1

第34表　土器片円板一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	長径	短径	厚さ	重さ	挿図番号
1	J17Ib	完　形	3.6	3.0	0.8	11.0	第40図2

第５節　歴史時代の遺物

１．はじめに

今回の調査区から、歴史時代に属す須恵器・陶磁器類および銭貨類が出土している。平安時代に属すとみられる須恵器や灰釉陶器、中世の陶磁器、中世および近世の銭貨類である。いずれも遺構に伴うものではなく、撹乱層の出土で、遺物包含層として捉えられるものでもない。全体的な出土量は多くないものの、17列およびＥ列トレンチから出土している。

２．須恵器

２－１）無台碗（第41図１～６）

回転糸切りによる底部をもつ。いずれも折戸10号窯式または井ヶ谷78号様式並行期の製品とみられる。年代については、８世紀後葉から９世紀前葉におさまるもので、国道調査区のうづか地点で確認された住居址の年代と、ほぼ一致する。

２－２）有台碗（第41図７）

井ヶ谷78号窯式並行期のものとみられる有台碗１点が出土している。

２－３）壷（第41図８・９）

断片的であるが、壷とみられる資料が出土している。鳴海32号窯式に相当するものとみられるが、断定はできない。

３．灰釉陶器

３－１）灰釉陶器皿（第41図10～12）

黒笹14号窯式期並行とみられるもの（第41図10）、折戸53号窯式期並行とみられるもの（同11）がある。前者には９世紀前葉、後者には10世紀前葉の年代が想定される。

３－２）灰釉陶器碗（第41図13）

灰釉陶器の小型碗１点が出土している。

４．中世の陶磁器類

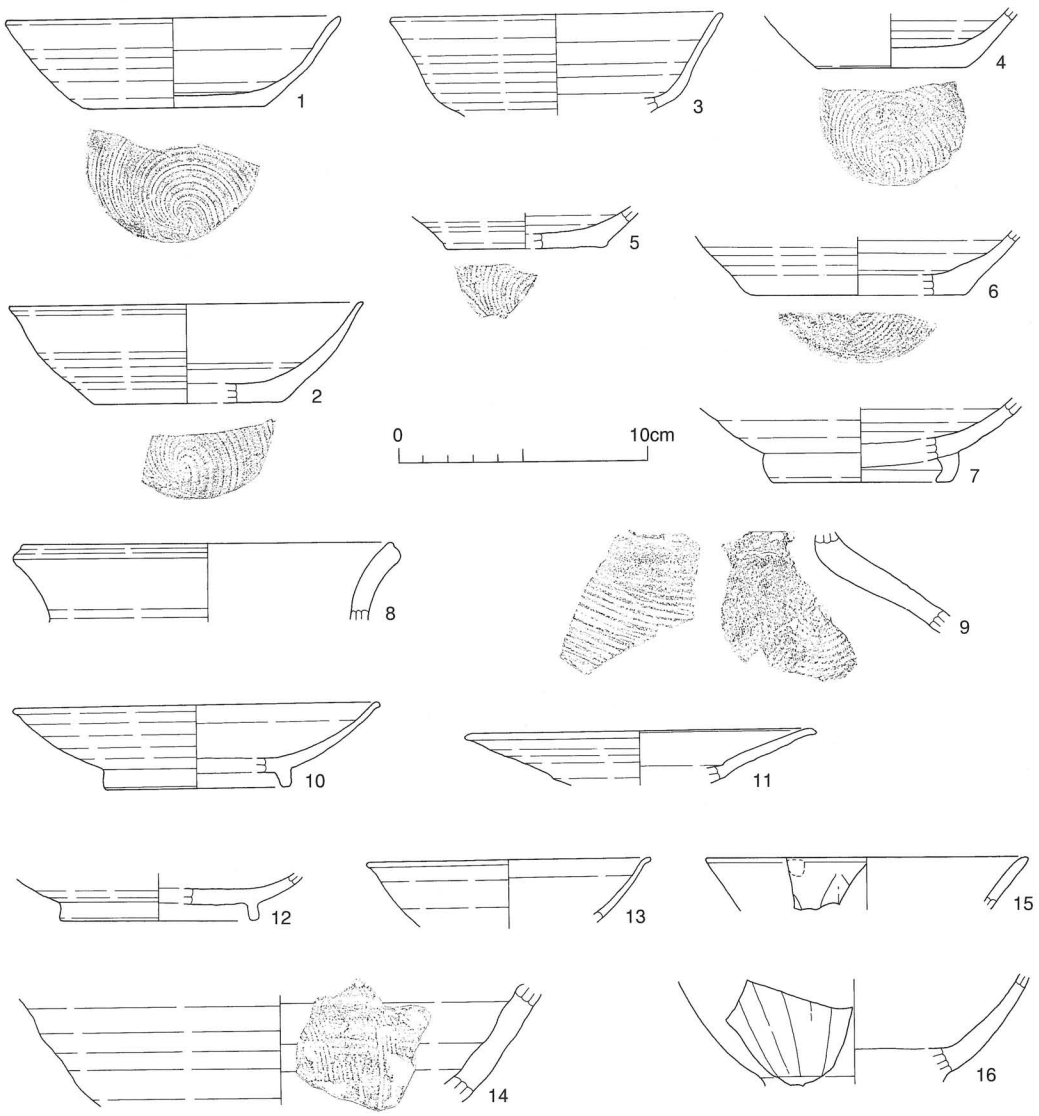
中世の陶磁器類として、珠洲焼の摺鉢（第41図14）、龍泉窯系の輸入青磁碗（同15・16）がある。同15が13世紀後半、同16が14世紀中葉頃の製品とみられる。

５．銭貨類（第42図、第35表）

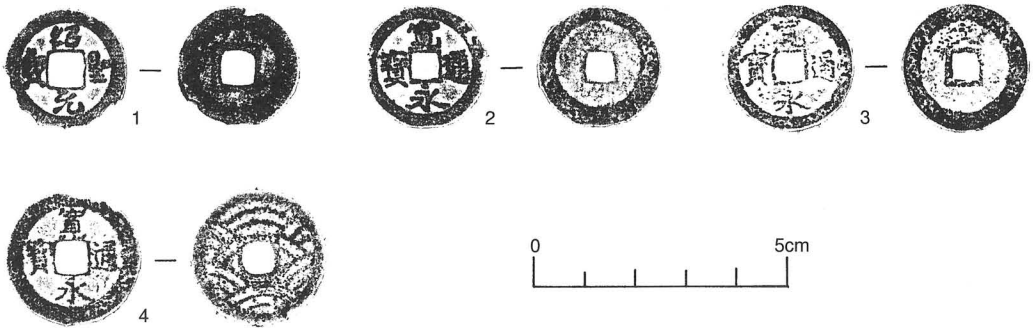
総数４点が出土している。北宋銭の紹聖元宝（第42図１）、近世の寛永通宝（同２～４）があり、後者は、古寛永（同２）と新寛永の背文銭（同３）および四文銭（同４）に細別できる。

第35表　銭貨一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	区分	背	材質	銭径	孔径	重さ	挿図番号
1	R5Ⅰ	完　形	寛永通宝	新寛永	文	銅	2.5	0.6	3.8	第42図３
2	Ⅰ17Ⅰb	完　形	寛永通宝	古寛永		銅	2.4	0.5	2.6	同　２
3	E19Ⅱ	一部欠損	紹聖元宝	北宋銭		銅	2.4	0.7	(1.4)	同　１
4	表面採集	ほぼ完形	寛永通宝	新寛永	波	銅	2.7	0.6	(3.2)	同　４



第41図　須恵器（1～9）・灰釉陶器（10～13）・中世陶磁器（14～16）拓影および実測図



第42図　銭貨類拓影

第６章　塩屋地区（塩屋島遺跡）の試掘調査

第１節　塩屋周辺の環境

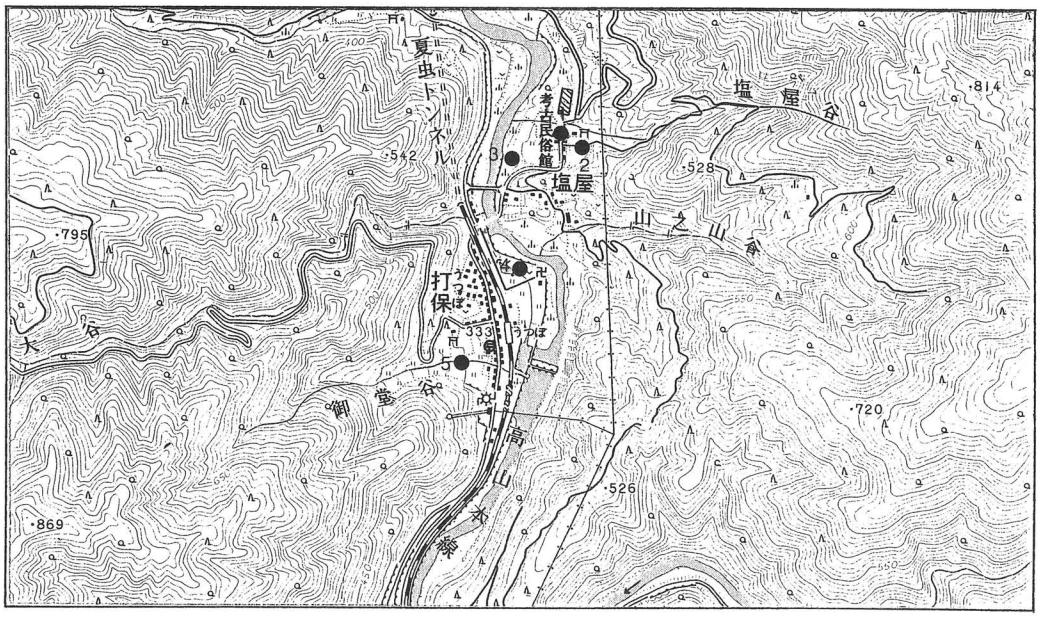
１．塩屋地区の環境

塩屋地区は、宮川右岸の河岸段丘上、塩屋谷と山ノ山谷によって形成された扇状地上に位置する。現在の集落の北端に鎮座する塩竈金清神社を中心に、河川敷付近の低地にまで縄文時代の遺物の散布が認められる。ただし、この扇状地のほぼ中央部は、大正３年（1914）の集中豪雨によって土石流の被害を受けている。

神社の脇を流れる塩屋谷には、黒雲母流紋岩質溶結凝灰岩の露頭がみられる。この岩石には、柱状節理のものを含み、この石材を利用した石棒製作址が確認されている。古くから、多くの石棒が出土して人々の注目を集めていた。この神社には、ご神体として、鍔付石棒を含む大型石棒が祭られている。

考古学的な注目も古く、明治20年代には、岡巌（註１）や田中正太郎（註２）によって『東京人類学雑誌』上に報告がなされている。昭和10年代にも、早川荘作（註３）や林魁一（註４）の出土遺物の報告があるが、本格的な考古学調査は、昭和48年（1972）の南山大学の小林知生・早川正一らによって行なわれた（註５）。この調査によって、はじめて石棒製作址の可能性が指摘された。

その後、平成４年（1992）には、観光開発に伴って緊急調査が実施されると、未製品を含む石棒1,056点や敲石・砥石などの加工用具が確認され、内容が明らかになった（註６）。



第43図　塩屋地区周辺地形図（Ｓ：１／25,000）

2．塩屋地区および周辺の遺跡

塩屋地区には、塩屋金清神社遺跡・宮ノ上遺跡（塩屋金清神社Ｂ地点）・塩屋島遺跡の３遺跡が知られている。断定はできないが、これらの遺跡は同一遺跡の可能性もある。

周辺の遺跡には、対岸に位置する打保地区に、入与遺跡・橋本遺跡があり、北に位置する中沢上地区に中沢上遺跡がある。各遺跡の概要については、次のとおり。

２－１）塩屋金清神社遺跡Ａ地点（第43図１）

大字塩屋字ほそおさに所在する。昭和48年（1972）の南山大学による学術調査および平成４年（1992）の緊急発掘調査によって、縄文後期前半を主体とする石棒製作址が確認されている。

２－２）塩屋金清神社遺跡Ｂ地点（宮ノ上遺跡）（第43図２）

大字塩屋字宮ノ上に所在する。平成５年（1994）に確認調査を実施した。縄文後期および晩期後葉の遺物包含層が確認された。調査面積が少ないため、遺物量も少なかったが、石棒の未製品や敲石が出土している（註７）。岐阜県遺跡地図には、宮ノ上遺跡として登録されるが、地形や内容から塩屋金清神社遺跡と同一遺跡と考えられる。

２－３）塩屋島遺跡（第43図３）

大字塩屋字島に所在する。今回の試掘調査の主体は、この遺跡にあたる。大部分が滅失したものと判断されるが、試掘抗１および２では、遺物包含層が確認できた。出土した資料は断片的であるが、中期中葉から後期前葉のものである。大型石棒の未製品１点が出土しているが、柱状節理の塩屋石原石は上記２遺跡に比べ少ない。断定はできないが、石棒製作址の様相は確認できなかった。

２－４）入与遺跡（第43図３）・橋本遺跡（同４）

大字打保に所在する。遺跡の内容は不明であるが、入与遺跡では石冠が採集されている（打保：光明寺所蔵）。このほか、出土地点は不明であるが、打保地区から塩屋石製石棒が採集されている（考古民俗館所蔵）。

２－５）中沢上遺跡

大字中沢上字井ノ上に所在する。後期とみられる縄文土器片、打製石斧、独鈷石が採集され、同地区に所在する山王社には、中沢上遺跡で出土した塩屋石製の石冠および異形石棒が奉納されている（註８）。

註１．岡巌、1887：「飛騨の石器」『東京人類学雑誌』3-21.

註２．田中正太郎、1894：「塩谷の石棒」『東京人類学雑誌』9-94.

田中正太郎、1894：「飛騨の石器」『東京人類学雑誌』9-95.

註３．早川荘作、1940：「吉城郡塩屋出土の土製品」『ひだびと』8-7.

註４．林魁一、1941：「飛騨塩屋発見の土偶」『ひだびと』9-3.

註５．小林知生・早川正一、1981：『岐阜県吉城郡宮川村塩屋金清神社遺跡－石棒主体の縄文後期文化－』、人類学博物館紀要3．南山大学人類学博物館。

註６．宮川村教育委員会、2000：『塩屋金清神社遺跡（Ａ地点）発掘調査報告書』

註７．宮川村教育委員会、1999：『塩屋金清神社Ｂ地点発掘調査報告書』

註８．吉村睦志、1974：「中沢上遺跡出土遺物について」『びぞん通信』28.美術文化史研究会。

第２節　調査の概要と出土遺物

１．調査の経緯と経過

平成12年、古川建設事務所より依頼のあった、国道360号線打保バイパス新設工事計画に対する事前調査を、平成12年度村内遺跡発掘調査等事業で行なった。

調査は、11月末から12月初旬にかけて実施した。１×１ｍ程度の試掘抗を19ヵ所設定した。

このうち、遺物包含層および遺構を確認できたのは、試掘抗１・２および18・19である。その他の試掘抗では、整地による撹乱や大正３年の水害によるとみられる土石流により滅失したものとみられる。

２．基本層序（第45図）

基本層序は以下とおり。

第Ⅰａ層：現況の水田耕作土。

第Ⅰｂ・ｃ層：整地の盛土。

第Ⅱａ層：旧耕作土。

第Ⅱｂ層：塩屋石および花崗岩の角礫を含む灰黄褐色砂礫層。扇状地の流失物とみられ、円礫は含まない。断定はできないが、大正３年の水害時のものかもしれない。

第Ⅲａ層：砂を含む黒色土。縄文後期前葉の土器を含む遺物包含層。

第Ⅲｂ層：赤茶褐色砂礫層。縄文中期後葉から後期前葉の土器を含む遺物包含層。

第Ⅳａ層：青灰色シルト層。以下の層には、遺物の包含は認められず基盤層とみられる。

第Ⅳｂ層：黄褐色砂層。

第Ⅳｃ層：河川転礫とみられる円礫を含む黄褐色砂礫層。宮川の本流が運んできたものとみられ、塩屋石を含まない。

第Ⅳｄ層：黄灰褐色砂層。

なお、遺物包含層が確認されたのは、試掘抗１の全体と試掘抗２の一部で、図示した土層は、すべて西側のセクションであることから、試掘抗２には表れていない。また、試掘抗18および19では30～50㎝程度の表土層下に基盤層が表れ、遺物包含層を捉えることができなかったが、土坑１基を検出した。この土坑から出土した縄文土器は、小片ながら中期中葉のものである。該期の遺遺構面が残っている可能性が高い。

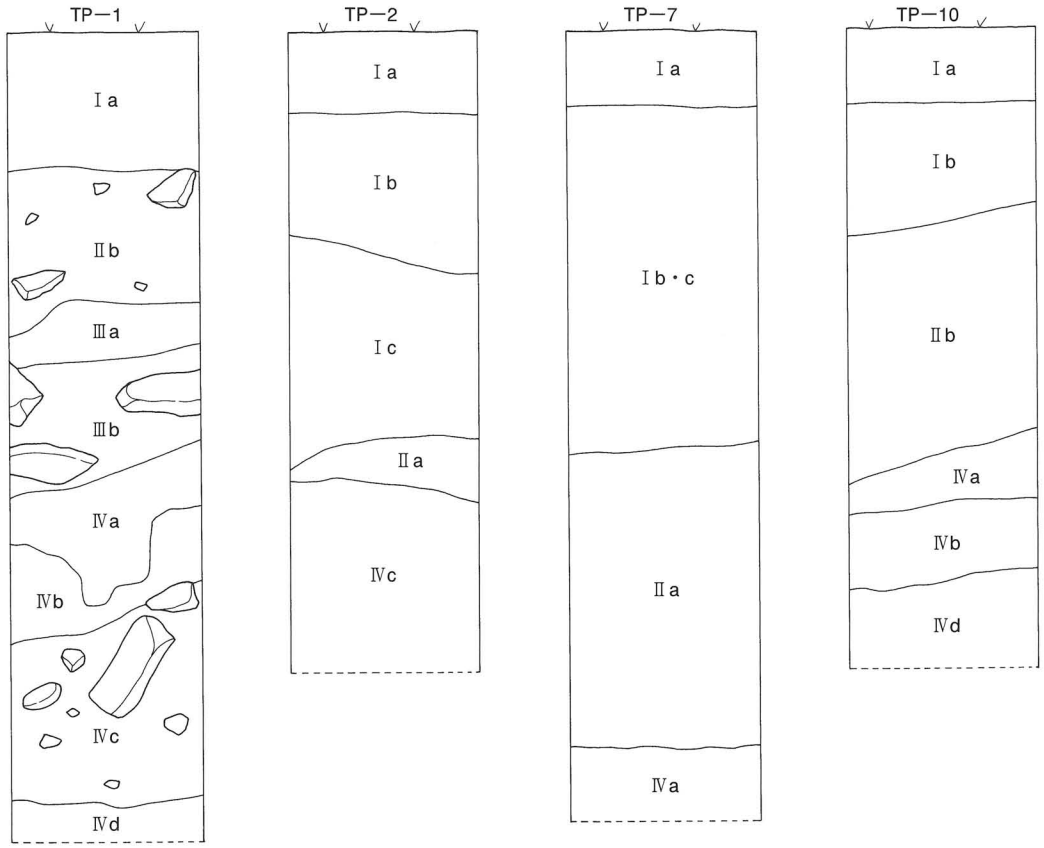
３．出土した人工遺物

この調査によって縄文中期中葉・後葉、後期前葉の縄文土器が出土している。石器25点、塩屋石の石棒未製品１点が出土している。このほか、人工遺物ではないが、塩屋石の柱状節理の原石３点が出土している。

３－１）縄文土器（第46図１～６）

いずれも断片的な資料にすぎないが、縄文中期中葉の上山田式（第46図１）、中期後葉の串田

第44図　塩屋地区試掘抗設定図



第45図　塩屋地区試掘調査セクション図（S：1/20）

新式に前後するとみられるもの（同２・３）、後期前葉の気屋式（同４～６）が出土している。

後期前葉のものは、塩屋金清神社遺跡Ａ地点出土のものに比べ、古い要素がある。

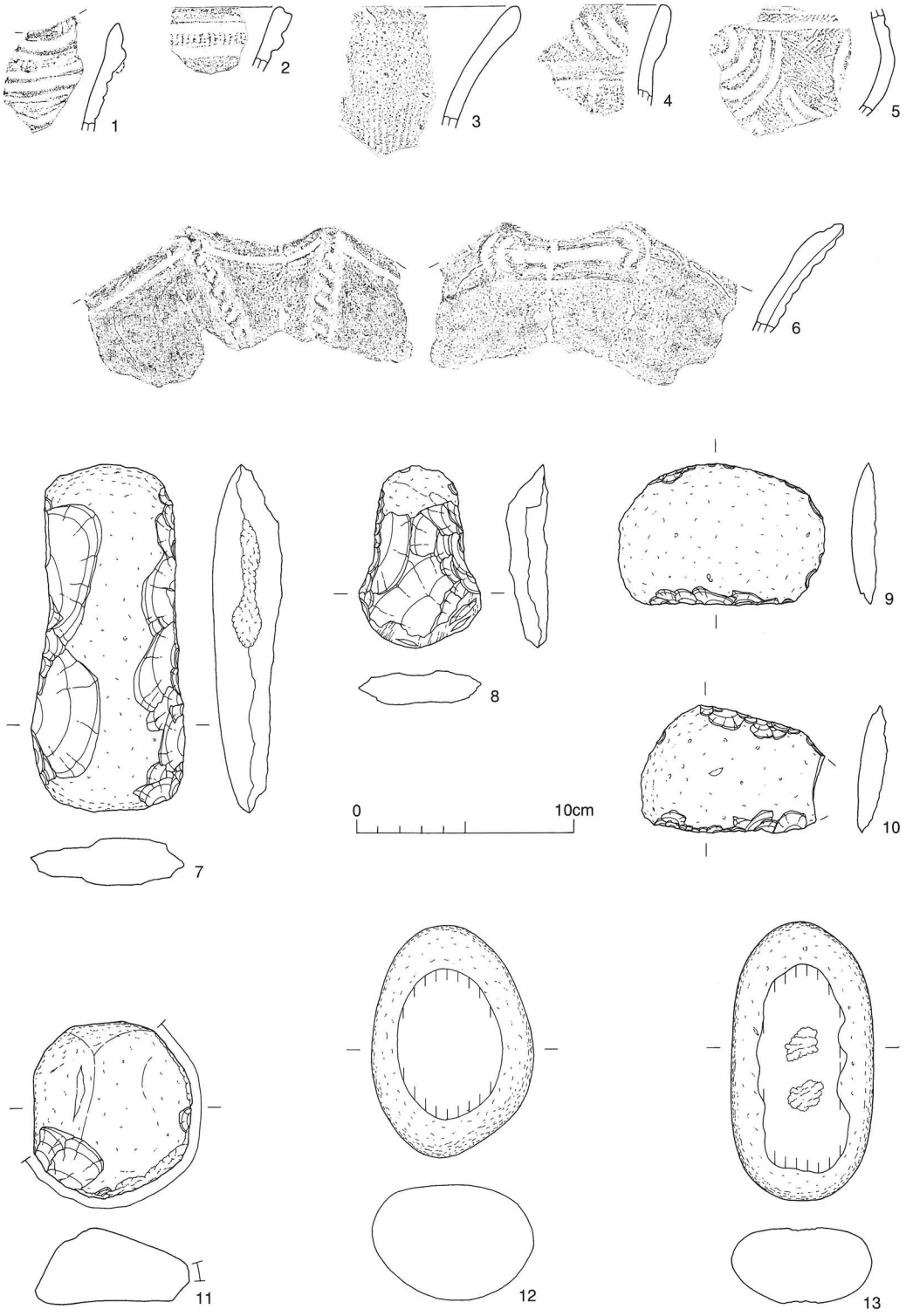
３－２）石器（第46図７～13、第36～42表）

総数25点が出土している。器種の内訳は、打製石斧（第46図７・８）４点、横刃形石器（同９・10）８点、磨石（同12）５点、凹石（同13）３点、台石２点、石錐１点、敲石Ⅰ類（同11）１点である。

なお、一覧表中の形態分類については、第５章第３節を参照されたい。

３－３）石製品（第43表）

塩屋石の柱状節理を利用した大型石棒の未製品１点が出土している。２/３を欠損するが、長さ25cm、最大巾は15cmに達する。剥離および敲打調整がなされる。



第46図　塩屋地区試堀調査出土の人工遺物

第36表　塩屋地区試堀調査　打製石斧一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	基部巾	刃部巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP2Ⅰ	Ⅰb	完形	安山岩	15.9	6.6	7.3	2.2	505	第46図7
2	TP2Ⅱa	－	刃部欠損	砂岩	(8.2)	7.2	－	2.3	(156)	
3	TP2Ⅰb	Ⅱa	完形	頁岩	8.4	2.2	5.1	1.9	105	同　8
4	表面採集	－	基部破片	頁岩	(5.3)	5.2	－	(1.3)	(46)	

第37表　塩屋地区試堀調査　横刃形石器一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅲa	一部欠損	凝灰岩	4.8	(7.9)	1.1	(63)	
2	TP1Ⅲa	一部欠損	砂岩	4.2	(12.0)	1.7	(88)	
3	TP1Ⅲb	完形	砂岩	6.5	9.7	1.1	98	第46図9
4	TP1Ⅲb	一部欠損	濃飛流紋岩	5.8	(8.6)	1.2	(68)	同　10
5	TP1Ⅲb	完形	ヒン岩	7.8	8.7	1.4	117	
6	TP1Ⅲb	½欠損	砂岩	5.9	(7.4)	1.5	(53)	
7	TP1Ⅲb	破片	頁岩	(2.7)	(6.4)	(1.2)	(19)	
8	TP1Ⅱ	一部欠損	砂岩	6.2	(7.3)	1.0	(65)	

第38表　塩屋地区試堀調査　磨石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅲa	Ⅰ	完形	砂岩	16.4	7.6	6.6	1180	
2	TP1Ⅲa	Ⅰ	完形	多孔質安山岩	8.5	7.9	2.2	280	
3	TP19Ⅰ	Ⅰ	完形	砂岩	10.7	7.4	5.4	600	第46図12
4	TP19SK	Ⅰ	完形	砂岩	10.0	7.7	3.2	380	
5	TP19SK	Ⅱ	一部欠損	砂岩	(8.1)	7.7	3.0	(260)	

第39表　塩屋地区試堀調査　凹石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅰ	Ⅱ	完形	安山岩	12.7	6.6	3.7	480	第46図13
2	TP2Ⅱa	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	12.7	5.5	3.8	400	
3	TP11Ⅰ	Ⅱ	完形	安山岩	19.1	9.9	7.4	2040	

第40表　塩屋地区試堀調査　台石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅲa	完形	砂岩	20.4	15.2	8.2	3320	
2	TP2Ⅰ	破片	砂岩	(8.6)	(10.0)	(5.7)	(660)	

第41表　塩屋地区試堀調査　石錐一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP19SK	Ⅲ	完形	珪質凝灰岩	2.1	0.6	0.3	0.6	

第42表　塩屋地区試堀調査　敲石Ⅰ類一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅰ	完　形	輝緑凝灰岩	8.3	6.7	3.7	340	第46図11
2	TP14Ⅰa	完　形	飛騨片麻岩	12.7	6.3	2.5	320	

第43表　塩屋地区試堀調査　石棒一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	石　質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP2Ⅱa	2/3 欠損	塩屋石	(25.4)	(15.3)	(12.8)	(5800)	

第44表　塩屋地区試堀調査　石棒原石一覧表（単位cm・g、カッコ内現存値）

番号	出土位置	遺存状態	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
1	TP1Ⅰ	塩屋石	13.0	4.4	3.5	250	
2	TP11Ⅰ	塩屋石	10.8	4.2	2.4	170	
3	TP11Ⅱ	塩屋石	30.1	4.4	3.3	661	

図版一

上：宮ノ前遺跡遺跡全景（南より）
下：宮ノ前遺跡遺跡近景（北西より）

図版二

上：５列トレンチ完掘状況
下：Ｅ列トレンチ完掘状況

図版三

上：17列トレンチ完掘状況
下：26列トレンチ完掘状況

図版四

上：Ｖ５区東西セクション（北東より）
下：Ｅ列南北セクション（北東より）

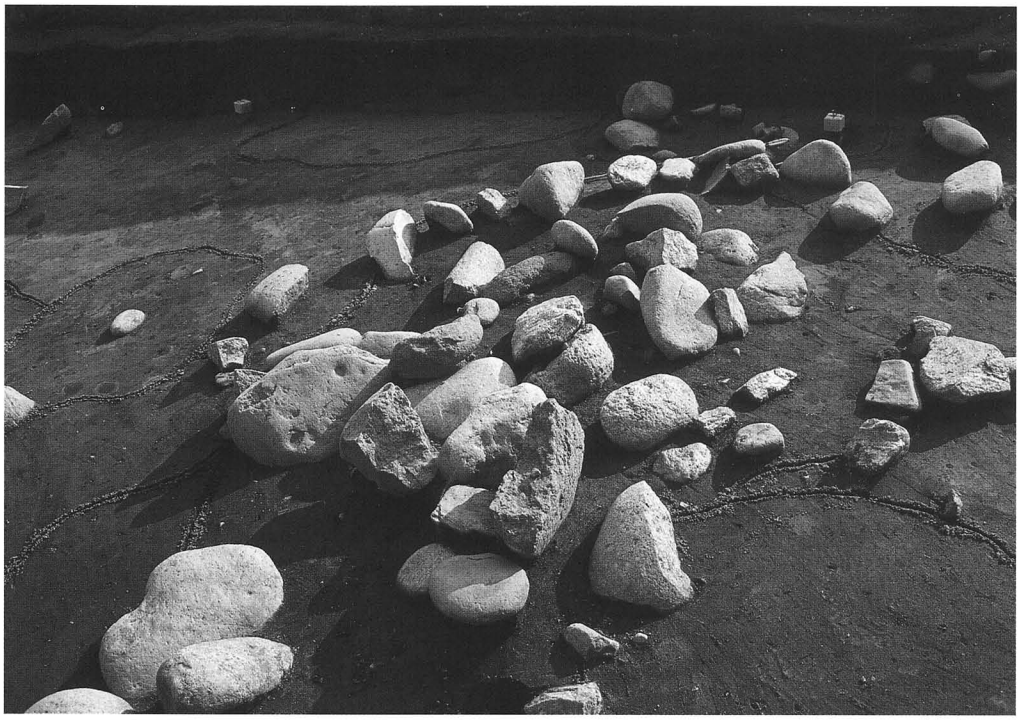
図版五

上：H17区東西セクション（北東より）
下：R26区東西セクション（北東より）

図版六

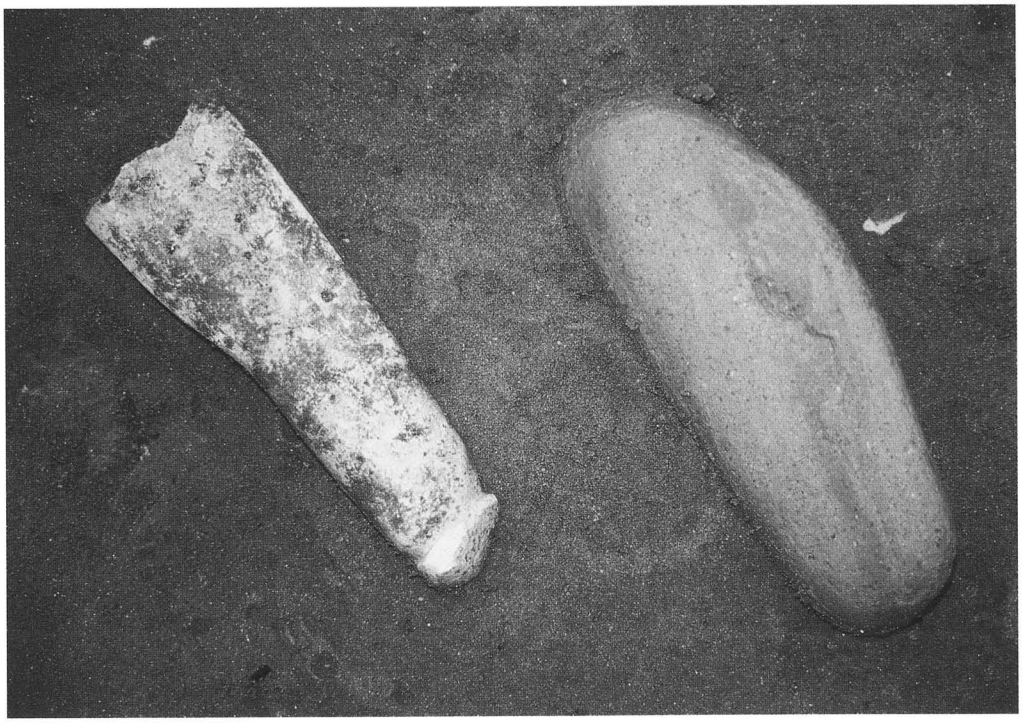
上：配石遺構１検出状況
下：配石遺構２検出状況

図版七



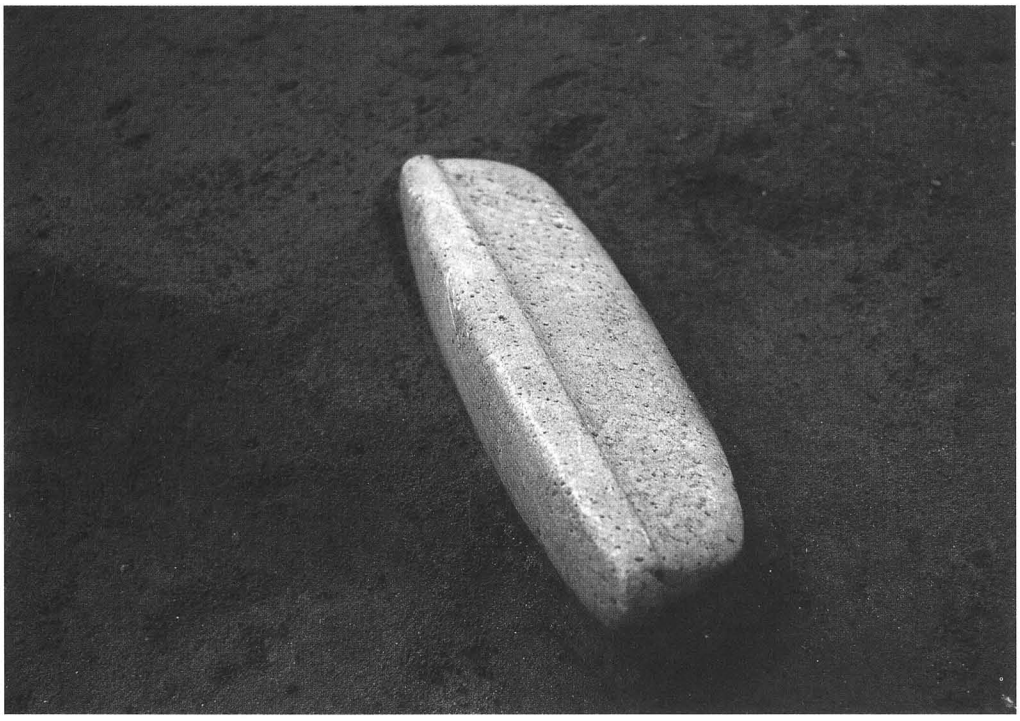
上：配石遺構３検出状況
下：配石遺構４検出状況

図版八



上：有溝石錘出土状況
下：石刀出土状況

図版九

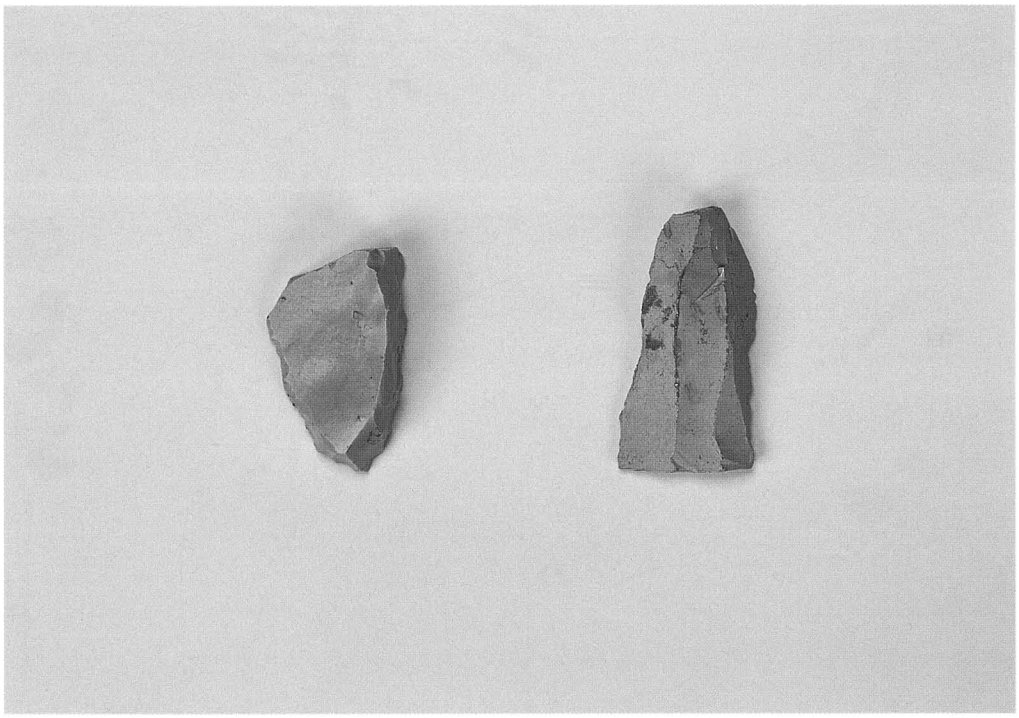


上：石冠出土状況
下：石冠出土状況

図版十

上：宮ノ前遺跡作業風景
下：宮ノ前遺跡作業風景

図版十一



上：ナイフ形石器・石刃
下：Ⅷ期第５郡土器

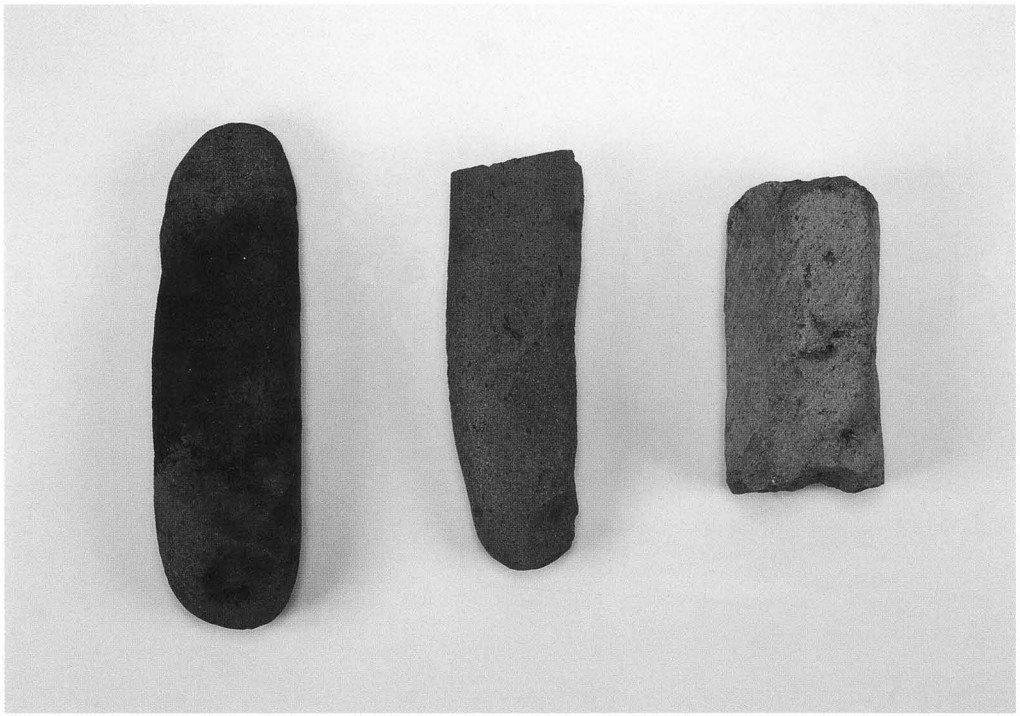
図版 十二

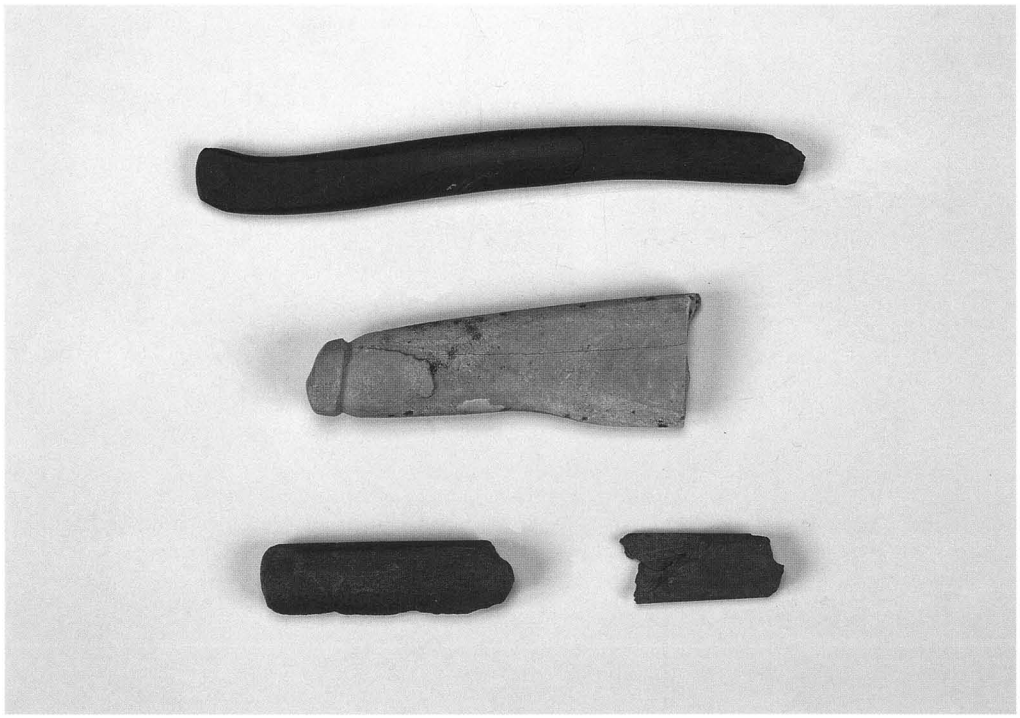
上：Ⅸ期第２郡土器
下：Ⅺ期第１郡土器

図版 十三

上：XII期第１郡土器
下：XII期第３郡土器

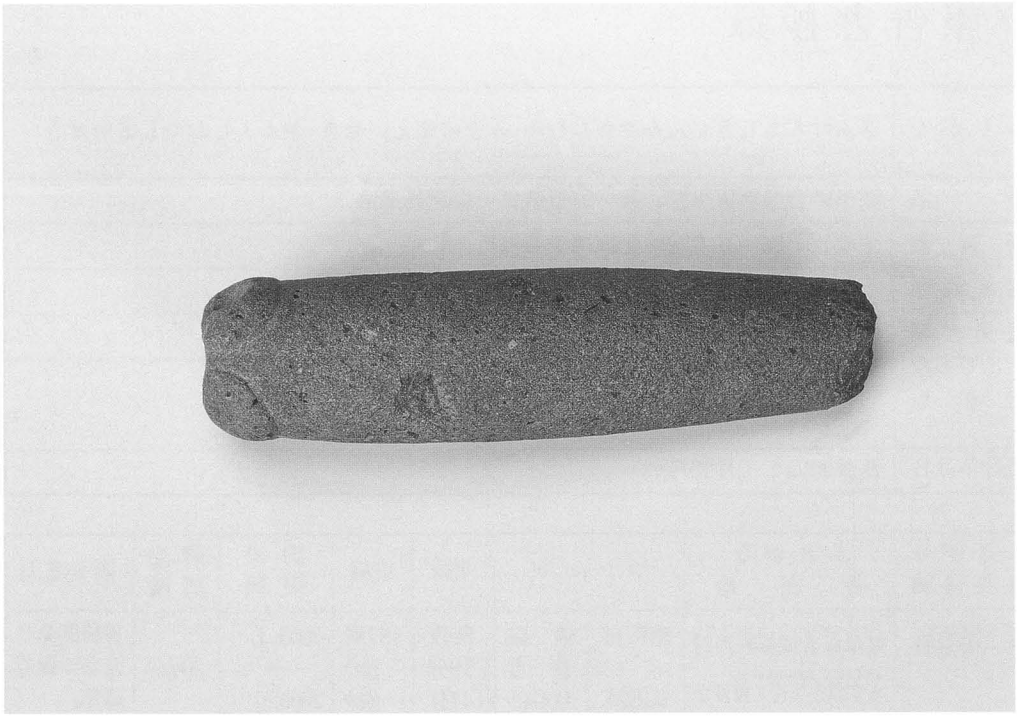
図版 十四

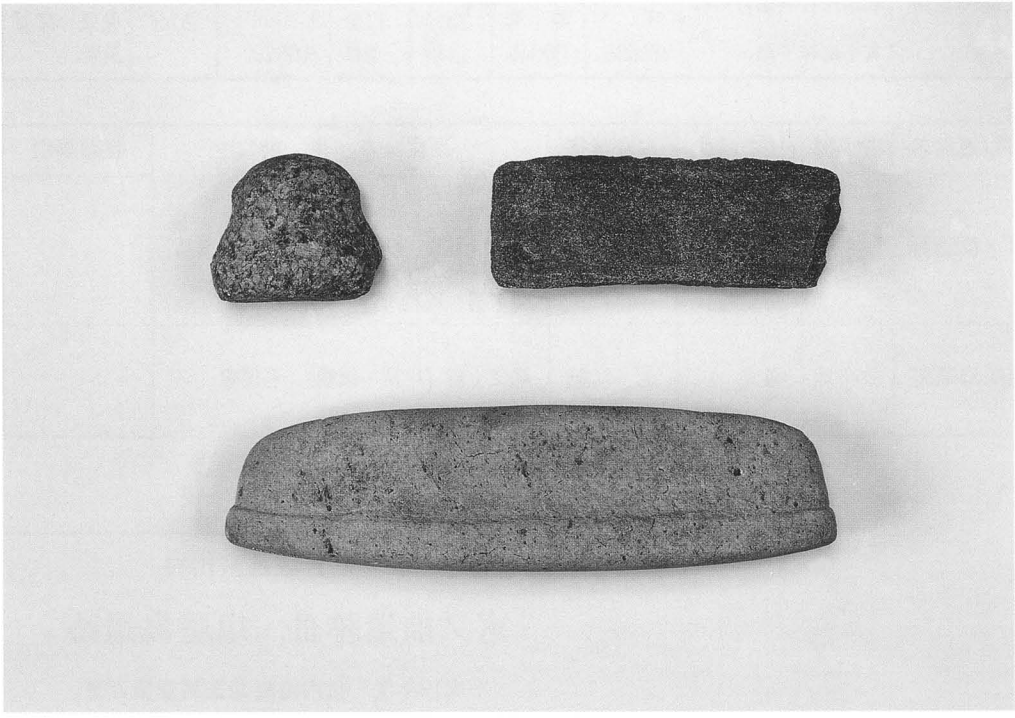




上：石棒
下：石刀

図版 十五





上：異形石棒
下：石冠

報告書抄録

ふりがな	ぎふけんよしきぐんみやがわむら みやのまえいせき さん・しおやしまいせき
書名	岐阜県吉城郡宮川村　宮ノ前遺跡Ⅲ・塩屋島遺跡
副書名	平成12年度　村内遺跡発掘調査報告書
編集者名	小島功、立田佳美
編集機関	宮川村教育委員会　埋蔵文化財調査室
所在地	509-4533　岐阜県吉城郡宮川村大字塩屋100番地 飛騨みやがわ考古民俗館内　TEL 0577-62-3251
発行年月日	西暦2002年３月28日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
宮ノ前遺跡 みやのまえいせき	岐阜県吉城郡宮川村 大字西忍字宮ノ前ほか おおあざにしのびあざみやのまえ	市町村 21624	遺跡番号 00045	36度19分44秒	137度9分8秒	2000. 7. ～ 2000.10.	204㎡	各種開発に先立つ確認調査。
塩屋島遺跡 しおやしまいせき	岐阜県吉城郡宮川村 大字塩屋字島 おおあざしおやあざしま	市町村 21624	遺跡番号 00045	36度23分14秒	137度11分8秒	2000.11. ～ 2000.12.	20㎡	各種開発に先立つ確認調査。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮ノ前遺跡	散布地	旧石器 縄文 弥生 歴史時代	配石遺構 土坑	ナイフ形石器、石刃 縄文土器（早期・前期・中期・後期・晩期）、縄文時代の石器・石製品 弥生土器（前期・中期） 須恵器、灰釉陶器	
塩屋島遺跡	散布地	縄文	土坑	縄文土器（中期・後期）、石器類	

岐阜県吉城郡宮川村

宮ノ前遺跡Ⅲ・塩屋島遺跡

平成12年度　村内遺跡発掘調査報告書

発行者　岐阜県・宮川村教育委員会
発行日　平成14年３月28日
印刷者　㈲村坂印刷